

第一ハ即チ聖書ニ應テキリスト我儕ノ罪ノ爲ニ死云々、加拉一ノ四ニ曰キリストハ我儕ノ父ナル神ノ旨ニ循ヒ今ノ惡キ世ヨリ我儕ヲ救出サントテ我儕ノ罪ノ爲ニ己ガ身ヲ棄給ヘリ、希伯十ノ十二ニ曰然ド此人ハ一次罪ノ爲ニ一ノ犠牲ヲ獻ゲテ窮ナク神ノ右ニ坐シ云々(前彼得三ノ十八、以賽五十三ノ五ヨリ八參考)

凡テ此等ノ本文ニ由テ之ヲ觀ルニ我儕ノ贖主ガ苦難ヲ受ケ且死シタルハ自己ノ罪ノ爲ニ非ズレテ我儕ノ罪ノ爲タルコト明白也、其苦難ハ彼自ラニハ非ズシテ我儕ニ對スル神ノ義怒ノ發現ナリ是故ニ此等ノ本文ニ由テキリストハ我儕罪人ノ代表者トシテ苦難ヲ受ケ且死タルコト明白ナリ

(五) キリストガ我儕ノ罪ヲ負タルコトヲ説ク所アリ
希伯九ノ二十八ニ曰斯クキリストモ多人ノ罪ヲ負ハンガ爲

ニ一次犠牲トセラル、前彼得二ノ二十四ニ曰我儕ノ罪ヲ自ラ己ガ身ニ負給ヘリ是レ我儕ヲシテ罪ニ死テ義ニ生カレメン爲ナリ、又以賽五十三ノ六、十一、十二ニ曰エホバハ我儕凡テノ者ノ不義ヲ彼ノ上ニ置キタマヘリ、我ガ義キ僕ハ其ノ智識ニ由テ多人ヲ義トシ又タ彼等ノ不義ヲ負ハン、彼ハ愆アル者ト同ニ數ヘラレタレバナリ且彼ハ多人ノ罪ヲ負ヘリ

此、罪ヲ負フト云フ語ハ聖經ニ於テ屢人が己ガ罪ノ報ヲ受ルコトノ義ニ用タリ、例ヘバ利未二十四ノ十五ニ凡テ其神ヲ詛フ者ハ其罰ヲ蒙ルベシ(直譯スレバ罪ヲ負フトナリ)ト云ヒ民數記十八ノ二十二ニイスラエルノ子孫ハ重テ集會ノ幕屋ニ近ヅクベカラズ恐クハ罪ヲ負テ死ント云ルガ如シ或ハ又他人ノ愆ニ由テ苦難ヲ受ルノ義ニ用非タル例モ少カラズ、例ヘバ哀歌五ノ七ニ我儕ノ先祖罪ヲ犯シテ死シ而シテ我儕其愆ヲ負ヘリトアルガ

如シ、是レ子孫タル者が先祖ノ愆ノ當然ノ結果トシテ苦難ヲ受タル者ニシテ之ニ由テ先祖ノ罪ガ毫モ減少シタルニハ非ズ、然レモキリストガ我儕ノ罪ヲ負ヘリトアルハ此意義タル能ハズ、キリストハ只其以前ニ生存シテ己ト縁故アル者ノ罪ヲ負タルニ非ズキリストハ「我儕ノ罪ヲ負ヒ」多ノ人ノ罪ヲ負ヒタル也、加之ナラズ既ニ衆タル所ノ本文ニ由テキリストガ我儕ノ罪ヲ負ヒタルハ我儕ガ罪ノ赦ヲ得ルコトニ親密ノ關係アルコト明白也、キリストハ其初臨ノ時ニ於テ我儕ノ罪ヲ負ヒ再臨ノ時ニ於テ凡テ彼ヲ待ツ者ヲ救ハン爲ニ來ル也(希伯九ノ二十八)其鞭扑ニ由テ我儕醫サル、也(前彼得二ノ二十四)然ラバキリストガ我儕ノ罪ヲ負フト云フハ彼自ラ我儕ノ罪ノ重荷ト罰トヲ負ヒ我儕ヲシテ其重荷ト罰トニ免レシムルノ重大ナル意義ヲ含ム者ナリ即チキリストハ我儕ニ代テ其罰ヲ受給フ也

(六) 此ニ二ノ特別ニ注意スベキ本文アリ、後哥林五ノ二十一ニ曰神罪ヲ識ラザル者ヲ我儕ノ代ニ罪人トナセリ、是レ我儕ヲシテ彼ニ在テ神ノ義トナルコトヲ得シメン爲ナリ、又加拉三ノ十三ニ曰キリスト既ニ我儕ノ爲ニ詛ハル、者トナリテ我儕ヲ贖ヒ律法ノ詛ヨリ脱レシメ給ヘリ、此本文ノ要旨ハキリストノ苦難ハ我儕ニ代テ受ケタル苦難タルコトヲ教示スルニアリ、我儕ハ左ノ事ニ注意スベシ(一)更ニ罪ヲ識ラザル者が罪人トセラレ父ノ喜ブ所ノ者が詛ハレタル(二)是レ皆我儕ノ爲ナル(三)不義ナル者が彼ニ由テ神ニ對シテ義ナル者トセラレ且律法ノ詛ノ下ニアリタル者が其詛ヲ脱レシメラレタル(四)我儕ガ此等ノ利福ヲ受ル所以ハキリストガ此ノ如キ者トセラレ此ノ如キ者ト「ナリ」タルガ故ナル事

此ニ由テキリストガ受ケタル所ノ苦難ト我儕ノ脱レタル所ノ

苦難トノ間ニ直接故意ノ關係アルコト明白ナリ即チキリストハ我儕ヲ罪ヨリ救ハンガ爲ニ我儕ノ罪ヲ負ヒタル也
 第六 此ニ由テ之ヲ觀レバ我儕ノ罪ハ即チキリストニ歸セラレタルナリ、歸スルトハ何ノ意義ナルカハ人性論第十六章ニ詳論シタリ、アダムノ罪ガ其子孫ニ歸セラル、ガ如ク我儕ノ罪ハキリストニ歸セラレキリストノ義ハ我儕ニ歸セラル、也、即チキリストハ神ノ律法ノ前ニ在リテ我儕ノ代表者トナリ而テ神バ彼ヲシテ我儕ニ代テ我儕ノ罰ヲ負ハセタリ、又キリストハ我儕ノ代表者トシテ神ノ律法ヲ全ク守リタルガ故ニ其從順ノ利福ヲ我儕ニ與ヘ且キリストノ義ニ由テ我儕ガ實ニ義人タルガ如クニ待遇シ給フト云フ義也、然レモキリストノ我儕ノ間ニ於テ此事ヲ公義タラシムベキ關係アルニ非レバ神ハ公義ニ循テ之ヲ爲ス可能ハズ、而テ其關係ハ即チキリストガ我儕ノ代表者

タル事ニ在テ存スル也、此歸セラル事ハ即チ我儕ノ義トセラル、所以ナリ、之ニ由テ律法ノ要求ハ我儕ノ上ヨリキリストノ上ニ移サル、也、而テキリストハ我儕ニ代テ全ク其要求ヲ満足セシメタレバ我儕ハ律法ノ前ニ在テ全ク其罰ヲ脱レ且神ノ約束ノ後嗣タルコトヲ得ル也(希伯六ノ十七)

今其一例ヲ舉レバ使徒パウロガオ子シモノ事ニ付テ腓利門書ニ記シタル語ニアリ(十八、十九節)曰彼モシ汝ニ不義ヲナシ又汝ニ負債アラバ汝之ヲ我ニ歸セヨ我パウロ手ヅカラ之ヲ書ケリ我必ズ之ヲ償ハン云々、之ヲ察スルニパウロノ意ハオ子シモガ犯シタル罪惡ヲ自ら引受クト云フニハ非ズ、但オ子シモガ爲シタル事ノ報即チオ子シモガ自ら受クベキ報ヲ之ニ代テ受クベシ、オ子シモガピレモンニ對シテ犯シタル罪ハパウロ自ラ之ヲ償ヒ彼ガ爲シタル所ノ負債ハパウロ自ラ之ヲ引受クベシ、而シ

テパウロ既ニオ子シモニ代テ其罪ヲ償ハント約束シタルガ故ニ彼ヲシテ其罪ヲ脱レシムベシトノ意ナリ、我儕ノ罪ガキリストニ歸セラル、ト云フモ即チ此意義ニ外ナラズ、キリストハ我儕ノ罪ノ汚ヲ受ケ而シテ自ラ汚レタル者トナリ其ガ爲ニ罰セラレタルニ非ズ、但キリストハ世ノ審判者タル神ノ認可ヲ得テ凡テ我儕罪人ニ代テ我儕ノ罪ヲ贖ヒタル耳、キリストハ只我儕ノ罰ヲ負テ恰モ自ラ罪アル者ノ如ク待遇セラレタル耳(クハ)ホル下氏聖經贖罪論百八十九丁ヲ見ヨ

我儕ノ罪ガキリストニ歸セラル、コトハ聖經ノ本文ニ由テ明白ナリ

一 キリストノ苦難及ビ死ヲ以テ罪人が義トセラル、ノ理由即チ其罪赦サレ且其神ノ前ニ在テ義人トセラル、ノ理由ナリト明示スル所アリ、羅馬五ノ八ト九ニ曰然トキリストハ我儕ノ

尙罪人タル時我儕ノ爲ニ死給ヘリ、神ハ之ニ由テ其愛ヲ彰ハシ給フ、今其血ニ由テ我儕義トセラレタルバ況シテ彼ニ由テ怒ヨリ救ハル、コナカラシヤ、同書三ノ二十四ヨリ二十六ニ曰只キリストノ贖ニ由テ神ノ恩ヲ受ケ功ナクシテ義トセラル、也、神ハ忍ビテ已往ノ罪ヲ寛容ニナシ給シカド其義ヲ彰ハサントテイエスヲ立テ挽回ノ祭物トナセリ、即チ其血ヲ信ズル者ノ挽回ノ祭物タル也、神ハイエスヲ信ズル者ヲ義トスルトモ尙自ラ義トラン爲ニ今其義ヲ彰ハサントス(後哥林五ノ二十一參考)

義トスルトハ罪ニ定ムルノ反對ニシテ此二ノ語ハ孰レモ只吾人ト神ノ律法トノ關係ニ就テ用ヒラレタリ(羅馬五ノ十八參考)

義トセラル、トハ神ガ審判者トシテキリストノ爲ニ信者ヲ義キ者トシテ受納ル、事ヲ云フ也、故ニ義トセラルト云フ事ノ中ニハ惟罪ヲ赦サル、コトノミナラズ神ノ恩ヲ受ルコトヲモ含ム

也、即チ罪人ヲシテ只律法ノ罰ヲ免レシムルノミナラズ公義ノ報償ヲ受ルノ權ヲモ與ヘラル、也、提多三ノ六ニ曰我儕ヲシテ其恩ニ由リ義トセラレ云々、羅馬五ノ一ト二ニ曰是故ニ我儕信仰ニ由テ義トセラレタレバ神ト和ゴトヲ得タリ、此ハ我が主イエスキリストニ由テナリ、亦我儕彼ニ由リ信仰ニ由テ今居ル所ノ恩ニ入ルコトヲ得且神ノ榮ヲ望テ欣喜ヲナス

二 救主ガ其苦難ヲ豫期シ且之ヲ受ケタル時ノ心情ヲ顯ハス所アリ

(一) キリストハ自ラ甘ンシテ苦難ヲ受タリ、約翰十ノ十七、十八ニ曰吾ガ父我ヲ愛スソハ我再ビ生命ヲ得ンガ爲ニ生命ヲ捐ルガ故ナリ、我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ、我自ラ之ヲ捐ル也、我之ヲ捐ルノ權能アリ亦能ク之ヲ得ルノ權能アリト、イエス其弟子等ニ己ノ苦ヲ受ケ且殺サル、コトヲ預言シタル時ニベテロイエスヲ援止

テ主ヨ宜シカラズ、此事汝ニ來ルマジト曰ケレバイエスハ痛ク之ヲ戒メタリ(馬太十六ノ二十一ヨリ二十三)又其縛ニ就ントスル時弟子ノ一人兵隊ニ抵抗セントシケレバイエスハ靜カニ之ヲ停テ劍ヲ納ヨ父ノ我ニ賜ヒシ杯ヲ我飲ザランヤト云ヘリ(約翰十八ノ十一)

(二) キリストハ己ノ受ントスル苦難ヲ豫メ熟知シタリ、路加十二ノ五十二ニ曰我受ベキノバプテスマアリ、其成遂ラル、迄ハ我痛如何バカリゾヤ、約翰十二ノ二十七ニ曰今我心憂悼メリ何ヲ言ンヤ、父ヨ此時ヨリ我ヲ救給ヘト言ンカ、否之ガ爲ニ我此時ニ至レル也、同十八ノ四ニ曰イエス事ノ己ニ及バントスルヲ悉ク知リ出テ云々

(三) キリストガ己ノ苦難ヲ願ミタル心情ハゲツセマ子ノ痛苦ノ事ヲ記シタル所ニ最モ能ク顯ハレタリ、馬太二十六ノ三十六

ヨリ四十四ニ曰其時イエス彼等ト偕ニゲッセマテト云フ處ニ至テ弟子等ニ曰ケルハ汝等此處ニ居レ、我彼處ニ往テ祈ラン、ペテロ及ビゼベダイノ二人ノ子ヲ携ヘ愛ヘ哀ヲ催シ彼等ニ曰ケルハ我心痛ク愛テ死ルバカリナリ、此處ニ待テ我ト偕ニ目ヲ醒シ居レ、少シ進往テ跪伏シ祈云ケルハ吾父ヨ若シ適ハ、此杯ヲ我ヨリ離チ給ヘ、然ド我心ノ儘ヲ成ントスルニ非ズ、聖旨ニ任セ給ヘ、而テ弟子ニ來リ其寐タルヲ見テペテロニ云ケルハ斯ク一時モ我ト偕ニ目ヲ醒シ居ルコト能ハザル手、惑ニ入ラヌヤウ目ヲ醒シ且祈レ、其靈ニハ願フナレド肉體弱キナリ、二次往テ復祈リ云ケルハ吾父ヨ若レ此杯ヲ飲サデ離ツコト能ハヌバ聖旨ニ任セ給ヘ、來テ又彼等ノ寢タルヲ見ル、是レ彼等ノ目疲レタル也、彼等ヲ離レテ又往キ第三次モ同言ヲ以テ祈レリ、馬可(十四ノ三十三)ニハ甚シク愛ヘ哀ヲ催シトアリ、路加(二十二ノ四十四)ニハ

痛ク哀ミ切ニ祈レリ其汗ハ血ノ滴ノ如ク地ニ落チタリトアリ、此等ノ甚シキ憂又哀ミ、又若シ適ハ、此杯ヲ我ヨリ離チ給ヘト三次迄祈リ給ヘル事ハ只其將ニ受ントシタル肉體上ノ苦難ヲ豫期シタル結果トハ思惟スベカラス、是レ其完全ナル人性ニ悖リ且其後實際從容トシテ其苦難ヲ受タル事ニ反セリ、其他ニモ肉體上ニ於テキリストノ苦難ニ劣ラザル苦難ヲ受テキリストノ顯ハシタル如キ哀ヲ顯ハサザリシ者少カラス、故ニキリストノ此甚シキ哀ニハ必ズヤ他ノ人ノ受タル苦難ヨリモ尙更ニ深奧ナル原因ナカルベカラス、而シテ其原因ハキリストハ我儕ノ罪ヲ負フ者トナレリト云ヒ又エホバハ凡テ我儕ノ愆ヲ彼ニ任セタリトノ本文ニ於テ發見スルニ非レバ知ルコト能ハザル也、至聖至善ナル神ガ姦惡ナル世界ノ罪ヲ其一身ニ負セ神ガ詛ヒタル所又他人ニ在テハ惡マザルヲ得ザル所ノ事ヲ之ニ歸シタリ

トセバ是レ實ニ其甚シキ愛哀ノ原因タルニ堪タル者ナリ、此ノ如キ苦キ杯ヲバキリストノ完全無欠ナル人性ガ厭惡シテ彼ノ悲痛從順ノ意ヲ以テ充滿シタル吾ガ父ヨ若シ適ハ、此杯ヲ我ヨリ離チ給ヘ然ド我心ノ儘ヲ爲サントスルニ非ズ聖旨ニ任セ給ヘト祈リタルコトハ怪ムニ足ラザル也

(四) キリストガ苦難ノ極點ニ達シ十字架上ニ於テ發シタル痛苦ノ號呼モ又其苦難ヲ願ミタル心情ヲ能ク顯ハス者ナリ、馬太二十七ノ四十六ニ曰吾神吾神何ゾ我ヲ捨給フヤト、此苦難モ亦他人ノ苦難トハ一種異ナレルモノナリ、凡テキリストノ苦難ハ其原ヲ探レバ父ノ聖旨ニ至ルモノナリ、約翰十ノ十八ニ曰吾父ヨリ我此命令ヲ受タリ、キリストヲ十字架ニ釘ケタル者ハ唯父ノ手中ニ在テ預メ定メラレタル事ヲ成シタル器械ニ過ズ(行傳四ノ二十七ト二十八參考)信徒ガ暫時神ノ恩顧ヲ失フ時ハ愛愁

ニ堪ズ、然レモ肉體トナリタル神ノ子ガ自ラハ罪ナキ身ヲ以テ罪人ニ代テ肉體上ノ苦難ヲ受ル上ニ父ノ聖顔ヲ掩ハレタル時ノ其心情ハ如何、誰カ敢テ之ヲ想像スベケンヤ、是ヨリ先凡テ弟子等ガ己ヲ捨テ、離散セントスル時ニ就テハ「然ド我一人ニ非ズ何トナレバ父我ト偕ナレバ也」ト云ヒシガ今ハ此安慰サヘモ取ラレタルガ如シ、何トナレバ尙神ニ依頼シテ我が父ト呼ブト雖父ニ捨ラレタル事ヲ言著ハシタレバ也、然レモ如何ニシテ此捨ラレタル事ヲ了解スベキ乎、其業ノ性質ニ於テ唯人ニ窘迫セラル、耳ナラズ其靈魂ガ罪ノ祭物トナレル時ニ其身ニ我儕ノ平和ノ罰ノ負セラレン爲ニ父ニ捨ラル、コトアリシトスルニ非レバ了解スベカラズ、是レ即チ我儕ノ罪ハキリストニ歸セラレタリト云フ所以也

(第七) 此ノ如ク聖經ノ教ニ由バ我儕ノ罪ハキリストニ歸セラ

レキリストハ我儕ニ代テ罰ヲ負ヒ以テ罪ヲ贖ヒタル事明白ナ
リト雖然レ此之ニ由テキリストハ我儕ガ受ベカリシ所ト同一
ノ罰ヲ受タリト云フニ非ズ、例ヘバ我儕ハ永遠ノ罰ヲ受クベカ
リシ者ナリト雖キリストノ受タル罰ハ永遠ノ罰ニ非ズ、キリス
トノ受タル罰ハ神ガ其律法ヲ犯ス者ニ對シテ要求スルノ權理
アル所ノ罰ト同一ノ者ニ非ズト雖然レ此其罰ハ即チ神ガ之ニ
匹敵スル者ト爲シテ受納レ給フ所ノ者ナリ、而シテ神ハ之ヲ爲
スノ十分ノ權理アル者ニシテ其律法ノ目的ヲ成就セシムル事
ニ於テ毫モ相反セザルナリ、蓋其目的ハ即チ己ノ至聖ナルコト
ヲ顯ハシ且己ノ人民ヲシテ愈聖ナラシムルニアレバ也
金錢ノ貸借ニ於テハ貸主ハ只其貸シタル金額ノ返還ヲ要求ス
ルノ權アル耳、而シテ其金額ヲ返還シタル以上ハ借主自ラ之ヲ
爲スモ或ハ他人之ニ代リテ爲スモ法律上ニ於テ最早要求ノ權

ハナキ者ナリ、斯ル場合ニ於テハ慈悲モ赦罪モアルコトナシ、其
負債ヲ償却スレバ直チニ借主ハ自由ヲ得ルノ權アルモノナリ、
然レ此犯罪ノ場合ニ於テハ其罰ハ必ズシモ彼ガ行ヒタル所ノ
惡事ニ同シカラズ、例ヘバ人ヲ毆打スル者アレバ之ヲ罰スルニ
毆打ヲ以テセズ或ハ之ニ罰金ヲ命ジ或ハ之ヲ獄ニ下スコトア
ルベシ、又謀反反逆ノ罪ノ如キハ死ヲ以テ罰スルコトモアラン、
之ヲ要スルニ其罰其罪ニ相當セバ律法ノ要求ハ満足スル者ト
ス
人間ノ法律ニ於テハ罰ヲ受ルニ代人ヲ許サズ、人若シ他人ノ負
債ヲ償却セント欲セバ之ヲ爲スコトヲ得ベシ、然レ此他人ニ代
テ刑罰ヲ受け死スルコトヲ許サズ、然レ此若シ此ノ如キ代人ヲ
許スコトアラバ是レ即チ其罪人ニ對シテハ純乎タル慈悲ノ所
爲タルコト明白ナラン、何トナレバ是ハ彼ニ於テ毫モ要求スル

ノ權理ナキ事ニシテ且其代理ノ功能ハ立法者ノ意志ト代人ト
審判官ノ約束ニ依ル者ナレバ也

キリストガ我儕ニ神ノ律法ノ要求ヲ満足セシメタルハ金錢ノ
貸借ニ關スル事ニ非ズシテ罪[○]即チ神ノ律法ヲ犯シタル事ニ關
スル事ナルガ故ニ

(一) キリストノ苦難ハ至上ノ立法者及ビ審判者ガ我儕ノ受ク
ベキ罰ニ匹敵スル者トシテ受クル所ノ者ト異ナルヲ要セズ、キ
リストノ苦難ト死ハ人罪ノ刑罰ノ主意ヲ全ク成就スルニ足レ
リ而シテ其受苦者ハ即チ不限ノ威光ヲ有スル者ナルガ故ニ其
苦難ト死ノ價值權能ハ全世界ノ罪人が受ヘカリシ所ノ罰ヨリ
モ極テ廣大ナル者ナリ

(二) キリストガ我儕ノ爲ニ神ノ律法ノ要求ヲ満足セシメタル
ハ單純ナル恩惠慈悲ノ所爲ナリ、蓋父タル神ハ墮落セル人類ノ

爲ニ代人ヲ設クルノ義務ナク子タル神ハ自ラ進デ其代人トナ
ルノ義務ナキ者ナリ、凡テ其行爲ノ結果タル利福ハ即チ神ノ無
比靈妙ナル慈愛ノ賜ナリ

(三) 然レ而父ナル神ト子タル神トノ間ニ在テハ子が彼等ノ爲
ニ得ント企圖シタル利福ガ正シク彼等ニ與ヘラル、事ハ公義
ノ事タリキ何トナレバ(甲)是ハ其從順及ビ苦難ノ報賞トシテ約
束セラレタル所ニシテ(丙)其從順及ビ苦難ニ由テ神ノ聖キ律法
ノ要求ハ全ク満足シタレバ也、キリストガ其爲ニ死シタル者ノ
救ハル、ハ彼等ニ對シテハ恩賜ノ事タリト雖キリストニ對シ
テ公義ノ事タリ

(四) キリストノ苦難ノ利福ハ只恩惠ノ契約ニ循テ與ヘラル何
トナレバ救ノ方法ハ即チ此契約ニ由テ立ラレタレバ也、是故ニ
キリストヲ信ゼザレバ義トセラル、者ナシ、夫レ人ハキリスト

ヲ信ズルニ由テ始テ其父ヨリキリストニ與ハラレタル者タル
 ヲ顯ハル、也、約翰六ノ三十七ト四十二曰凡テ父ノ我ニ與ヘシ
 者ハ我ニ來ラン、我ニ來ル者ハ我必ズ之ヲ棄ズ、凡ソ子ヲ見テ之
 ヲ信ズル者ハ永生ヲ得、我復之ヲ末ノ日ニ甦ラスベシ、是レ我ヲ
 遣ハシ、者ノ意ナレバ也、行傳十三ノ三十八、三十九ニ曰然レバ
 人々兄弟ヨ、此人ニ由テ罪ノ赦ノ汝等ニ傳ハレルヲ知レ、汝等モ
 一セノ律法ニ由テ義トセラル、コト能ハザル凡ノ罪モ信ズル
 者ハ皆彼ニ由テ赦サレ義トセラル、也、羅馬十ノ四ニ曰凡テ信
 ズル者ノ義トセラレン爲ニキリストハ律法ノ終トナレリ(以弗
 二ノ八ト九參考)

凡ソキリストヲ信シ福音ノ教ニ循テ彼ヲ己ノ救主ト頼ム者ハ
 即チ己ヲキリストニ托シテ凡テ其救主ノ爲シタル贖罪ノ利福
 ヲ受ル也、キリストノ贖ハ只信者ヲシテ救ハル、コトヲ得ヒシ

ムル耳ナラズ現ニ之ヲ救フ也(ホツヂ氏組織神學第二卷四百七
 十乃至四百七十二丁參考)

第八 此章ノ始ニ於テキリストノ死ハ其生涯ノ完全ナル從順
 ト區別スベカラザル事並ニ其生死相合シテ而シテ神ノ律法ガ
 凡テ其人民ニ對シテ只其罰ノミナラズ其從順ニ就テモ要求ス
 ル所ヲ満足セシムルニ足ル公義ヲ成スコヲ述ベタリ、行爲ノ契
 約ニ由レバ死ハ即チ反逆ノ罰ニシテ生ハ即チ從順ノ報賞ナリ
 トス(人性論第十二章參考)キリスト降世ノ目的ハ只我儕ヲシテ
 死ノ罰ヲ免レシメン爲ノミニ非ズ我儕ヲシテ復ビ神ノ恩寵ニ
 入り且永生ヲ受ケシメンガ爲ナリ、是故ニキリストハ我儕ノ代
 表者トシテ苦ヲ受ケ死スル耳ナラズ我儕ノ代表者トシテ我儕
 ノ犯シタル律法ヲ守ル事モ亦必要ナリ

キリストガ之ヲ行ヒタル事ハ左ノ如キ本文ニ由テ明白ナリ

羅馬五ノ十八、十九ニ曰是故一ノ罪ヨリ罪セラル、コトノ凡ノ人ニ及シ如ク一ノ義ヨリ義トセラレ生命ヲ得ルコトモ凡人ニ及ベリ、夫レ一人ノ逆ニ由テ多ク罪人トセラレシ如ク一人ノ順ニ由テ多ク義トセラルベシ、前哥林十五ノ二十一、二十二ニ曰夫レ人ニ由テ死ルコト出デ人ニ由テ甦ルコト出タリ、アダムニ屬ル凡ノ人ノ死ル如クキリストニ屬ル凡ノ人ハ生クベシ、此等ノ本文ニ由レバアダムトキリストハ我儕ノ代人ニシテアダムノ罪ガ凡テ其代表シタル者ノ上ニ及ビタルガ如クキリストノ贖ノ利福ハ凡テ其代表シタル者ノ上ニ及ブナリ、而シテキリストハ只其苦難ノミナラズ其從順ニ由テモ我儕ヲ救フコトハ上ニ引用シタル羅馬書ノ本文ニ由テ明白ナリ

約翰三ノ十六ニ曰夫レ神ハ其生給ハル獨子ヲ賜フホドニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ、此ハ凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシテ永

生ヲ受シメンガ爲ナリ、加拉四ノ四ト五ニ曰然レモ期既ニ至ルニ及ビ神其子ヲ遣ハシ給ヘリ、彼ハ女ヨリ生レ且律法ノ下ニ服シタリ、是レ律法ノ下ニアル者ヲ贖ヒ我儕ヲシテ子タルコトヲ得シメンガ爲ナリ、以弗五ノ二十五ヨリ二十七ニ曰夫ナル者ヨキリストノ教會ヲ愛シ其爲ニ己ヲ捨給ヒシ如ク汝等モ婦ヲ愛スベシ、彼己ヲ捨シハ水ノ洗ヲ以テ言ニ由テ教會ヲ潔メ之ヲ聖ナル者トセンガ爲ナリ、又點汚ナク皺ナク凡テ此ノ如キ類ナク聖ニシテ瑕ナキ榮アル教會ヲ自ラ己ノ前ニ建ン爲ナリ、此ニ由テ之ヲ觀レバキリストハ只我儕ヲ死ヨリ救フノミナラズ其功ニ由テ我儕ヲ神ノ子輩タラシメ且聖潔ニシテ永生ヲ有スル者タラシムル也(黙示七ノ十四ト十五參考)

其他永生ノ利福ト榮光トヲ以テイエスキリストノ中保ノ行ト關係アル者ト爲ス所ノ本文許多アリ、例ヘバ約翰六ノ四十七ニ

日誠ニ誠ニ我汝等ニ告ン我ヲ信ズル者ハ永生アリ、羅馬五ノ廿、
 二十一ニ曰罪ノ増ス處ニハ恩モ愈増セリ、是レ罪ノ死ヲ以テ宰
 レル如ク恩モ我儕ガ主イエスキリストニ由テ永生ニ至ラセン
 ガ爲ニ義ヲ以テ宰レリ、希伯九ノ十五ニ曰是故ニ彼ハ新約ノ中
 保トナレリ、是レ始ノ契約ノ時ニ犯セル罪ヲ贖フベキ死アルニ
 由テ召レタル者ノ窮ナキ後嗣ノ約束ヲ得ンガ爲ナリ、第一約翰
 五ノ十一ニ曰神ハ窮ナキ生命ヲ以テ我儕ニ賜フ此生命ハ乃チ
 其子ニアリ是レ其證ナリ

第九 キリストノ中保ノ行及ビ苦難ハ唯我儕ヲシテ罪ノ罰ヲ
 脱レシムルノミナラズ我儕ヲ聖潔ナル者トナサン爲ナリ、キリ
 ストノ行ハ唯我儕ヲシテ罪ノ罰ヲ免レシムルノミナラズ罪自
 ラヨリ救出サン爲ナリト云フモ同シ義ナリ、是レ即チ我儕ガ神
 ノ恩惠ニ復シテ神ヲ愛シ之ニ事ヘ且窮ナク之ヲ樂マン爲ニ必

要ナリ

(一) 聖經ノ或本文ニハ神ノ民ガ凡テ原罪ニ由テ失シタル所ノ
 者ヲ全ク回復シタル事ヲ指テキリストノ贖ノ大成トナシ而テ
 其罪ノ罰ヨリ贖ハレタルヲ指テハ此大成ニ達スルノ手段ト
 ナセリ、例ヘバ後哥林五ノ十五ニ曰其凡人ニ代リテ死シハ生
 者ヲシテ以後己ガ爲ナラデ己ニ代リ死テ甦リシ者ノ爲ニ世ヲ
 過サシメントテ也、哥羅一ノ二十一、二十二ニ曰夫レ汝等ハ元惡
 業ヲ行フニ由テ神ニ選リ心ニテ其敵トナレル者ナリシガ神今
 キリストノ肉ノ體ヲ以テ其死ニヨリ汝等ヲシテ己ト和ガセ潔
 ク玷ナク答ナクシテ己ノ前ニ立シメントス、提多二ノ十四ニ曰
 キリスト我儕ノ爲ニ己ノ身ヲ捨給ヘリ、是レ我儕ヲ凡ノ罪ヨリ
 贖出シ且己ノ爲ニ一ノ民ヲ潔メ之ヲシテ熱心ニ善事ヲ行ハシ
 メシ爲ナリ、希伯九ノ十四ニ曰況テ窮ナキ靈ニ由リ瑕ナクシテ

己ヲ神ニ獻ジキリストノ血ハ汝等ニ活神ヲ祭ラセンガ爲死ノ行ヲ去ラシメテ其心ヲ潔ルコトヲセザランヤ、前彼得二ノ二十四ニ曰彼木ノ上ニ懸テ我儕ノ罪ヲ自ラ己ガ身ニ負給ヘリ、是レ我儕ヲシテ罪ニ死テ義ニ生カシメンガ爲ナリ(以弗五ノ二十五ヨリ二十七參考)

(二) 人若シキリストノ中保ハ如何ニシテ我儕ヲ聖潔ニナスヤト問ハ、我儕ハ左ノ如ク答フベシ(第一)我儕キリストノ血ニ由テ贖ハル、ガ故ニキリストニ買ハレタル民トナリキリストニ忠義ヲ盡ス也是即チ彼ノ使徒パウロノ抗辨スベカラザル所ノ議論ナリ(前哥林六ノ十九ト二十)曰汝等ハ汝等ノモノニ非ルコトヲ知ラザルカ、ソハ汝等ハ價ヲ以テ買ハレタル者ナレバナリ、是故ニ神ノ者ナル汝等身ニ於テモ靈魂ニ於テモ神ノ榮ヲ顯ハスベシト(第二)我儕ヘキリストノ血ニ由テ贖ハル、ガ故ニ之ニ

由テ神ノ恩惠及ビキリストノ慈愛、律法ノ權、罪ノ惡ナルコトヲ深ク感ズベシ、而シテ何物カ我儕ヲシテ能ク之ヲ行ハシムル所ノモノアラバ是レ即チ我儕ヲシテ全ク主ニ事テ、凡ノ行ヲ潔クスル志ヲ立テシムルモノ也(前彼得一ノ十五)(第三)キリストノ血ニ由テ贖ハル、ガ故ニ我儕ハ聖靈ノ賜ヲ受ルナリ、聖靈ハ即チ我儕ノ救主イエスキリストニ由テ豊カニ我儕ノ上ニ注ガレ(提多三ノ七)其感化ニ由テ我儕ハ全ク神ノ像ニ改マリ愈罪ニ死シテ義ニ生ル者トナルナリ(羅馬六ノ二ト六、以弗四ノ二十三、二十四)

此キリストノ血ニ由ル贖ニ於テ人ヲ聖潔ニスルノ能力アル事ハ真正ナル信徒ノ心術行狀ニ由テモ顯ハル、也、其眞實ナル事ハ此世ニ於テモ彼等ガ恩惠ニ成長スル程度ニ隨テ顯ハルト雖來世ニ於テハ最モ明白ニ顯ハルベシ、其時ニ至テハ今彼等ノ免

レガタキ所ノ諸ノ荏弱瓊瑣邪慾ハ全ク去リテ汚ナク歡ビテ其
 榮光ノ前ニ立ツベシ(猶太二十四)信徒ノ聖潔ハ毫モ其救拯ノ手
 段ヲラズト雖其最モ貴キ原素ノ一部分ナリ
 第十 キリストノ中保ノ行ハ完全ナリ即チ神ガ之ニ由テ成就
 セント企圖シ給ヘル所即チ其人民ノ救ヲ成就スルニ足レリ、然
 ノミナラズ、現ニ彼等ヲ救ヒ再ビ之ヲ爲スヲ要セズ、且何モ之ニ
 加ラルコトヲ要セズ、又之ヲ妨ルコト能ハザル也、希伯九ノ二十五、
 二十六ニ曰彼ハ祭司ノ長ノ年毎ニ他ノ物ノ血ヲ以テ聖所ニ入
 ル如ク屢々己ヲ獻ルコトヲセズ、若シ然ラズバ彼ハ世ノ始ヨリ
 以來屢々苦難ヲ受クベキ也、然レバ己ヲ犠牲トシテ罪ヲ除カン
 ガ爲ニ今世ノ季ニ一次顯ハレタリ、哥羅二ノ十ニ曰汝等彼ニ在
 テ全備スルコトヲ得ル也、希伯七ノ二十五ニ曰是故ニ彼ハ己ニ
 由テ神ニ來ル者ノ爲ニ執成ントテ恒ニ生レバ彼等ヲ全ク救ヒ

得ル也

キリストノ中保ノ行ハ其人民ノ救ノ爲ニ完全ナル事ハ左ノ事
 項ニ由テ顯ヘル、也

(一) キリストノ中保ノ行ハ凡テ其人民ノ彼ニ來ルコトヲ固定
 ス、約翰六ノ三十七ニ曰凡テ父ノ我ニ賜ヘシ者ハ我ニ來ラン、我
 ニ來ル者ハ我必ズ之ヲ棄ズ

(二) キリストノ中保ノ行ハ彼等ノ誘惑セラル、ニ拘ハラズ尙
 其保存セラル、コトヲ固定ス約翰十ノ二十八ニ曰我彼等ニ永
 生ヲ與フ、彼等イツマデモ亡セズ亦之ヲ我手ヨリ奪フ者ナシ

(三) キリストノ中保ノ行ハ終ノ節ニ述タルガ如ク彼等ニ聖靈
 ノ賜ヲ得セシム、即チ聖靈ハキリストガ其爲ニ死シタル所ノ者
 ニ凡テ其利福ヲ受シム、其利福トハ彼等ヲ重生セシメ彼等ヲ教
 訓シ聖潔ニシ且終ニ天國ノ生命ニ至ラシムル事ナリ、提多三ノ

五ヨリ七ニ曰彼我儕ガ行シ所ノ義キ功ニ由ラズ、唯其矜恤ニ循
 七重生ノ洗ト聖靈ニ由テ新ニスル事トヲ以テ我儕ヲ救ヘリ、聖
 靈ハ即チ神我儕ヲシテ其恩ニヨリ義トセラレ嗣子タルヲ得テ
 窮ナキ生ヲ望ミ待シメン爲ニ我儕ノ救主イエスキリストニ由
 テ豊カニ我儕ノ上ニ注ギ給ヘル所ノ者也、約翰十四ノ二十六ニ
 曰我が名ニ由テ父ノ遣ハサントスル訓慰師即チ聖靈ハ凡ノ事
 ヲ汝等ニ教ヘ亦我が凡テ汝等ニ言シコトヲ汝等ニ憶起サシム
 ベシ

(四) 實ニ凡テ其人民ノ救ニ必要ナル者ハキリストノ中保ノ行
 ニ由テ固定セラル、也、羅馬八ノ卅二ニ曰己ノ子ヲ惜マズシテ
 我儕衆ノ爲ニ之ヲ付セル者豈彼ニ併ヘテ萬物ヲモ我儕ニ賜ハ
 ザランヤ、腓立四ノ十九ニ曰夫レ我が神ハ己ノ富ニ從テキリス
 トイエスキリストニヨリ榮光ヲ以テ汝等ノ乏キ處ヲ補ヒ給ハン

然レバ此重大ナル事ヲ明瞭ニセンガ爲ニ救ノ購買ト其適用ト
 ヲ區別シテ論ズルモ可ナリト雖其實此二者ハ分離スベカラザ
 ル者ナリ、蓋キリストノ行ニ由テ其人民ハ唯救ヲ受ルコトヲ得
 ルノミナラズ實ニ救ヲ受ル也、救ヲ受ル事ニ於テハ罪人ノ信仰
 モ功ナキ者ナリ、其救ヲ受ルハ唯一ニ主イエスキリストノ行ニ
 由ル也、羅馬六ノ二十三ニ曰罪ノ價ハ死ナリ、神ノ賜ハ我儕ノ主
 イエスキリストニ於テ賜ハル永生ナリ、希伯九ノ十五ニ曰是故
 ニ彼ハ新約ノ中保トナレリ、是レ始ノ契約ノ時ニ犯セル罪ヲ贖
 フベキ死アルニ由テ召サレタル者、窮ナキ世嗣ノ約束ヲ得ン
 ガ爲ナリ

第十一 キリストノ贖罪ノ利福ハ福音ニ於テ凡ノ人ニ自由ニ
 與ヘラル、約束アリ、是レ聖經ノ本文ニ由テ明白ナリ

(一) キリストヲ以テ獨一ノ救主トスル所アリ、約翰十四ノ六ニ

曰我ハ途ナリ眞ナリ生命ナリ、人モシ我ニ由ラザレバ父ノ所ニ往クコト能ハズ、行傳四ノ十二ニ曰此外別ニ救アルコトナシ、ソハ天下ノ人ノ中ニ我儕ノ依頼シテ救ハルベキ他ノ名ヲ賜ハザレバ也、前哥林三ノ十一ニ曰ッハ置給ヒシ基礎ノ外ニ誰モ基礎ヲ置ルコト能ハザレバ也、此基礎ハ即チイエスキリストナリ、前提二ノ五、六ニ曰夫レ神ハ一位ナリ、又神ト人トノ間ニ一位ノ中保アリ即チ人ナルキリストイエスナリ、彼萬人ニ代リ己ヲ棄テ贖トナセリ

(二) 此福音ノ招ハ凡ノ人ニ及ブト説ク所アリ、馬太十一ノ二十八ニ曰凡テ勞レタル者又重キヲ負ヘル者ハ我ニ來レ、我汝等ヲ息マセン、馬可十六ノ十五ニ曰徧ク世界ヲ廻リテ凡ノ人ニ福音ヲ宣傳ヘヨ、約翰三ノ十六、十七ニ曰ッレ神ハ其生給ヘル獨子ヲ賜フ程ニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ、此ハ凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコ

トナクシテ永生ヲ受シメンガ爲ナリ、神ノ其子ヲ世ニ遣ハシ給ヘルハ世ノ罪ヲ定ントニ非ズ、彼ニ由テ世ヲ救ハンガ爲ナリ、約翰六ノ三十七ニ曰凡テ父ノ我ニ賜ヘシ者ハ我ニ來ラン、我ニ來ル者ハ我必ズ之ヲ棄ズ、同七ノ三十七ニ曰人モシ渴カバ我ニ來テ飲メ、默示二十一ノ六ニ曰渴者ニハ價ナシニ生命ノ水ノ源ニテ飲ムコトヲ許サン、同二十二ノ十七ニ曰靈ト新婦ト云フ來レト之ヲ聞ク者モ來レト云ヘ、渴者ハ來ルベシ、願フ者ハ價ナシニ生命ノ水ヲ飲ムベシ

福音ノ招ハ一方ヨリ見レバ制限アリ、即チ彼等ハ唯キリストニ由テ與ヘラル、者ナリ、然レモ他ノ一方ヨリ見レバ制限ナキ者ナリ即チ此約束ハ貴賤貧富ノ別ナク萬國萬民ニ及ブ者ナリ、人或ハ贖ハレタル者ハ聖經ニ於テ「彼ノ中ニ選バレシ者」又ハ「彼ニ與ヘラレシ者」ト稱セラル、ニ非ズヤト云ン乎、我儕答テ曰眞ニ

然リ、彼等ハ世ノ基ヲ置ザリシ先ヨリキリストノ中ニ選バレタル者ナリトス(以弗一ノ四)凡テ其他ノ事ニ於ル如ク神ノ永遠ノ目的トキリストノ贖トノ關係ハ秘義ニシテ知ル可ラズ、凡テ神ノ永遠ノ目的ニ就テ聖經ニ教フル所ハ我儕之ヲ信ズベシ、然レ而神ノ聖キ事ノ秘義ノ爲ニ既ニ明白ニ啓示セラレタル事ヨリ思想ヲ轉ズ可ラズ、我儕ハ神ノ秘義ナル目的ニ由テ我が身ヲ處スルコト能ハズ、但其啓示セラレタル聖旨ニ由テ處スベキ也、福音ノ招ハ天下萬民ニ及ブコトハ明々白々也、而テ誰モ其招ヲ受ル前ニ當テ我ハ即チキリストニ與ヘラレタル者ノ一人ト思惟スベキ權理ナク又道理ナキガ如ク誰モ我ハ其一人ニ非ズト思惟シテ失望スルノ權理ナク又道理ナキ者ナリ、誰モ福音ノ招ヲ受ル前ニ當テ其果シテキリストノ中ニ選バレシヤ否ヤヲ知ル能ハズト雖人皆キリストニ來ルベシトノ招アリ、且惟其招アルノミ

ナラズ來ルコトヲ勸メラレ且命セラレ、コトヲ知ルベシ、而テ其約束ハ眞實ニシテ且明白ナリ曰我ニ來ル者ハ我必ズ之ヲ棄ズト

第十四章 諸説

我儕ハ既ニ復和ノ事ニ關シテ聖經ノ教ヲ陳述シタレバ是ヨリキリストノ苦難ト死ニ關スル重ナル諸説ヲ略述シ以テ前説ヲ固定セン

第一 致命説 此説ハ昔時ツシニアン派ノ學者等ノ説ニ基ル者ニシテキリストノ苦難ハ唯義ノ爲ニ受タル苦難ニシテ其我儕ノ爲又我儕ノ罪ノ爲ニ之ヲ受タリト云フハ唯福音ノ眞理ナルコトヲ証明スルノ意ニ過ズ、而テ我儕ハ其眞理ニ由テ始テ神ハ甘心シテ罪ヲ赦スコトヲ確知シ且之ヲ確信シテ遂ニ罪ヲ棄ルニ至ルナリトス

我儕答テ曰キリストハ實ニ義ノ爲ニ生命ヲ捐タル者ニシテ聖
 經中ニモ罕ニ之ヲ説ケリ(前提摩六ノ十三、希伯十二ノ一ト二參
 考)然レモキリストト同時代及ビ其直後ノ人々ハキリストノ苦
 難ニ由テ福音ノ真理ナルコトヲ確知セザリシコト明白ナリ、之
 ニ反シテ前哥林一ノ二十三ニパウロハ十字架ノ道ハユダヤ人
 ニハ賤ク者ギリシヤ人ニハ愚ナル者ナリト云ヘリ
 加之ノミナラズキリストノ外ニモキリスト教ノ爲ニ生命ヲ捐
 タル者アリ、然レモキリストノ死ニ就テ聖經ニ用井タル語ヲ以
 テ彼等ノ死ニ適用シタルコトナシ、例ヘバキリストニ就テハ彼ハ
 我儕ノ罪ノ爲ニ解サレタリト云ヒ(羅馬四ノ二十五)義者不義者
 ノ爲ニ苦難ヲ受タリト云ヒ(前彼得三ノ十八)又我儕ハ彼ノ血ニ
 由テ贖ハルト云ヘリ(以弗一ノ七)是ニ由テ之ヲ觀レバキリスト
 ハ唯道ノ爲ニ生命ヲ捐タル者ニ非ルコト明白ナリ

且福音ノ真理ナル事ハキリストノ苦難及ビ死ノミナラズ其教
 訓、預言、奇跡及ビ聖ナル言行ニ由テ証明セラル、ナリ、然レモ聖
 經ニ於テ特ニキリストノ死ハ我儕ニ罪ノ赦及ビ其他ノ福音ノ
 恩恵ヲ得セシムルノ能力アリ且直接ノ方法タルコトヲ説ケリ、
 然レモ此説ハ此事實ニ符合セザル也

第二 又昔時ノソシニアン派ノ説ニ曰キリストノ死ハ唯其復
 活ニ必要ナル豫備タルノ効能ヲ有スルニ過ズト、而レテ復活ヲ
 以テキリストノ行中ノ最大ノ事トナス、何トナレバキリストノ
 復活ハ即チ未來ノ世界アル確証ニシテ此實事ハ最モ人ヲシテ
 罪ヲ棄且眞實ニ罪ヲ悔テ其赦ヲ得ルコトヲ求メシムル者ナレ
 バ也ト云ヘリ
 然レモ是レ全ク聖經ノ明白ナル教ニ反對セル説ナリトス、何ト
 ナレバ聖經ハ常ニ罪人ノ挽回ハ神ノ恩恵ニ由リ永生ノ冀望ハ

キリストノ復活ニ非ズシテ其死ニ因ル者トナセバ也
 且キリストノ死ハ唯其復活センガ爲ナリトセバ何故ニ此ノ如ク苛酷侮辱ノ死ナリシヤ、又キリストハ河故ニ此ノ如キ痛苦ヲ受タルヤ解スベカラズ
 且キリストハ罪人ノ代表者トシテ彼等ニ代テ死シタルニ非ズトセバ其死ハラザロ若クハヤイロノ娘若クハナインノ寡婦ノ子ノ死ヨリモ効能アル者ニ非ズ
 キリストノ復活ハ其行ノ一大事タリシヲ論ヲ俟ズ然レモ其緊要ナル所以ハ(第一)キリストガ我儕ノ贖罪ノ爲ニ獻ケタル大犠牲ノ受納ラレタルヲ証シ(第二)凡テキリストヲ信ズル者ハ必ズ死ヨリ甦テ永生ニ至ルノ證據トナルガ故ナリ
 第三 又此ニ一種ノ説アリ、曰キリストノ苦難ト死ハ唯吾人ノ摸範タルニ過ズ、即チキリストハ己ノ苦難ト死トニ由リテ其人

民ノ將ニ受ントスル苦難ヲ示シ且之ヲ負フベキ方法ヲ教ヘタルナリト

實ニキリストノ苦難ヲ受タルコトハ我儕ノ摸範タル效ナキニ非ズ、例ヘハ前彼得二ノ二十ト二十一ニ曰汝等若シ過ヲナシ捷レテ之ヲ忍ブトモ何ノ賞ムベキ事ナランヤ、然ト若シ善ヲ爲シ苦メラレテ之ヲ忍ハ、神ニ譽ヲ得ベシ、汝等ノ召サレタルハ之ガ爲ナリソハキリスト汝等ノ爲ニ苦難ヲ受ケ汝等ヲシテ己ノ跡ニ隨ハンメントテ摸範ヲ汝等ニ遺シ給ヘバ也ト(希伯十二ノ十三參考)然レモ是ハキリストノ苦難ハ我儕ノ罪ニ對スル神ノ律法ト公義トノ要求ヲ満足セシメタル事ナリトノ事實ニ反對セズ、實ニキリストノ苦難ハ若シ神ニ受納ラレ嘉セラレ、所ノモノ、完全ナル摸範タルニ非レバ此ノ如キ満足ヲ與フルコト能ハザルベシ、而テ上ニ舉タル本文ニ於テモキリストノ苦難ハ單

ニ若クハ首トシテ我儕ニ摸範ヲ示サン爲ナリトノ教之ナキ也、之ニ反シテキリストノ死ノ大目的ハ衆人ノ罪ヲ贖ハンガ爲、其血ニ由テ我儕ヲ神ニ復和セシメンガ爲、己ガ身ヲ犠牲トナシテ罪ヲ除カンガ爲ナリト教フル所ノ本文ハ數多之アル也
 且キリストノ苦難ヲ以テ我儕ノ摸範トナシタル明文ニ於テモ其贖罪ノ能力アルコトヲ明示セリ、例ヘバ前彼得二ノ二十ヨリ二十四ノ如シ、此本文ニ於テ使徒ベテロハ屢々キリストノ苦難ハ代贖及ビ挽回的ノ性質アルコトヲ説ケリ、察スルニベテロハキリストハ我儕ノ摸範ナリト雖唯摸範ノミニ非ルコトヲ示サント欲シタル也(前彼得三ノ十七、十八參考)
 若シキリストノ苦難ニハ此代贖及ビ挽回的ノ性質アル事ヲ記臆スルニ非レバ其完全ナル摸範タル事ヲ示ス能ハザルベシ又キリストガ此苦難ヲ受タル時ノ靈魂上ノ苦痛ヲ了解スルヲ能

ハズ、蓋此苦痛ハ數多ノ拘敬者ガ形體上ニ於テハキリストト同様ノ苦難ヲ受テ毫モ意トセザリシ時ノ極喜ノ情トハ大ニ異ナレルモノナリ
 第四 又一説ヲ唱フル者アリ曰キリストガ肉體ヲ取レル神トナリテ世ニ降リタルハ其性質及ビ行狀ニ於テ教理ヲ以テハ顯ハシ難キ所ノ無形ノ神ヲ顯ハサンガ爲ナリ、キリストノ降世シタル大目的ハ吾人ニ神ヲ顯ハサン爲ナリ、即チキリストハ凡テ其愛ノ行ニ於テ受タル所ノ諸種ノ艱難侮辱ニモ拘ハラズ常ニ慈善ノ行ヲ爲シ恩惠ノ語ヲ述ベ悲ム者ハ之ヲ慰メ哀レナル者ハ之ヲ憐ミ過レル者ハ之ヲ正シ迷ヘル者ハ之ヲ歸ラシメ罪ヲ悔テ歸ル者ハ歡テ之ヲ迎ヘ此ノ如ク大愛大慈ヲ以テ我儕ニ對スル父ノ慈愛ヲ顯ハシタル也ト
 此説ニ於テハ大ニ貴重スベキ所ノ者ナキニ非ズ、然レモ未ダ以

テキリストノ苦難ニ關スル完全ノ説トナスベカラズ、我儕ハ唯
 其慈悲愛憐ノ顯現ノミニ心ヲ留ルコト能ハズ、我儕ハ神ノ預定ニ
 由テキリストノ受タル所ノ侮辱苦難ノ理由ヲ尋究セザルヲ得
 ズ、而シテ其理由ハ此等ノ苦難ヲ以テ吾人ノ贖罪ニ就テ特別ノ
 効能アル者トナス所ノ聖經ノ本文ニ於テ之ヲ發見スル也、且キ
 リストノ苦難ハ其物ノミニ由テハ吾人ニ神ヲ顯ハスコト能ハズ、
 其苦難ニ於テ我儕ノ罪ノ赦ヲ明示スルノ効能アルニ非レバ我
 儕ハ之ヲ以テ天父ノ我儕ヲ愛シ給フ證據トナスコト能ハザル
 也

第五 又之ト類似ノ一説アリ曰キリストノ中保ノ行ハ只神ノ
 慈愛ノ顯現ニ過ズ、即チキリストノ己ヲ卑シ苦難ヲ受タルハ人
 類ガ神ノ恩恵交親ニ復スル障礙物ヲ取除カン爲ニ非ズ、但其神
 ヲ慈父ト信ズルニ於テ毫モ障礙ナキコトヲ示シ且之ヲ信ゼシ

メンガ爲ナリト、答テ曰聖經ノ教ニ由ルモ之ハ人ノ意識ニ由ル
 モ罪人ハ必ズ神ノ罰ヲ受クベキ者ニシテ是レ即チ其神ト復和
 スルノ大障礙物タルコトヲ識ル也、然レ而此説ヲ主張スル者ハ
 此事實ヲ許諾セザル也

キリストノ卑謙及ビ苦難ハ神ノ慈愛ヲ顯ハサン爲ナルヲ論ヲ
 俟ズ、然レ而唯其慈愛ヲ顯ハスニ止リテ神ノ聖ナル律法ノ要求
 ヲ満足スル事ニ關係ナシトノ説ハ全ク聖經ノ教ニ合ハザル者
 ナリ、キリストハ我儕ノ罪ノ爲ニ死タリト云ヒ我儕ノ罪ヲ負ヒ
 タリト云ヒ罪ノ赦ノ爲ニ血ヲ流シタリト云ヒ多ノ人ニ代リ其
 ノ贖トナラン爲ニ生命ヲ捐タリト云ヒ自ラ律法ノ咀トナリテ
 我儕ヲ律法ノ咀ヨリ救ヒタリト云フ如キ本文ニ由テモキリス
 トノ苦難ノ大目的ハ我儕ヲシテ我が罪ノ結果ヲ脱レシメン爲
 ナル事明白ナリ、特別ニ左ノ本文ニ注意スベシ、約翰三ノ十六ニ

曰ソレ神ハ其生給ヘル獨子ヲ賜フ程ニ世ノ人ヲ愛シ給ヘリ、此ハ凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡ルコトナクシテ永生ヲ受シメン爲ナリ、羅馬五ノ八、九ニ曰然ドキリストハ我儕ノ尙罪人タル時我儕ノ爲ニ死給ヘリ、神ハ之ニ由テ其愛ヲ顯ハシ給フ、今其血ニ由テ我儕義トセラレタレバ况テ彼ニ由テ怒ヨリ救ハル、コナカラシ乎、第一約翰四ノ十二曰我儕神ヲ愛スルニ非ズ神我儕ヲ愛シ我儕ノ罪ノ爲ニ其子ヲ遣ハシテ挽回ノ祭物トセリ、是レ即チ愛ナリト、此等ノ本文ハキリストノ苦難ハ即チ神ノ愛ヲ顯ハスコトヲ明示スト雖其苦難ノ目的ヲモ明示スル也

此說ハ聖經ノ教ニ合ハザルノミナラズ道理ニモ相反セリ、蓋キリストノ卑謙苦難及ビ死ハ其行ニ欠クベカラザル事トシテ要求セラレタル也、而テ若シ其苦難ニハ吾人ニ神ノ愛ヲ顯ハスノ外目的ナシトセバ其苦難ハ人ノ心ニ神ノ愛ヲ感ゼシムルコト

能ハザル也、然レモ其大目的ハ吾人ノ犯シタル神ノ律法ノ要求ヲ満足セシメンガ爲ニシテ神ハ義キ者ニシテ又信ズル者ヲ義トスル者ナルコトヲ顯ハスニアリトセバ我儕ハ此目的ノ成就ニ於テ神ノ無限無量ノ大愛ノ顯現ヲ見ルコトヲ得ル也、キリストノ苦難ハ我儕ノ天父ガ他ノ方法ヲ以テハ其公義眞實及ビ律法政治ニ對シテ與フルヲ可トシ給ハザリシ所ノ靈ナル恩惠ヲ我儕ニ得セシムルノ方法ナリトセバ我儕ハ其苦難ニ於テ古今未曾有ノ大愛ノ顯現ヲ見ルヲ得ル也

第六 又此ニ一說アリ曰キリストハ神ノ永選ナル子ニ非ズ、但受造物中ノ至上至尊ナル者ニシテ罪アル人類ヲ愛憐スルノ心ヨリ之ガ爲ニ中保トナリ自ラ爲シタル行ト神ノ命ニ從テ受タル苦難トノ報賞トシテ其復活ノ後凡テ罪ヲ悔改ル者ハ其受ベキ刑罰ヨリ救出スノ權能ヲ受タルナリト、此說ニ由レバキリス

トノ死ハ神ノ公義ヲ満足セシメシ爲ニ非ズ、我儕ニ代テ罪ヲ贖
ハシ爲ニモ非ズ、唯終迄神ノ命令ニ全ク從ヒタル報賞トシテ罪
ノ結果タル災害ヲ除去シ且凡テ眞實ニ罪ヲ悔改ル者ニハ罪ノ
救ト神ノ恩恵ト永生ノ冀望トヲ與フルノ權能ヲ得ン爲ノミト
ス
我儕此說ニ答フルコト左ノ如シ

(一) 此說ハキリストノ「ペルソナ」ニ就テアリアン派ノ說ヲ含ム
者即チキリストノ完全ナル神性ヲ拒ム者ナリ

(二) 此說ハ聖經ノ教理ヲ十分ニ解セザル者ナリ、實ニ聖經中ニ
此說ニ由テ解明シ得ベキ所ナキニ非ズ、例ヘバ行傳五ノ三十一
ノ如シ曰神ハ之ヲ君トシ救主トシテ其右ノ方ニ坐グ是レイス
ラエルニ悔改ト罪ノ救ヲ予ンガ爲ナリ(約翰十七ノ二參考)然レ
モ此說ニ由テ解明スベカラザル本文許多アリ、即チ凡テキリス

トノ死ヲ以テ直接ニ我儕ノ贖罪ノ方法トナス所又キリストハ
罪ノ救ノ爲ニ其血ヲ流シタリト云フ所又キリストハ我儕ヲ神
ニ歸ラシメンガ爲ニ義者ニシテ不義者ノ爲ニ苦ヲ受タリト云
フ所又キリストハ世人ノ罪ヲ除カンガ爲ニ己ノ身ヲ犠牲トナ
シタリト云フ所等ノ如シ(馬太二十六ノ二十八、前彼得三ノ十八、
希伯九ノ二十六、並十ノ十五參考)

(三) 此說ハキリストノ苦難ト死ニ就テ十分ノ理由ヲ示サズ、何
トナレバ此說ハ其苦難ト死ハ唯其從順ノ完全ナリシコトヲ証
スルニ止ルトスル者ノ如シ、然レモ果シテ然ラバキリストハ己
ノ生命ヲ犠牲トセズシテ之ヲ証明シ且其人民ヲ救フノ權能ヲ
買フコトヲ得タルベシ

(四) 加之ノミナラズ此說ハ神ノ公義ト慈悲トヲ蔑如スル者ナ
リ、何トナレバ此說ニ由レバ神ハ十分ナル贖罪アルガ故ニハ非

ズシテ唯受造者タル中保ノ勸告ニ由テ其津法ト公義ノ要求ヲ
 棄テ而テ罪ノ刑罰ヲ行ハザル者トスレバ也、且此説ハ神ノ慈悲
 ヲ蔑如スル者ナリ、何トナレバ此説ニ由レバ神ハ己ヨリモ一層慈
 悲アル者ノ勸告ニ由テ始テ慈悲ヲ施ス者トスレバ也、然レモ是
 レ全ク聖經ノ教ニ相反セリ(約翰三ノ十六、第一約翰四ノ十参考)
 第七 モウリス氏ノ説

(我儕ハ此ニ此説ヲ詳カニ叙述シ又之ニ答フルノ紙幅ナシ、左ニ
 掲グル所ハ只其要點ニ過ズ)

俗此説ニ由レバキリストハ神ナレモ獨一無二ノ完全ナル人ニ
 シテ常ニ人タリシナリ、人類ノ元ハアダムニ非ズキリストナリ、
 神ノ子ガ中保ノ任ヲ負フハ人ノ墮落ニ因テ此ノ如キ神ノ恩恵
 ノ道ノ必要ニナリタルガ故ニ非ズ、但本來神ト人トニ對シテ此
 ノ如キ關係アルガ故ナリ、キリストハ肉體トナリテ己ト人類ノ

間ニ常ニ存セシ所ノ同一ヲ顯ハシ且人性至上ノ完全ヲ顯ハシ
 タリ、凡テ人類ハキリストノ中保ノ利福ヲ共享ス、何トナレバ彼
 等ハ此意義ニ於テキリストニ在テ一體タレバ也、彼等ハキリス
 トニ在テ贖ハレ更生セラレ義トセラレ神ノ子贖後嗣トセラル、
 而シテ是ハ彼等ガキリストヲ信ズルト信ゼザルニハ毫モ關係
 ナキコトナリ、蓋彼等ハ既ニキリストト一體タリ、而シテ彼等ガ
 信ズル時ハ唯此一體タルコトヲ確知シ且既ニ己ニ屬スル所ノ
 利福ヲ正シク受ルノ結果アル耳

固ヨリ此説ニ由レバキリストノ死ハ贖罪ノ爲ニ必要ナル者ニ
 非ズ、モウリス氏自ラキリストノ死ハ犧牲ナレモ贖罪ノ犧牲ニ
 非ルヲ許容セリ、氏ノ説ニ由レバキリストノ苦難ト死ハ其靈
 魂身體共ニ全ク之ヲ神ニ獻ゲタルコトヲ顯ハサンガ爲即チ凡
 テ智慧アル受造物ガ造物主ニ對シテ致スベキ自ラヲ犧牲トス

ル事ノ大模範タラシク爲ナリトス、モウリス氏ノ此議論ハ我儕
 ノ既ニ模範説トシテ論ジタル所ト大同小異ナル耳(第三説對照)
 彼ノ説ニ就テ既ニ論ジタル所ニ尙一言ヲ加フレバ唯自ラヲ犧
 牲トナス事ハ必ズシモ善行ナリト云フベカラズ、何カ之ニ智且
 善ナル目的アルニ非レバ無用ニ屬ス、キリストノ死ハ罪ノ罰ヨ
 リ人ヲ救ハンガ爲ニシテキリストハ此目的ヲ達センガ爲ニ罪
 人ニ代テ死シタルコトヲ思ヘバ實ニ其死ノ大犠牲タリシコト
 ヲ知ルベシ、然レモ是レモウリス氏ノ説ニ非ズ、氏曰キリストハ
 凡テ人類ノ罪ト凡テ其患難ノ根元タル自己ノ意志ヲ全ク神ニ
 獻ゲタリト、然レモキリストハ此ノ如キ犠牲ヲ獻ルコトヲ要セ
 ズ、何トナレバキリストハ元來至聖至善ニシテ其中ニ於テ人類
 罪惡ノ根元ハ存セザレバ也、人ガ邪欲ヲ棄ルコトヲ指シテ自ラ
 ヲ犠牲トスルト云フ如キ事ハキリストニ於テ其必要ナク又理

ニ於テアルベカラザル事ナリ、故ニ此事ニ就テハキリストハ我
 儕ノ模範ニ非ズ
 然レモ此説ハ惟ニ贖罪ノ必要ヲ拒ムノミナラズキリストガ苦
 難ヲ受タルハ吾人ニ代テ之ヲ受タルニ非ズ、吾人ト同一體トシ
 テ受タル也トシ且キリストハ墮落シタル人類ノ凡ノ罪惡患難
 ヲ體恤シ自ラ之ヲ感シ之ガ爲ニ哀ミ恰カモ自ラ之ヲ犯セル者
 ノ如ク之ヲ言顯ハシタリトス、或ハ之ヲ名ケテ同感説ト云フ、或
 學者ハ之ト類似ノ説ヲ立テ、キリストガ人類ノ罪ヲ贖ヒタリ
 ト云フハ之ガ完全ナル言著ヲナシ且十分ニ之ヲ悔改メ以テ神
 ノ公義ヲ満足セシメタルノ意ニ過ズト云ヘリ
 モウリス氏ノ説ニ就テ我儕ハ左ノ批評ヲ下サントス
 (一) 是レ唯單純ナル哲學上ノ思想ニシテ聖經ニ於テ更ニ根據
 ナキ者ナリ、實ニ人類ノ元ハアダムニ非ズシテキリストナリト

云フガ如キハ聖經ノ明文ニ反セル者ナリ、何トナレバ前哥林十五ノ四十五、四十六ニ曰始ノ人アダムハ生命アル魂トナリ、終ノアダムハ生命ヲ予フル靈トナルトアルガ如シ、靈ノ者ハ先ニ非ズ反テ血氣ノ者先ニアリテ靈ノ者後ニアルナリト、モウリス氏ハキリストノ各人ト一體タルヲ証センガ爲ニ馬太二十五ノ四十ノ汝等此最微者ノ一人ニ行ヘルハ則チ我ニ行ヒシナリトノ語ヲ引キタリ、然レモウリス氏ハ此本文中緊要ノ語タル「我が兄弟」ト云フ四字ヲ省キタリ、此本文ニ由レバ此處ニ云フ所ノ一致ハ特ニ其兄弟ト稱セラル、者トノ間ニ存シテ凡ノ人ニハ及バザル也

(二) 此說ハ吾人ノ意識ニ反ス、何トナレバ何人モ己ハキリストト全ク同一體ニシテ凡テ神ノ子ノ爲ス所ハ自ラ之ヲ爲シ且凡テ神ノ子ニ對シテ爲セラル、事ハ己ニ對シテヒラル、トタリ

ト識認スル者アラザレバ也

(三) 此說ハ信仰ヲ以テ救ニ必要ナラザル者トナス、是レ又聖經ニ反スル說ナリ、聖經ニ由レバキリストノ中保ノ行ニ由テ買ハレタル利福ハ唯信ズル者ニノミ與ヘラル、也

(四) 此說ハキリストノ死ト信者ノ救トノ間ニ親密ノ關係アルコトヲ說ク所ノ聖經ノ教ヲ解説スルコト能ハズ、聖經ニ由レバキリストノ死ハ唯完全ナル模範トシテ彼等ノ救ニ關係アルニ非ズ彼等ニ代リテ死タル事ニ就テ關係アル也

(五) 我儕若シ公平ニキリストガ我ハ多ノ人ノ贖ノ爲ニ生命ヲ捐ルト云ヒ或ハ罪ノ赦ノ爲ニ血ヲ流スト云ヒ己ノ羊ノ爲ニ生命ヲ捐ツト云ヒ又使徒等ガキリストハ我等ノ罪ノ爲ニ解サレタリト云ヒ或ハ我儕ニ代リ咀トナリテ我儕ヲ律法ノ咀ヨリ救出シタリト云ヒ又我儕ニ代テ苦難ヲ受タリト宣ル所ヲ熟察セ

バキリストノ苦難ハ唯其人ノ性ニ於テ免レガタキ所ノ苦難ニ
 非ルコヲ發見スヘシ
 キリストハ其人性ニ於テ吾人ノ荏弱ト需用トニ付テ同感ナリ
 シコハ希伯來書ニ教フルガ如シ、然レモ未ダ曾テキリストハ吾
 人ノ罪惡ニ付テ同感ナリシト云フ教ハアラザル也、キリストハ
 人ニシテ而モ罪ナカリシガ故ニ罪ノ外ハ凡テノ思難ヲ吾人ト
 共ニシタリ、其他ノ思難ハ我儕ト共ニ之ヲ受タレモ我儕ノ罪ハ
 我儕ニ代テ之ヲ負タルノミ、キリストガ我儕ノ爲ニ受タル苦難
 ハキリスト自ラノ苦難ニシテ我儕ノ苦難ニ非ズ、其苦難ハ我儕
 ニ代テ之ヲ受タル也

(六) 肉體ト成リタル神ノ子ガ人ノ罪惡ニ付テ同感ニシテ神ニ
 對シテ之ガ完全ナル言著ヲナシ且十分ニ之ヲ悔改タリトノ説
 ハ我儕ノ思想ノ及バザル所ナリ、聖經中ニ如何ニ完全ナリトモ

罪ノ言著ト悔改ニ由テ神ノ公義ヲ満足セシムベシトノ教ヲ見
 ザル也、加之ノミナラズ自ラ罪アルニ非レバ決シテ眞實ノ罪ノ
 言著ト眞實ノ悔改ハアルベカラズ、人或ハ他人ノ代理トナリテ
 其罪ヲ言著ハスコヲ得シ、然レモ實ニ己ノ罪ニ非レバ己ノ罪ト
 シテ之ヲ言著ハスコ能ハズ、人或ハ他人ニ代テ其罰ヲ負フコトヲ
 得シ、然レモ他人ニ代テ罪ヲ悔改ムルコト能ハズ、夫レ人ガ罪ヲ悔
 改ムルニハ先ヅ自ラ罪アルコトヲ識認セザルベカラズ、唯罪ノ爲
 ニ憂フルハ悔改ニ非ズ、聖經ニ神ニ循フ憂ハ悔改ナリトハ云ハ
 ズ、神ニ循フ憂ハ悔改ニ至ラシムト云ヘリ(後哥林七ノ十)悔改ニ
 於テ今一ノ緊要ナル事アリ、即チ人ガ罪ヲ離レテ神ニ向フコト是
 レ也、然レモ悔改ノ此二ノ要素即チ自己ノ罪ヲ識認スル事ト罪
 ヲ離レテ神ニ向フコトハ至聖至善ニシテ一點ノ玷ナク罪人ト
 全ク異ナリシ所ノキリストニ付テ發見スルコト能ハズ(希伯七ノ

二十六参考)是故ニキリストハ如何ニ全ク罪アル人類ノ憂苦患難ヲ體恤シタリトスルモ人類ノ爲ニ罪ヲ悔改ルコト能ハザリシ也

第八 アルフォルド氏並ニ或獨逸國神學者ノ説

此説ハキリストノ肉體トナリタルハ其神性ニ人性ヲ合セタル者ニシテ人タル「ベルソナ」ト成リタルニハ非ズト云フ實事ニ基ク者ナリ、此實事ニ至テハ我儕モ飽マデ信容スル所ナリ、但我儕ハ此實事ニ由リ聖經ニ循テキリストガ人性ニ於テ受タル苦難ハ其人性ヲ取タル所ノ神タル「ベルソナ」ニ歸スルコトヲ得ベシ、故ニ其苦難ハ不限ノ價直アルモノナリトス、然レモアルフォルド氏ハ之ニ全ク反對ノ論ヲ立タリ、其論ニ曰キリストノ苦難ハ即チ人性ヲ取タル者ノ受タル所ニシテ其人性ハ即チ凡ノ人ノ通有スル所ナレバキリストノ苦難ハ人類各自ニ歸スルコトヲ得ベシ

ト、又曰キリストノ人性ハ萬人ノ共有物ナリ、其人性ハ只一人ニ屬スルニ非ズシテ凡ノ人ニ屬スルナリ、又キリストガ身ヲ獻ゲタル時ニハ凡ノ人ガ身ヲ獻ゲタル也、即チキリストガ十字架上ニ懸リタル時ニハ唯一個人ガ他人ニ代テ殺サレタルニ非ズシテ人性ノ根元ガ犠牲トナリテ其罪ノ刑罰ヲ全ク除去リテ罪自ラヲ除キタルナリ、而シテ其結果トシテ人性即チ人類ハ父ニ在テ全ク罪ヲ赦サレテ父ノ恩惠ニ歸リタル也ト

我儕之ニ答テ曰(第一)縱令キリストノ人性ノ屬シタル所ノ人タル「ベルソナ」ナシト云フトモ未ダ以テ其人性ハ即チ凡ノ人類ニ屬スル者也、ト云フベカラズ(第二)聖經ノ教ニ由レバキリストガ人性ヲ取タル時即チ人ト成タル時ニハ一個ノ人タル肉體ト一個ノ人タル靈魂ヲ取タル事明白ナリ、又其肉體靈魂ハ他人ノ肉體靈魂ト殊別ナリシコト明白ナリ、キリスト自ラモソノ肉體靈魂

ハ唯己一人ニ屬スル者ト爲セリ、未ダ曾テ其肉體靈魂ハ凡ノ人類ニ屬スル者ニシテ自ラ身ヲ獻ゲタル時ニハ人類悉ク身ヲ獻ゲタルナリトハ言ハザル也、反テ自ラ罪人ニ代テ身ヲ獻グト云ヘリ、約翰六ノ五十一ニ曰我ガ與フルパンハ我肉也、世ノ生命ノ爲ニ我之ヲ賜ヘント、前哥林十一ノ二十四ニ曰此ハ汝等ノ爲ニ擘カル、我體ナリ。前彼得二ノ二十四ニ曰彼木ノ上ニ懸テ我儕ノ罪ヲ身ニ任給ヘリ(第三)加之ナラズキリストノ犧牲ハ直ニ凡人ノ人類ヲシテ罪ヲ免レシメ且父ノ恩恵ニ入ラシメザリシコハ信仰ナクシテ神ヲ喜バシムル能ハザルコト信仰ナキガ故ニキリストノ行ノ利福ヲ受ザル者多キコト由テ明白ナリトス

第九 又一種ノ説ニ曰(ヨング並ブシテ)等ノ書ヲ見ヨ(第一)キリストノ苦難ト死ハ其當時ノ惡ノ勢ト撞着シタル自然必須ノ結果ナリ、即チキリストノ性徳ヲ以テ彼時彼國ニアル以上ハ死

ヲ免ルベカラズ、且其死ハ人ノ所爲ニシテ神ニ於テ特別ノ目的アルニ非ズ、畢竟スルニキリストハユダヤ人ノ嫉妬忿怒ノ犧牲トナリタル者ニシテ之ヲ犧牲ニ供シタル者ハ獨ユダヤ人ナル耳(第二)贖罪ノ行ノ目的ハ單ニ人心ノ罪惡ヲ滅ズルニアリ、而シテ自動ナル靈ノ法ニヨリキリストノ死ハ其原因ヲ除テ以テ全ク罪惡ノ結果ヲ滅シタリ(第三)キリストノ苦難ト死ハ神自ラヲ犧牲トスルノ大愛ヲ顯ハシ以テ此大目的ヲ達スル也ト

我儕此等ノ論ニ對テ曰(第一)キリストノ苦難ト死ヲ以テ之ヲ人ヨリ受タル上ニ就テハ其當時ノ惡習偏見ト撞着シタル自然ノ結果ト做スモ可ナリ、又キリストヲ殺シタル者ハ自己ノ心ヨリ企圖シテ故意ニ之ヲ殺シタルコト疑ヲ容レズ、然レモ其死ヲ以テ當時ノ惡習ト撞着シタル必然ノ結果トナスベカラザルコトハ左ノ本文ニ由テ明白ナリ、約翰十ノ十七、十八ニ曰我父我ヲ愛ス、

ハ我再ビ命ヲ得ンガ爲ニ命ヲ捐ルガ故ナリ、我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ、我自ラ之ヲ捐ル也、我之ヲ捐ルノ權能アリ、亦能ク之ヲ得ルノ權能アリト、又約翰十九ノ十一ニイエスピラトニ答テ曰汝上ヨリ權威ヲ賜ハラズバ我ニ對テ權威アルコナシト、然レモ此處ニ論窺スベキ要點ハ此事ニ於テ神ノ所爲如何ト云フニアリ、而シテ聖經ヲ按ズルニ神ハキリストノ苦難ト死ヲ以テ其行ノ最大至要ノ事件ト定メラレタルヲ明白ナリ、以賽五十三ノ十二曰エホバ彼ヲ碎クコトヲ喜ビテ之ヲ愛苦シ給ヘリ、斯テ彼ノ靈魂愆ノ祭物ヲナスニ至テハ彼其末ヲ見ルヲ得、其日ハ永カラシ且ツエホバノ悦ビ給フコトハ彼ノ手ニ由リテ榮ユベシト、キリストモ自ラ豫定セラレタル苦難ヲ受タリト云ヒ(路加二十四ノ四十六)或ハ我ニ受クベキバプテスマアリト云ヒ(路加十二ノ五十)或ハ父ヨリ與ヘラレタル杯ヲ飲マザルヲ得ズト云リ(約翰十八ノ十

一)又ベテロハ「ペンテコステ」ノ日ニユダヤ人ニ告テ曰此人ハ即チ神ノ定シ旨ト預メ知リ給フ所ニ應テ解サル、汝等ハ無法ナル人ノ手ヲ以テ之ヲ捕ヘ十字架ニ釘テ殺セリ(行傳二ノ二十三)尙行傳四ノ廿四ヨリ廿八、希伯七ノ二十七並凡テキリストハ其人ノ罪ヲ贖ハン爲ニ苦難ヲ受タリト云フ所ノ本文ヲ參照スベシ、ユダヤ人ガキリストヲ十字架ニ釘タルハ神自ラ人類ノ罪ヲ贖ハンガ爲ニ設ケタル所ノ犧牲ヲ成就スルノ具トナリタル耳(第二) 第二項ニ就テハ夫レ罪ハ唯當ニ醫スベキ病ニ非ズ、審判者ニ於テ必ズ罰スルカ又赦スベキ所ノ犯罪ナリ、而シテ縱令或時ニ人心ノ罪惡滅スルコトアリテ爾來完全無垢ノ生活ヲ爲ス者アリトスルモ其既往ノ罪ヲ如何セン、悔改ハ既往ノ罪ヲ滅スルコト能ハズ、此事ニ於テ我儕ノ關スル所ノ者ハ自動ナル靈ノ法ニ非ズシテ活ル神、義キ審判者、天地ノ主宰ナリ、而シテ神ノ言モ我

ガ良心モ我儕人類ハ己ノ罪ニ由テ神ノ恩恵ヲ失ヒ其罰ヲ受クベキコトヲ證スル也、我儕ノ救ハレン爲ニハ唯ニ罪惡ノ心ノ除カル、事ノミニ非ズ罰ヲ受クベキコトヲ減セン事トナリ、罪惡ヲ脱スル事モ確カニキリストノ仲保ノ行ノ一目的タリ、然レモ我儕カ罰ヲ免ル、事モ亦其一目的タリシコトハ聖經ニ其明文少カラズ、例セバ馬太二十ノ廿八ニ曰人ノ子ノ來ルハ多人ニ代テ生命ヲ予ヘ其贖トナラン爲ナリ、加拉三ノ十三ニ曰キリスト既ニ我儕ノ爲ニ贖タル者トナリテ我儕ヲ贖ヒ律法ノ誼ヨリ脱レ。給ヘリ。

(第三) 第三項ニ就テハ我儕ハ既ニ第五節ニ於テキリストノ苦難ハ吾人ノ犯レタル神ノ律法ノ要求ヲ満足セシムル目的ヲ離レテハ神ノ愛ヲ顯ハスニ足ラザルコトヲ論ジタリ、尙之ニ加ヘテ言フベキハ此說ハ聖靈ノ働ヲ全ク度外視スル者ナリ、聖靈ノ働

ハ罪惡ノ心ヲ除ク爲ニ必要ナリ(約翰三ノ五)パウロ曰此聖靈ノ我儕ニ注ガル、ハ救主イエスキリストニ由レリト(提多三ノ六、加拉三ノ十三、十四參考)

第十 又一種ノ說ニ曰夫レ贖罪ハ神ガ被治者ノ最大幸福ヲ企圖セルヨリ起レル者ニシテ神ノ律法ノ要求ヲ満足セシメン爲ニ非ズ、只其天地ヲ治ルノ必要ニ應センガ爲ナリト、語ヲ更テ之ヲ言ヘバ贖罪ハ神ノ元始的ノ公義ヲ満足セシメン爲ニ非ズ、只行政的ノ公義ヲ満足セシメンガ爲ナリト、行政的ノ公義トハ被治者ノ最大幸福ト神ノ政權ヲ完フスル所ノ公義ヲ云フ、此說ノ要點左ノ如シ

(第一) 夫レ神ノ律法ハ其性質ノ必要ニ由テ起ル者ニ非ズレテ只其聖旨ニ由テ立ツ者ナリ、而シテ立法ノ權アル者ハ又之ヲ廢スルノ權アルガ故ニ神若シ之ヲ可トセバ其要求ヲ寬クシ或ハ

全ク之ヲ廢スルコヲ得ル也

此論ニ就テハ只左ノ評ヲ下スヲ以テ足レリトス、誠ニ神ノ律法
ハ其聖旨ニ基ク者ナリ、然レモ神ノ聖旨ハ眞理公義ト和合シテ
常ニ變ズルコナシ、故ニ其律法ヲ寛クシ或ハ廢スベカラザルコ
ハ其性徳ト異ナルコナシ、神ノ律法ハ其永遠ナル公義ノ必然ノ
發顯ナリ

(第二) 人類ハ己ノ罪ニ因テ創世記二ノ十七ニ記載スル所ノ律
法ト刑罰ニ循ヒ永死ヲ以テ罰セラルベキ者トナレリ、然レモ實
際然ラズ、何トナレバキリストヲ信ズル者ハ其罰ヲ免ルレバ也、
然レモ是レ其律法ノ廢セラレタルガ故ニ非ズ、何トナレバ不信
者ハ尙罰ヲ免レザレバ也、サレバ只律法ノ要求ノ寛クセラレタ
ル耳即チ義務ノ法則トシテハ凡ノ人ノ爲ニ毫モ變更ナシト雖
信者ノ爲ニ其罰ハ廢セラレタル也ト

然レモ果シテ然ラバキリストハ何故ニ苦難ヲ受タルヤ、何故ニ
贖罪ハ必要ナリシヤト問フニ彼等ハ左ノ點ニ於テ之ヲ答ント
ス

(第三) 神ハ己一身即チ己ノ性徳ニ關シテハ罰ヲ廢スルコヲ得
ルト雖天地ノ政治ニ關シテハ之ヲ廢スルコ能ハズ、神ハ天地ノ
主宰ナリ、而シテ若シ贖罪ナクシテ罪ヲ赦サバ人必ズ神ハ己ノ
律法ヲ必ズシモ嚴守セザル者トシテ罪ヲ犯シテ其罰ヲ免レン
トスルニ至ラン、是故ニ(一)何カ贖ナクシテ罪ヲ赦スハ宜シカラ
ズ、然レモ其贖ヲ要求シタル者ハ神ノ元始的ノ公義ニ非ズシテ
受造物ノ福利ナリトス(二)キリストノ苦難ト死ハ只神ガ罪惡ヲ
惡ムノ甚キコヲ示サン爲ナリ、是レ罪ノ罰ニ非ズ、神ガ之ヲ以テ
其罰ニ代ヘタル也ト
蓋此說ニハ許多ノ貴重ナル眞理ヲ包含セリ、即チ此說ハ罪人が

罰ヲ受クベキト何カ贖ノ必要ナルト父ノ定メタル道ニ循
 ヒテキリストハ我儕ノ罪ノ爲ニ苦難ヲ受ケ且死シタルヲ許
 容スル者也、然レモ聖經ニ教フル所ノ説ニ比較スレバ甚ダ異ナ
 ル説ト云ハサルヲ得ズ、聖經ニ由レバキリストガ苦難ヲ受ケ且
 死シタルハ人類ガ其罪ニ由テ受クベキ罰ニ匹敵スル所ノモノ
 ヲ受タル也、而シテ此肉體トナレル神ノ子ガ受タル苦難ト死ハ
 人類全體ノ窮ナキ苦難ニ匹敵スベキ價値能力アル者トス、然レ
 モ之ニ由テ律法ノ要求ノ毫モ寛クセラレザリシコトハ銀貨百圓
 ノ負債ヲ償還スルニ金貨百圓ヲ以テシタルト一般ナリ、固ヨリ
 一個人ノ罪ヲ贖フニモキリストノ犠牲ナカルベカラズ、然レモ
 キリストノ威光ノ大ナルガ故ニ天下萬民ノ罪ヲ贖フノ價値ア
 ル也、此説ニ由レバキリストノ苦難ト死ハ罪人ノ受クベキ罰ニ
 匹敵スル者ニ非ズシテ唯神ガ罪惡ヲ惡ミ罪人ヲ罰スルノ決意

アルコトヲ示サン爲ニ設ケタル一例ニシテ更ニ刑罰ノ性質ハナ
 キ者トス、然レモ罪人自ラ實ニ其罰ヲ受ルカ或ハ他人之ニ代テ
 其罰ヲ受ルニ非レバ刑罰ノ一例トナシ又神ガ罪人ヲ罰スルノ
 決意アルコトヲ示スコト能ハザル也、キリストノ苦難若シ刑罰ノ性
 質ナシトセバ其苦難ハ神ハ必ズ罪ヲ罰スルコトヲ教フルコト能ハ
 ズ、キリスト若シ實ニ其人民ノ罪ヲ負ハズトセバ彼等ノ罪ハ未
 ダ罰セラレズ、神ノ公義ト眞實ノ要求ハ未ダ満足ヲ得ザル也、要
 スルニ此説ハ實ノ贖罪ニ代フルニ假ノ贖罪ヲ以テスル者ナリ、
 此説ヲ主張スル者ハキリストノ苦難ト彼等ガ其苦難ヨリ流出
 スト云フ所ノ結果トノ關係ヲ明示スルコト能ハズ、(一)刑罰ノ性質
 ナキ者ニシテ豈能ク刑罰ト同様ノ結果ヲ生ズルコトヲ得ベキ乎
 (二)律法ニ對シテ其二者ノ關係及ビ責任一ナルニ非レバ豈能ク
 其一人ノ苦難ガ他人ノ罪ニ關係ヲ有スベキ乎又神ノ性徳ト政

治ニ就テ考フル時ハ其元始的ノ公義行政的ノ公義ト區別スル
 コヲ得ベシト雖其實此二者ハ殊別ノ物ニ非ズシテ同一ノ物タ
 ルコヲ記臆セザル可ラズ、夫レ神ノ公義ハ完全無缺永遠無窮ナ
 リ神ハ自ラ義シク又其受造物ヲ治ル事ニ於テ義シ故ニ聖經ニ
 曰(詩篇九ノ四)彼ハ位ニ坐シテ義鞠ヲ施スト、是レ即テ其行政的
 ノ公義ヲ指セル者ニシテ神ハ凡ノ物ニ其受クベキ所ノ者ヲ施
 スナリ、然シテ神ノ行政的ノ公義トハ其永遠無窮ナル公義ノ性
 徳ノ外ニ發表セル者ナルガ故ニ其一ヲ満足セシムル者ハ即チ
 其他ノ一ヲモ亦満足セシムヘキナリ(神性論百四丁乃至百十七
 丁參考)

又此說ハ罪ハ無限ノ惡タルコヲ識認セザルノ嫌アリ、夫レ罪ハ
 唯ニ神ノ公義ナル政治ノ障碍物タルノミナラズ神ノ惡ム所又
 必ズ之ヲ罰セント明言シタル所ノ者タルコヲ記臆スヘキ也

又此說ハ天地創造ノ大目的ハ人類ノ利福ニアリトノ考ニ基ケ
 ル者ナルガ其考ノ誤レルコハ既ニ辨シタルガ如シ(天地創造論
 第八章)加之ナラズ此說ハ聖經ノ明文ニ反對ス、以賽五十三ノ六
 ニ曰エホバハ我儕凡テノ者ノ不義ヲ彼ノ上ニ置キ給ヘリ、羅馬
 八ノ三ニ曰即チ己ノ子ヲ罪ノ肉ノ狀トシテ罪ノ爲ニ遣ハシ、其
 肉ニ於テ罪ヲ罰シヌ、後哥林五ノ二十一ニ曰神罪ヲ知ラザルモ
 ノヲ我儕ノ代ニ罪人トナセリ、是レ我儕ヲシテ彼ニ在テ神ノ義
 トナルコトヲ得シメンガ爲ナリ、加位三ノ十三ニ曰キリスト既
 ニ我儕ノ爲ニ誼ハル、者トナリテ我儕ヲ贖ヒ律法ノ誼ヨリ脱
 レシメ給ヘリ、前彼得二ノ二十四ニ曰彼木ノ上ニ懸リテ我儕ノ
 罪ヲ自ラ己ガ身ニ任給ハリ、此等ノ本文ニ由テキリストノ苦難
 ハキリストガ我儕ニ代テ受且由テ我儕ノ爲ニ律法ノ要求
 ヲ満足セシメタルノ罰タルコト明白ナリ

此說ヲ唱フル者ハ曰羅馬三ノ二十五、二十六ニ由レバキリストハ神ノ義ヲ彰ハス爲ノ挽回ノ祭物ナリトアルニ非ズヤト、答テ曰其レ然リ、然レモ此彰明ハ眞ノ彰明ニシテ其苦難ノ真相ヲ彰ハセル者ナリ、而シテ二十六節ニ之ヲ明言セリ、即チ挽回ノ目的ハ神自ラ義タル如ク見エン爲ニ非ズ、實ニ義タル者ニシテ又イエスヲ信ズル者ヲ義トスル者タルコトヲ彰ハサン爲メナリト

贖罪ノ目的

此等ノ諸說ニ關シテ茲ニ一ノ重要ナル問題アリ、即チ贖罪ノ目的如何、キリストノ贖罪ハ凡ノ人ニ及ブヤ或ハ惟神ノ選民ノミニ及ブヤトノ問題はレナリ
我儕ガ聖經ノ教理ナリト信ズル所左ノ如シ
神ノ聖者ハキリストヲレテ凡テ無始永遠ヨリ救ニ選バレ且父ヨリ子ニ與ヘラレタル者ノミヲ贖ハシメ而シテ彼等ニ信仰及

ビ凡テ其他キリストガ己ノ死ヲ以テ贖ヒタル所ノ恩惠ヲ與ヘシムルニアリ

アルミニアン派ノ說ニ由レバキリストノ目的ハ凡ノ人ノ爲ニ犠牲ヲ獻ンガ爲ナリ、而シテ其犠牲ノ功德ニ因テ神ハ凡ノ人ヲ救フコトヲ得、何トナレバ誰ニテモ若シ信ゼント欲セバ信ズルコトヲ得ル丈ニ十分ノ恩惠ヲ與ヘラレタレバ也ト

贖罪ノ目的ニ就テ我儕ハ左ノ數ヶ條ノ事ヲ陳ベント欲ス

(一) 凡テキリスト信徒タル者ハキリストノ犠牲ハ凡ノ人ヲ救フニ足レルコトヲ信ズル也、其犠牲ノ貴重ナルコト無限ナリ、何トナレバキリスト自ラノ無限ノ威光ノ外ニ之ヲ量ルベキ者ナケレバ也

(二) 此犠牲ハ各人ノ需用ニ適セリ、何トナレバ人ト神ノ律法トノ關係ハ誰彼ノ別ナケレバ也

(三) キリストヲ信ズル者ハ必ズ救ハントノ約束ハ眞實ニ凡人ニ及ビ而シテ凡テ之ヲ受容ル、者ハ必ズ救ハル、也

(四) 我儕モアルミニアン派ノ人モ凡テ大人ハ福音ヲ信ズル者ノミ救ヲ受ケ幼稚ニシテ死スル者ハ悉ク救ハル、ヲ信ズル也、此點ニ就テハ同説ナリ

(五) 凡人皆キリストノ死ヨリ出ル利福ノ幾分ヲ受ク、例セバキリスト教ノ利福ハ世界一般ノ利福ナルガ如シ

是故ニ此等ノ事ハ此問題外ノ事ト知ルベシ、此問題ハ唯イエスキリストノ苦難ト死ニ於テ神ノ目的如何ト云フニアル耳、倍神ノ目的ハ凡人ヲ救フニアル乎、將タ其幾分ヲ救フニアル乎、其一タラザルヲ得ズ、若シ其目的ハ凡人ヲ救フニアリトセバ凡人ハ必ズ救ハルベシ、之ニ反シテ若シ其目的ハ神ガ其至上ノ恩惠ヲ以テ無始永遠ヨリ選タル者ノミヲ救フニアリトセバ之

ヲ以テ贖罪ノ限ト爲ザルベカラズ、此事タルヤ明白ニシテ掩フベカラザルガ故ニ贖罪ハ凡人ニ及ブト説ク者ノ中ニハ贖罪ノ一般ノ關係ト特別ノ關係トヲ區別シテ論ズル者アリ、即チ一般ノ關係トハ凡人ニ關シテ云ヒ特別ノ關係トハ只選マレタル者ニ關シテ云フ也、我儕之ニ答テ曰贖罪ハ凡人ニ及ブトハ若シ神ノ目的ハ凡人ヲ救フニアリトセバキリストノ贖罪ハ凡人ヲ救フニ足レリトノ意ナラバ我儕モ同説ナリ、或ハ又キリストノ贖罪ハ神ガ墮落シタル天使ニハ非ズシテ墮落シタル人類ヲ愛シ給フノ成蹟ナリトノ意ナラバ我儕モ同説ナリ、然レモ尙此ニ神ノ目的ハ凡人ヲ救フニアリヤ、將タ其至上ノ愛ヲ以テ選ミタル所ノ者ノミヲ救フニアリヤノ問題アル也、我儕ノ見ル所ニ由レバ神ノ目的ハ只其選ミタル所ノ者ヲ救フニアルヲ明白ナリ、其理由左ノ如シ

(第一) 此說ハ聖經ニ於テ神ハ無始永遠ヨリ或者ヲ選テ之ニ永生ヲ與ヘ且凡テ之ニ必要ナル方法ヲ設ケタリト教フル所ニ合ヘリ、然レモ反對ノ說ハ之ニ合ハズ、我儕若シ論理ノ法ニ循テ神ノ定旨ノ順序ヲ論ズレバ救ノ定旨ハ其救ニ必要ナル所ノ者ヲ成就スルノ定旨ニ先ツ者ナリトス、而シテ此二者ハ相符合セザルベカラズ、即チ神ガ其爲ニ贖罪ヲ設ル所ノ者ハ唯其救ハント定メタル所ノ者タラザルベカラズ、反對說ヲ維持スル者ハアルミニウスノ說ニ從ヒ人ノ爲ニ救ノ道ヲ設ルノ定旨ハ或者ヲ救フノ定旨ニ先ツトス、即チ其方法ニ關スルノ定旨ヲ以テ其目的ニ關スル定旨ニ先ツ者トナス、然レモ我儕ハ常ニ左ノ一事ヲ記應スベキナリ、即チ實ハ神ノ定旨ハ一ニシテ前後ノ別ナキト是レ也、神ノ定旨トハ永遠無窮ナル神ノ意志ニシテ其意志ハ天地萬物ヲ包含セリ、而シテ神ニハ過去未來ノ別ナク萬物常ニ現在

ニシテ萬物皆其同時ニ定メラレタル一ノ定旨中ニ含有セララル、也、若シ神ノ目的ハ只選レタル者ノミヲ必ズ救テ其他ハ其罪ノ適當ナル結果ニ任スニアリトセバキリストハ凡ノ人ノ爲ニ無差別ニ死シタルニ非ルヲ明白ナリ、希伯十二ノ二ニキリストハ其前ニ置ク所ノ喜樂ニ因テ其耻シモ厭ハズトアリ、其喜樂トハ何ゾ、キリストトハ誰ガ爲ニ十字架ノ死ヲ遂ゲタルヤ、自ラ之ヲ知ラザリシヤ、自ラ其到底救ハズト知ル所ノ者ノ爲ニ十字架ノ苦ヲ受ルコトハキリストノ喜樂ノ一部分ナリシトスルヤ

(第二) 贖罪ノ性質ニ由テ又之ヲ知ルベシ、キリストハ其人民ノ代表者タルコト又キリストハ彼等ニ代テ罪ノ罰ヲ受タルコトノ聖經ノ教タルコトハ既ニ第十三章ニ於テ論シタルガ如シ、然レモ代表者トハ既ニ知ラレタル所ノ者ヲ代表スル者ナリ、而シテ其受納ラル、ヤ其代表シタル所ノ者ノ義務ハ全ク一變スル也、且恩

恵ノ契約ニ於テキリストニ約束セラレタル所ノ者ハ其爲ニ死シタル所ノ者ノ生命ナリ、其生命ヲ得ベキ事ニ非ズ(約翰十ノ十七ノ二參考)

(第三) 聖經ノ明白ナル教ニ由レバキリストノ行ノ目的及ビ正當ノ結果ハ凡ノ人ヲシテ救ヲ受ルコトヲ得セシムルニ非ズシテ實ニ其爲ニ死シタル所ノ者ヲ救フニアリトス、羅馬五ノ十二曰若シ我儕敵タリシ時ニ其子ノ死ニ由テ神ニ和グコトヲ得タランニハ況シテ和ヲ得タル今其生ルニ由テ救ハル、コトヲ得ザランヤ(後哥林五ノ二十一、加拉一ノ四、三ノ十三、以弗一ノ七、二ノ十六參考)

(第四) 聖經ノ明白ナル教ニ由レバキリストハ其從順ト死ヲ以テ信仰悔改及ビ聖靈ノ感化ヲ購ヒタリトス、以弗二ノ八ニ曰汝等恩ニ由テ救ヲ得、是レ信仰ニ由テナリ、己ニ由ルニ非ズ、神ノ賜

ナリ、行傳五ノ三十、三十一ニ曰我儕ノ先祖ノ神ハ汝等ガ木ニ懸テ殺シ、所ノイエスヲ懸ラセ給ヘリ、神ハ之ヲ君トシ救主トシテ其右ノ方ニ舉グ、是レイスラエルニ悔改ト罪ノ赦ヲ予ンガ爲ナリ、提多三ノ五ヨリ七ニ曰彼我儕ガ行シ所ノ義キ功ニ由ラズ唯其矜恤ニ循ヒ重生ノ洗ト聖靈ニ由テ新ニスル事トヲ以テ我儕ヲ救ヘリ、聖靈ハ即チ神我儕ヲシテ其恩ニ由リ義トセラレ嗣子タルヲ得テ窮ナキ生命ヲ望ミ待シメシ爲ニ我儕ノ救主イエスキリストニ由テ豊カニ我儕ノ上ニ注ギ給ヘル所ノ者ナリ(行傳二ノ三十三、加拉三ノ十三、十四、以弗一ノ三、四、五ノ二十五ヨリ二十七、腓力一ノ二十九參考)人若シキリストハ誰ガ爲ニ此等ノ恩賜ヲ購ヒシヤト問ハニ答テ曰ハン、キリストガ其爲ニ死セシ所ノ者、即チ父ガ信仰ト悔改ト聖靈ノ賜ヲ與フル所ノ者ノ爲ニ之ヲ購ヒタル也、然レ此是ハアルミニアン派ノ説ト同カラズ、

其故ハ該派ノ説ニ由レバ神ニ於テハ凡ノ人ヲ救ヒ得ベシ、何トナレバ既ニ凡ノ人ノ爲ニ十分ノ恩惠ノ設アルガ故ニ彼等若シ信ゼント欲セバ信ズルコヲ得ベシトスレバ也

(第五) キリストノ死ハ永遠ノ恩惠ノ契約ニ循テ成就シタル者ナリ(第五章第六章参考)キリスト自ラ此事ヲ暗示シ且父ヨリ彼ニ與ヘラレタル者ニ就テ語レリ、然ラバ其父ノ與ヘタル所ノ者ハキリストガ其爲ニ死タル所ノ者タラザルヲ得ザル也、約翰十四ヨリ十八ニ曰我ハ善牧者ニシテ己ノ羊ヲ識ル、又己ノ羊ニ識ラル、父我ヲ識ル如ク我モ父ヲ識ル、我羊ノ爲ニ命ヲ捐シ、我ハ此羊ニアラザル別ノ羊ヲ有リ、彼等ヲモ引來ラシ、彼等我ガ聲ヲ聽カン、遂ニ一ノ群、一ノ牧者トナルベシ、我ガ父我ヲ愛ス、ソハ我再ビ生命ヲ得ンガ爲ニ生命ヲ捐ルガ故ナリ、我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ、我自ラ之ヲ捐ルナリ、我之ヲ捐ルノ權能アリ、亦能ク之ヲ得

ルノ權能アリ、我ガ父ヨリ我此命令ヲ受タリト、然レモ是ノミニ非ズ、キリストハ此契約ニ於テ約束セラレタル所ノ報賞ヲ請求セリ、約翰十七ノ四ヨリ九ニ曰我汝ノ榮ヲ世ニ顯ハシ汝ノ我ニ委シ所ノ行ハ我之ヲ成セリ、父ヨ今我ヲシテ汝ト偕ニ榮ヲ得サセ給ヘ、即チ創世ヨリ先ニ汝ト偕ニ有シ所ノ榮ヲ得サセ給ヘ、汝世ヨリ選テ我ニ賜ヒシ人々ニ我汝ノ名ヲ顯ハセリ、彼等ハ汝ノ者ニシテ汝之ヲ既ニ我ニ賜フ、彼等又汝ノ言ヲ守レリ、彼等今汝ノ我ニ賜ヒシ者ハ皆汝ヨリ出シト知ル、ソハ我汝ガ我ニ賜ヒシ言ヲ彼等ニ予ヘタレバ也、彼等之ヲ受ケ又我ガ汝ヨリ出シコトヲ誠ニ知り且汝ノ我ヲ遣ハシ、コトヲ信ジタリ、我彼等ノ爲ニ祈ル、我ガ祈ルハ世ノ爲ニ非ズ、汝ノ我ニ賜ヒシ者ノ爲ナル耳、彼等ハ汝ノ者ナレバ也

(第六) 我儕ハキリストノ祭司ノ行ヲ區別シテ其幾分ハ凡ノ人

ノ爲、其他ハ或者ノ爲ナリト云フコ能ハズ、語ヲ更テ之ヲ言バ我
儕ハ其贖罪ト代求トヲ區別スルコ能ハザル也、然レモキリスト
ハ上ニ掲ゲタル本文ニ於テ我ガ祈ルハ世ノ爲ニ非ズ、汝ノ我ニ
賜ヒシ者ノ爲ナル耳ト云ヘリ

(第七) キリストハ特ニ選民ノ爲ニ死タルコトハ聖經ニ明文アリ、
約翰十ノ十一ニ曰我ハ善牧者也、善牧者ハ羊ノ爲ニ生命ヲ捐ツ、
同十ノ十五ニ曰我羊ノ爲ニ生命ヲ捐シ、羅馬八ノ三十二ヨリ三
十五ニ曰己ノ子ヲ惜マズシテ我儕凡ノ爲ニ之ヲ付セル者ハ豈
彼ニ併テ萬物ヲモ我儕ニ賜ハザランヤ、神ノ選タル者ヲ訟ン者
ハ誰ゾヤ、義トスル神ナルカ罪ヲ定ル者ハ誰ゾヤ、死テ復甦リ神
ノ右ニ在テ我儕ノ爲ニ代求給シキリストナルカ、キリストノ愛
ヨリ我儕ヲ絶ラセン者ハ誰ゾヤ、患難ナルカ或ハ困苦カ迫害カ
飢饉カ裸程カ危険カ刀劔ナルカ云々

論者或ハ問テ曰若シキリストハ獨己ノ民ノ爲ニ死セリトセバ
福音ノ招ト命令トハ如何ニシテ凡ノ人ニ及スベキヤト、答テ曰
縱令人ハ贖罪ノ目的ニ就テ如何ナル説ヲ信ズルトモ福音ノ招
ト命令トヲ凡ノ人ニ宣傳スベキ同一ノ理由アリ、即チ馬太傳三
十八章十九節ナル汝等往テ萬國民ヲ我弟子トセヨトノキリス
トノ命令是レナリ、加之ナラズ既ニ辨シタル如クキリストノ從
順ト苦難トハ凡ノ人ヲ救フノ價値アリ、又凡ノ人ノ需用ト事情
ニ適應シ凡テ信ズル者ハ救ハル、也、而シテ神ガ贖罪ノ道ヲ設
ケタル目的ハ唯其選民ヲ救フニアリト雖其目的ハ凡ノ人ニ向
テ自由ニ又眞實ニ宣傳スル事ニ由テ成就スベカリシ也
又問テ曰キリスト若シ彼レガ爲ニ死セズバキリストヲ受ザル
者アリトモ之ヲ罰スベキ理由アリヤト、答テ曰罪人が彼ノ爲ニ
十分ニシテ且其事情ニ適應セル救ヲ與ヘント許サレ而シテ若

シ之ヲ受レバ正シク救ハルベキニ尙之ヲ受ザル時ハ如何、是レ
 他ナシ、其心邪惡ナルガ故ニ之ヲ受ザル耳、故ニ彼ガ此ノ如キ救
 ヲ拒ミテ罰セラレ、ハ當然ノ事ナリ、然ルニ尙此上ニ論究セン
 ト欲スレバ神ノ預定及ビ人類意志ノ自由トノ關係ニ及サマル
 ヲ得ズ、然レモ此問題ノ困難ニ至テハキリストノ贖罪ハ獨神ノ
 選民ノ爲ナリト主張スル者ノ爲ニモ凡ノ人ノ爲ナリト教フル
 者ノ爲ニモ異ナルコトナシ、且神ハ人ノ罰ヲ預定スル時ニ其品性
 ヲ度外ニ置クコトヲセズ、而シテ若シ其品性惡キガ故ニキリス
 其救ヲ拒ムニ至ラバ其罰セラレ、ハ當然ノ事ナリトス
 又曰聖經中ニ贖罪ハ唯ニ神ノ選民ノミナラズ天下萬民ノ爲ニ
 設ラレタリト教フル所即チキリストハ凡ノ人ノ爲ニ死タリト
 説ク所アルガ如シ、例ヘバ羅馬五ノ十八、後哥林五ノ十五、前提摩
 二ノ六、希伯二ノ九、並ニキリストハ世ノ人ノ罪ヲ任フト説ク所

ノ如シ、約翰一ノ二十九、三ノ十六、十七、第一約翰二ノ二、按ズルニ
 聖經中ニ「凡テ又」世ト云フ語ヲ用井タル時ニ屢々之ヲ狹キ意味
 ニ用井タルコト疑ヲ容レズ、或時ハ唯大衆ヲ指シテ用井タルコト
 リ、例ヘバ馬太三ノ五、六ニ斯時エルサレム及ビユダヤヲ舉リ又
 ヨルダンノ四方ヨリ(直譯スレバ凡ノユダヤト凡テヨルダン地
 方ヨリ云々ナリ)人々出テヨハ子ニ就キ己ガ罪ヲ悔イ著ハシヨ
 ルダンニテ彼ヨリバアテスマヲ授ケラレタリトアリ、又約翰十
 二ノ十九ニ見ヨ世ハ皆彼ニ從ヘリトアルガ如シ、或ハ又ユダヤ
 人及ビ異邦人ノ義ニ用井タルコトアリ、例ヘバ第一約翰二ノ二ニ
 惟ニ我儕ノ爲ノミナラズ徧ク世ノ爲ノ挽回ノ祭物ナリトアル
 ガ如シ(羅馬十一ノ十五、後哥林五ノ十四、十五)或ハ又其意味自ラ
 前後ノ文勢ニ由テ顯ハル、コトアリ、例ヘバ羅馬五ノ十八ニ一人
 ノ義ヨリ義トセラレ生命ヲ獲ルコトモ凡ノ人ニ及ベリトアルガ

如シ、此ニ所謂「凡ノ人」トハパウロガ説ク所ノ「キリストニアル凡ノ人」ノ義ナリ、又前哥林十五ノ二十二ニモ「アダムニ屬ル凡ノ人」ノ死ル如ク「キリストニ屬ル凡ノ人」ハ生クベシトアルガ如シ、此ニケ所ニ於テ所謂「凡ノ人」トハ孰レモ世界ニアリトアラユル各個人ヲ指セル者ニ非ズ、其一ニ於テハ「凡テアダムニ屬ル者」ヲ指シ其他ニ於テハ「凡テキリストニ屬ル者」ヲ指ス也、以弗一ノ十、哥羅一ノ二十ニモ「神天地萬物ヲキリストニ由テ已ト和ガシメタリトアリ若シ」凡テ「トハ各個人ノ義ナリトセバ此等ノ本文ハ普通救拯ヲ教フル者トセザルベカラズ、而シテ普通救拯ヲ教フル者トセバ其救獨人類ニ限ラズ、天使禽獸ニモ及バザルヲ得ズ、然レモキリストノ救ハ禽獸ニ及ブノ理ナシ、何トナレバ聖經ニ於テキリストハ人ヲ救ハン爲ニ降臨セリトノ明白ナル教アリト雖天使又ハ禽獸ヲ救ハン爲ニ來レリトノ教アラザレバ也、果シ

テ然ラバ此ニ所謂「凡テ」トハ即チキリストガ其罪ヲ贖ハン爲メ來タル所ノ者ニ限ルコト辨ヲ俟ズシテ明白ナリ
論者又曰聖經ニ於テキリストハ滅ルコトヲ得ヘキ者ノ爲ニモ死タリト教フル所アリ、例ヘバ羅馬十四ノ十五ニ「汝食物ニ由テキリストノ死テ代リ給ヘル彼ヲ滅スコト勿レトアルガ如シト」(前哥林八ノ十一參考)

我儕答テ曰(第一)此等ノ本文ハキリストガ死テ代リタル所ノ者ノ正シク滅ルコトヲ教フル者ニ非ズ(第二)使徒パウロハ唯コリント人ニ向テキリストガ最大ノ慈愛ヲ施シタル所ノ者ヲ蔑視スル勿レト戒メタル耳(第三)此ノ如キ本文ハ假設ノ文ニシテ其戒ムル所ノ所作ノ性質傾向ヲ示スニ止ル耳、例ヘバ行傳二十七ノ二十二ニ使徒パウロノ難船ニ逢タル時ノ事ヲ記シタル所ニ「汝等ノ中一人ダニ生命ヲ失フ者ナシト云ヒ而シテ三十一節ニ至

テ此人々若シ船ニ留ラズバ汝等救ハル、トヲ得シトアルガ如シ、蓋一人モ滅ビザルコトハ確カナリシカドモ彼等若シ船ニ留ラズバ悉ク滅ブベカリシ也

我儕ハ今博士チャールスホツヂ氏ノ組織神學ヲ引テ以テ此章ヲ終ラントス(第二卷五百六十一丁)

ホツヂ氏曰キリストハ凡ノ人ヲ救フノ目的ヲ以テ一様平等ニ凡ノ人ノ爲ニ死タリトノ説ハ彼ハ己ノ選民ノ救ヲ確定スルノ目的ヲ以テ特ニ彼等ノ爲ニ死タリト云フ説ニ比較シテ更ニ勝ル所ナシ、此説ハ神ノ仁愛又ハキリストノ贖罪ニ就テ更ニ高尚ナル見解ヲ呈スル者ニ非ズ、凡ノ人ニ福音ヲ宣傳スベシトノ命令ニ就テ更ニ善良ナル理由ヲ與フル者ニ非ズ、又福音ヲ拒ム者ノ罰セラレ、コトノ公義ヲ一層明瞭ナラシムル者ニモ非ズ、反テ其事實ヲ全ク了解セザルヨリ起ル所ノ説ナリトス、蓋此説ハ聖

經ニ於テ明示セラレタル所ノ神ガ己ノ選民ニハ特別ノ仁愛ヲ施シ給フコト、キリストト其選民ノ一體タルコト、キリストガ彼等ノ代表者ト爲タルコト、贖罪ノ契約ノ功德ニ由テキリストノ犠牲ニ必然ノ効能アルコト、キリストノ恩賜ト聖靈ノ恩賜トノ間ニ必然ノ關係アルコト等ヲ包含セザレハナリ、加之ナラズ此説ニ由レバ救ノ方略ニ就テ前後撞着セル見解ニ至リ且贖罪ノ性質ニ就テモ聖經ニ適ハザル危険ナル異説ニ至ルノ恐アリ、畢竟スルニ此説ハ一個ノ偏見僻説ニ過ズ、正教ノ説ハ即チ公明寛大ノ教理ニシテ其中ニハ天下萬民ニ對スル公義ノミナラズ無限ノ安慰靈能ヲ含有スルナリ

第十五章 キリストノ王職

キリストハ凡テ己ノ人民ノ預言者トシテ啓示シ且約束シタル

所ノ事又凡テ彼等ノ祭司トシテ購ヒ且設ケタル所ノ事ヲ彼等ノ王トシテ固定施行スル也

第一 我儕ノ中保イエスキリストノ王タルヲハ左ノ箇條ニ由テ顯ハル

(一) 新約ニ於テ明白ニキリストニ關スル舊約ノ本文ヲ引用シタル所アリ、米迦五ノ二ニ曰ユダヤノ地ベツレヘムヨ、汝ハユダヤノ郡中ニテ至微キ者ニ非ズ、我イスラエルノ民ヲ救フベキ君其中ヨリ出ント云ヘバナリト、此本文ハ馬太二ノ六ニ引用シタリ、撒加九ノ九ニ曰シオンノ女ヨ、大ニ喜ブベシ、エルサレムノ女ヨ、號呼ブベシ、視ヨ汝ノ王汝ニ臨ル、彼ハ義ク且救ヲ携ヘ來リ、柔和ニシテ驢馬即チ驢馬ノ子ニ乘リ汝ニ來ル云々、此本文ハ馬太二十一ノ四、五ニ引用シタリ

(二) 舊約ニ於テキリストノ預表タリシ所ノ治理者アリキ、例ヘ

バメルキセデクノ如シ、撒加六ノ十三ニ曰其位ニ坐シテ政ヲ施シ其位ニ坐シテ祭司トナラン、希伯六ノ二十ニハイエスハメルキセデクノ如ク窺ナク祭司ノ長トナレリトアリ、創世記十四ノ十八並希伯來書七ノ一ヨリ三ニ由テ觀ルニ此メルキセデクハ祭司王ナリトアリ、又ダビデ王モキリストノ王タル事ノ預表ナリ、耶利三十ノ九並何西三ノ五ニハキリストヲダビデト稱シタリ

(三) 舊約中ニキリストヲ王トシテ説ク所少カラズ、但以七ノ十三、十四ニ曰我夜間ノ異象ニ於テ又之ヲ觀タリ、觀ヨ、一人ノ人ノ子ニ似タル者アリ、天ノ雲ニ乗ジテ來リ、遂ニ太古ヨリ常ニ在ル者ニ詣ル、象乃チ之ヲ引テ其前ニ就ケリ、遂ニ之ニ賜フニ權ト榮ト國トヲ以テシ、諸民諸國諸音ヲシテ之ニ役ヘシム、其權ハ乃チ永遠ノ權ニシテ移逝ルヲナク其國ハ必ズ廢ルヲナシ、詩篇四十

五、七十二、百十ニハキリストヲ指シテ王ト云ヘリ(詩篇二ノ六、但以二ノ四十四參考)

(四) キリスト自ラ我ハ王ナリト明言シタリ、約翰十八ノ三十七ニ曰ピラト彼ニ曰ケルハ然バ汝ハ王ナルカ、イエス答ケルハ汝ノ言フ所ノ如ク我ハ王ナリ、我是ガ爲ニ生レ、是ガ爲ニ世ニ臨レリ、ソハ眞理ニ就テ證ヲナサン爲ナリ

(五) 新約ニ於テキリストヲ王ト尊稱シタリ、黙示十九ノ十六ニ曰諸王ノ王、諸主ノ主ト、キリストノ十字架ニモ此尊稱ヲ掲ゲタリ(約翰十九ノ十九ヨリ二十二參考)

(六) キリストノ福音ヲ神ノ王國ノ福音ト稱シタリ、路加四ノ四、四十三(哥羅一ノ十三等參考)

第二 キリストノ中保的ノ王國ノ性質

(一) キリストハ神トシテハ父ト聖靈ト偕ニ宇宙ノ主宰タリ且

其權威ハ自ラ有スル所タリト雖神人間ノ中保トシテハ其王權ハ父ヨリ與ヘラレタル者ナリ、而シテ其中保ノ行ノ成就スル時ハ復タ父ニ歸セラルベキ者ナリ、詩篇二ノ六ニ曰我我ガ王ヲ聖キシオンノ山ニ立タリト、腓力二ノ九ヨリ十一ニ曰是故ニ神ハ甚シク彼ヲ崇メテ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘ給ヘリ、此ハ天ニアル者地ニアル者及ビ地ノ下ニアル者ヲシテ悉クイエスノ名ニ由テ膝ヲ屈メシメ且諸ノ舌ヲシテ悉クイエスキリストハ主ナリト言著ハシテ父ナル神ニ榮ヲ歸セシメン爲ナリ、前哥林十五ノ二十四ニ曰後彼諸ノ政及ビ諸ノ權威ト能ヲ滅シテ國ヲ父ノ神ニ付サン是レ終ナリ(以弗一ノ二十ヨリ二十二參考)

天地創造ノ前ニ於テ神其無限ノ慈愛ヲ以テ救世ノ方略ヲ定メ給ヒシ時ニキリストノ王職モ亦其方略ノ一部分タリキ、而シテ其王權ハ人類ノ墮落以來漸々發顯シタリ、吾ガ始祖墮落シテ人

類ハ黑暗ト死ノ國トニ隸屬スル者トナレルヤ否ヤキリストハ
 之ニ反シテ光明ト生トノ國ヲ立タリ、而シテ世ノ終ニ至ル迄此
 二王國ノ間ニ於テ戰鬪止マザル也(エドワルド氏贖罪史ヲ見ヨ)
 アブラハムノ時ニ至テキリストノ王國ハ組織セラレテ神、教
 會トナリ世俗トノ區別判然ト顯ハレタリ、而シテキリストガ人
 ト成リテ降世シ給ヘル時ニハ其王國ハ彌明白ニ宣傳セラレ其
 昇天シテ神ノ右ニ坐ヲ占給ヘル時ヨリ其王國ハ公然建立セラ
 レタリト云フベシ、我儕ノ此ニ論ゼントスルハ首トシテ此終ノ
 時期ニアル也

(二) キリストノ王權ハ二様ニ考フルヲ得ベシ(第一)天地萬物
 ニ關シ(第二)其教會ニ關シテ考ルヲ得ベシ、天地萬物ニ關シテ
 云フ時ハ或ハ之ヲ其權威ノ王國ト稱ス、其目的ハ諸ノ仇敵ヲ征
 服シ(前哥林十五ノ二十五)神ノ義ヲ顯ハシ(約翰五ノ二十二ヨリ

二十七)其教會ヲ完ウスルニアリ、其教會ニ關シテ云フ時ハ現世
 ノ行政ニ就テハ其恩惠ノ王國ト稱シ、來世ニ於テ其政ノ成就ス
 ル事ニ就テハ其榮光ノ國ト稱ス

(第一) キリストノ王國ハ一統普通ナリ、馬太二十八ノ十八ニ曰
 天ノ中地ノ上ノ凡ノ權ヲ我ニ賜ハレリト、恩惠ノ契約ノ中保ト
 シテキリストガ此大權ヲ有シ給フヲ必要ナリ、是レ其萬事萬物
 ヲシテ共ニ勳テ其民ノ爲ニ益タラシメンガ爲ナリ(羅馬八ノ二
 十八)而シテキリストハ諸ノ敵ヲ其足ノ下ニ置ク時迄ハ王タラ
 ザルヲ得ザレバ也トノ明文アリ(前哥林十五ノ二十五)又審判ハ
 凡テ子ニ委子ナリト云ヒ人ノ子タルニ因テ之ニ審判スルノ權
 威ヲ賜ヘリトアリ(約翰五ノ二十二、二十七)又キリストハ能ク其
 民ヲ保テ躡カシムルヲナク汚ナク歡テ其榮光ノ前ニ立ツヲ
 得シムルナリ(猶太二十四)キリストハ即チ己ノ教會ヲ愛シ之ガ

爲ニ己ヲ捨タリ、即チ彼己ヲ捨シハ水ノ洗ヲ以テ言ニ由テ教會
 ヲ潔メ之ヲ聖ナル者トセンガ爲ナリ、又汚ナク皺ナク凡テ此ノ
 如キ類ナク聖ニシテ瑕ナキ榮ナル教會ヲ自ラ己ノ前ニ建ン爲
 ナリ(以弗五ノ二十五ヨリ廿七)是故ニ使徒パウロ曰彼ハ諸ノ政
 ト權威ノ首ナリ、汝等彼ニ在テ全備スルヲ得ル也(哥羅二ノ十、
 希伯二ノ八ヲ見ヨ)パウロ又ピリビノ教會ニ告テ曰(腓力二ノ八
 ヨリ十一)既ニ人ノ如キ形狀ニテ現ハレ己ヲ卑シ死ニ至ル迄順
 ヒ十字架ノ死ヲサヘ受ルニ至レリ、是故ニ神ハ甚シク彼ヲ崇メ
 テ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘ給ヘリ、是レ天ニアル者地ニアル
 者及ビ地ノ下ニアル者ヲシテ悉クイエスノ名ニ由テ膝ヲ屈メ
 シメ且諸ノ舌ヲシテ悉クイエスキリストハ主也ト言顯ハシテ
 父ナル神ニ榮ヲ歸セシメシガ爲也ト、蓋此中ニハ凡テ天地間ノ
 智慧アル受造物ヲ包含セリ、惟ニ人類ノミナラズ天使ヲモ包含

セリ、而シテ彼等ノ膝ヲ屈スベキ者ハ即チ神人タル中保イエス
 キリストニシテ彼等ノ言著ハスベキ事ハ即チキリストハ彼等
 ノ主タル事即チキリストハ彼等ノ至上至尊ナル君主タリト言
 著ハスベキ也

(第二) キリストノ王國ハ靈ノ國ナリ、キリスト自ラ明言シテ曰
 我が國ハ此世ノ國ニ非ズト(約翰十八ノ三十六)其王國ニ屬スル
 者ハ靈ニ由テ生レタル者ナリ、約翰三ノ五ニ曰人ハ水ト靈ニ由
 テ生レザレバ神ノ國ニ入ルコト能ハザル也腓力三ノ二十ニ曰我
 儕ノ國ハ天ニアリ、彼等ハ此世ニ在テハ旅人寄寓者ニシテ愈レ
 ル國即チ神ガ彼等ノ爲ニ備ヘタル所ノ國ニ向テ旅スル者也(希
 伯十一ノ十三ヨリ十六)キリストノ律法ハ靈ナル律法ナリ、約翰
 四ノ二十四ニ曰神ハ靈ナレバ拜スル者モ又靈ト眞ヲ以テ之ヲ
 拜スベキ也、加拉五ノ二十五ニ曰若シ我儕靈ニ由テ生ナバ又靈

ニ由テ行フベシ、其國ノ威福モ又靈ニ屬ス、以弗一ノ三ニ曰神即
 ナ我儕ノ主イエスキリストノ父ハ頌ムベキ哉、彼キリストニ由
 テ諸ノ靈ノ恩ヲ以テ天ノ處ニテ我儕ヲ已ニ惠ミタリ(羅馬八ノ
 五ヨリ九、前哥林五ノ四ヨリ十一、後哥林十ノ四)キリストハ此國
 ノ政ヲ行フニ當テハ其教會ノ爲ニ至上ノ權威ヲ用非救ヲ嗣ン
 トスル者ニ役ヘシメンガ爲ニ天使ヲ遣ハシ(希伯一ノ七)萬國萬
 民ノ事ヲ管理シ(詩篇第二)聖靈ヲ遣テ其贖ハレタル民ヲ確信更
 生誘導聖清獎勵安慰セシムル也(約翰十六ノ七ヨリ十五等參考)
 其王國ハ其靈ナル目的ニ關セザル以上ハ此世界ノ事ニ關係セ
 ズ、是故ニキリストノ教會ハ人ノ生命財產ヲ與奪スルノ權威ナ
 ク(路加十二ノ十四)又學術上若クハ政治上ノ問題ヲ定ムルノ權
 威ナキ者ナリ
 夫レキリストノ王國ハ此世ニ屬セズト雖此世ノ中ニ在ルガ故

ニ凡テ財產ニ關シ又其會員相互及ビ世人トノ關係ニ於テハ其
 居住スル所ノ國民トシテ其國ノ法律ニ遵フノ義務アル也、凡ソ
 真正ノキリスト信徒ハ國家ノ良民ナリ、キリスト信徒ハ教會員
 トシテハ國家ノ事ニ關係ナキ者ナリ、又國ノ執權並法律ハ教會
 ノ靈ナル事ニ就テハ更ニ權威ナキ者ナリ、馬太二十二ノ二十一
 ニ曰カイザルノ物ハカイザルニ歸シ又神ノ物ハ神ニ歸スベシ、
 羅馬十三ノ一ニ曰上ニ在テ權ヲ有ル者ニ凡テ人々服フベシ、ソ
 ハ神ヨリ出ザル權ナク凡ソ有ル所ノ權ハ神ノ立給フ所ナレバ
 也、前彼得二ノ十三ヨリ十七ニ曰汝等主ノ爲ニ凡テ人ノ立ル所
 ノ者ニ服ヘ、或ハ上ニアル王或ハ惡ヲ行フ者ヲ罰シ善ヲ行フ者
 ヲ賞ル爲ニ王ヨリ遣ハサレタル有司ニ服フベシ、ソハ汝等善ヲ
 行フヲ以テ愚ナル人ノ無知ノ言ヲ止ルハ神ノ旨ナレバ也、汝等
 自由ナル者ノ如クセヨ、然下其自由ヲ以テ惡ヲ掩フコナク神ノ

僕ノ如クスベシ、凡ノ人ヲ敬ヒ兄弟ヲ愛シ神ヲ畏レ王ヲ尊ムベシ

(第三) 此王國ハ新約ニ於テ「神ノ國」ト稱セラル(路加四ノ四十三) 其故ハ之ヲ人ノ國ト區別セン爲又キリストトハ神ニシテ此國ニ於テ至上ノ權威アル者ナレバ也、又キリストノ國ト云ヒ(馬太二十ノ二十一)「人ノ子ノ國」(馬太十六ノ二十八)「神ノ愛子ノ國」ト稱セラル(哥羅一ノ十三)其故ハ此國ノ政治ノ大權ハキリストニ委子ラレタレバ也、或ハ又「天國」ト稱セラル(馬太三ノ二)其故ハ其王位ハ天ニアリ其本源ニ於テモ性質ニ於テモ此國ハ天ニ屬シ且天ニ於テ成就スベキ者ナレバ也、或ハ又「義人ノ父ノ國」ト稱セラ

ル其故ハ此國ニ屬スル者ハキリストニ由テ神ノ子輩タレバ也、又「イエスノ父ノ國」ト稱セラル其故ハ神人兩性ヲ備ヘタルイエスキリストノ中保的ノ王國トシテ此國ハ父ヨリキリストニ委

子ラレタレバ也、凡テ此等ノ名稱ハ皆キリストヲ首トスル所ノ其教會ヲ指ス者ナリ、而シテ所謂顯明ノ教會ハ此王國ガ此世界ニ在テ存スル顯明ノ組織ヲ云フ也(新約聖書神學五十四丁二百九十四丁ヲ見ヨ)

(第四) 中保的ノ王國ノ王トシテキリストハ其教會ニ於テ獨一無二ノ立法者タリ、キリストトハ其聖靈ニ由リ聖經ニ於テ人ヲ教會ヘ入レ或ハ教會ヨリ退ル事ニ關スル律法ヲ設ケ且教會ヲ治ンガ爲ニ役員ヲ立又之ニ權威ヲ與ヘタリ(此事ハ教會政治ニ於テ辨論シタリ)

(第五) キリストノ榮光ノ國即チ來世ニ於ル其中保的ノ王國ノ政治ニ就テハ神ハ其仁慈叡智ヲ以テ現世ニ關スルガ如キ明白ナル啓示ヲ垂レ給ヘズ、使徒パウロコリントノ教會ニ謂テ曰我儕今鏡ヲ以テ見ル如ク見ル所昏然ナリ、然レ彼ノ時ニハ我ガ知

ラル、如ク我知ラン(前哥林十三ノ十二)

(一) 然レ我儕ノ確知スル所ナキニ非ズ、第一贖ハレタル者ノ外ハ誰モ其國ニ入ラズ、黙示二十一ノ二十七ニ曰凡テ潔ラザル者ト憎ムベキ行ヲ爲ス者或ハ謊ヲ云フ者ハ此ニ入ルコト得ズ、唯羔ノ生命ノ書ニ録サレタル者ノミ入ナリ(加拉五ノ二十一參考)

(二) 凡テ此國ニ受入ラル、者ハ唯其性徳悉ク完全ニセラル、ノミナラズ大ナル權威榮光ヲ賜ハル、但以十二ノ三ニ曰智キ者ハ天ノ光輝ノ如ク耀カン、多人ヲ義ニ歸ラシムル者ハ星ノ如ク耀キテ永遠ニ及バン、前哥林六ノ三ニ曰汝等我儕ガ天使ヲ鞠カントスルヲ知ラザランヤ、後提摩二ノ十二ニ曰我モシ忍バ、彼ト共ニ王ト爲ルベシ(黙示一ノ六、二十二ノ五參考)

(三) 此王國ハ永遠無窮ナリ、約翰三ノ三十六ニ曰子ヲ信ズル者

ハ窮ナキ生命ヲ得(詩篇十六ノ十一、馬太十九ノ二十九)

(四) 聖徒ノ體ハ靈體ニシテ永遠不死ノ者タルベシ、前哥林十五ノ五十ヨリ五十四ニ曰兄弟ヨ我儕之ヲ言ハン、血肉ハ神ノ國ヲ嗣グコト能ハズ、亦壞ル者ハ壞ザル者ヲ嗣グコト能ハズ、視ヨ我汝等ニ奧義ヲ告ン、我儕悉ク寢ルニハ非ズ、我儕皆終ノ鐘ノ鳴ラン時忽テ瞬息間ニ化セン、ソハ鐘鳴ラン時死シ人甦テ壞ズ我儕モ又化スベケレバ也、此壞ル者ハ必ズ壞ザル者ヲ衣、死ル者ハ必ズ死ザル者ヲ衣ルベシ、此壞ル者壞ザル者ヲ衣、死ル者死ザル者ヲ衣ン時聖書ニ記シテ死ハ勝ニ吞レント有ルニ應フベシ
此事ハ世末學ノ部ニ至テ尙詳説スベシ

第十六章 キリストノ卑謙

キリストノ中保ノ行ハ二様ノ形狀ニ於テ成就シタル者トシテ

考ルコトヲ得ベシ、第一卑謙ノ形狀第二高舉ノ形狀是レ也
 聖經ニ於テ此二様ノ形狀ヲ一所ニ説タル處アリ、例セバ路加二
 十四ノ二十六ノ如シ、曰キリストハ此等ノ苦難ヲ受テ其榮光ニ
 入ベキニ非ズヤ、又腓立二ノ六ヨリ十一ニ曰彼ハ神ノ體ニテ居
 シカド自ラ其神ト匹シク在ル所ノ事ヲ棄難キ事ト思ハズ、反テ
 己ヲ虚フシ僕ノ貌ヲ取テ人ノ如クナレリ、既ニ人ノ如キ形狀ニ
 テ現ハレ己ヲ卑シ死ニ至ル迄順ヒ十字架ノ死ヲサヘ受ルニ至
 レリ、是故ニ神ハ甚シク彼ヲ崇メテ諸ノ名ニ超ル名ヲ之ニ予ヘ
 給ヘリ、是ハ天ニ在ル者及ビ地ノ下ニアル者ヲシテ悉クイエス
 キリストハ主ナリト言著ハシテ父ナル神ニ榮ヲ歸セシメン爲
 也

此二ノ形狀ヲ考フルニ當テ我儕ハ宜シク我が中保ニ就テ既ニ
 學ビタル所即チ彼ハ眞ニ又無窮ニ神ニシテ榮光アル三一ノ第

二ノ「ペルソナ」神子ニシテ凡ノ事ニ就テ父ト聖靈ト匹シキモノ
 タル事ヲ記憶スベキ也、キリストハ神ニテアリナガラ人ノ罪ヲ
 贖ハン爲ニ己ヲ卑シ神ノ形狀ヲ變テ人ノ形狀ヲ取リ而モ眞ノ
 神ニテアリナガラ眞ニ人トナリタリ、而シテ其贖罪ノ行ヲ成就
 スルヤ父ニ由テ崇メラレテ天上ノ位ニ復シ一ノ「ペルソナ」ニシ
 テ神人兩性ヲ兼テ其榮光窮アラザル也

茲ニキリストノ卑謙トハ何ヲ指スヤトノ緊要ナル問題アリ、概
 シテ之ヲ言ヘバ其肉體トナリタルヨリ昇天シテ父ニ歸リタル
 時ニ至ル迄凡テ其地上ニ在テ遭遇シタル一切ノ事ヲ指スト我
 儕ハ答フベシ、ウエストミンステル略問答ニハ(第二十七條)左ノ
 如ク之ニ答ヘタリ、曰キリストノ卑カリシ事ハ此世ニ生レ賤ニ
 居リ又神ノ律法ノ下ニ服シ此世ノ苦難ト神ノ怒又詛ハレタル
 十字架ノ死ヲ受ケ葬ラレテ暫時死ノ權ノ下ニ居シ事ナリト、即

チ此中ニ第一其肉體ト成タル事、第二降誕ノ時ノ境遇及ビ在世中ノ賤キ形狀、第三律法ノ下ニ服シタル事、第四世人ヨリ慮遇ヲ蒙リタル事、第五サタンノ試惑及攻撃ヲ受タル事、第六神ノ怒ヲ身ニ任タル事、第七十字架上ニ於テ詛ハレタル死ヲ遂タル事、第八其埋葬第九暫時死ノ權下ニ服シタル事即チ使徒信經ニ所謂陰府ニ降タル事ヲ含有セリ

(第一) 神ノ子ガ肉體ト成タルハ自ラヲ卑シ己固有ノ性ヨリハ無限ニ卑キ性ヲ取タル也、天地ノ創造者ニシテ女ヨリ生レ僕ノ形狀ヲ取タリ、加拉四ノ四、五ニ曰然レモ期己ニ至ルニ及ビテ神其子ヲ遣ハシ給ヘリ、彼ハ女ヨリ生レ且律法ノ下ニ服シタリ
(第二) 加之ナラズ其降誕ノ時ニモ王宮ノ中ニ生レズ、厩ノ中ニ生レ馬槽ノ裏ニ臥シタリ、以賽五十三ノ二ト三ニ曰彼ハ主ノ前ニ芽ノ如ク燥キタル土ヨリ出ル樹株ノ如クツダチタリ、我儕ガ

見ルベキ艶ハシキ容ナク美シキ貌ナク我儕ガ慕フベキ艶色ナシ、彼ハ侮ラレテ人ニ棄ラレ、悲哀ノ人ニシテ病患ヲ知レリ、又タ面ヲオホヒテ避ルコトヲセラル、者ノ如ク侮ラレタリ、我儕モ彼ヲ尊崇ザリキ

(第三) 律法ノ權下ニ生レタリ(加拉四ノ四ト五)律法ノ下ニアル所ノ者ヲ贖ハンガ爲ニキリストハ人ト成リ己ノ民ノ爲ニ彼等ガ破リタル所ノ律法ニ順ヒタリ、至上至尊ノ立法者即チ榮光ノ王ニシテ自ラ其律法ニ服スル者トナレリ、キリストハ世間一般行狀ノ法則タル所ノ道德ノ法ニ從ヒ又ユダヤ人タル者ガ必ズ守ルベキ所ノモ一セノ律法ニ從ヒ又生命ノ契約トシテ始メアダムニ顯ハサレタル神ノ律法ニ從ヒ之ニ從テ己ノ民ニ生命ヲ與ヘ彼等ヲシテ罰ヲ免レシメンガ爲ニ自ラ其罰ヲ負ヒタリ
(第四) キリストハ其形狀ノ卑キガ爲ニ世人ニ蔑視セラレタリ、

彼等ハキリストヲ窘迫シ其教ヲ拒絕シタリ、其弟子等モ危難ノ時ニ臨テ之ヲ棄其一人ノ爲ニ敵ニ付サレタリ、而シテ鞭レ唾セラレ荆棘ノ冕ヲ戴セラレ侮辱セラレ大逆無道ノ犯罪人トシテ十字架刑ニ處セラレタリ、キリストノ誰ナルヲ思ヘバ是レ何等ノ卑謙ゾヤ

(第五) キリストハ又サタンノ攻撃ヲ受タリ、是レ唯曠野ニ於テ受タル試惑ノミニ非ズ、其後ニモ又其攻撃ニ逢ヒタリ(路加四ノ十三、希伯四ノ十五参考)且黑暗ノ勢ト戰テ遂ニ死シタル也(路加二十二ノ五十三参考)

(第六) 然レ凡テ此等ノ患難ヨリモ尙更ニ大ナリシハ父ノ震怒ヲ身ニ引受タル事ナリ、是事ノ如何ニ恐ルベキ卑謙患難ナリシヤハ我儕ノ能ク測知ルベキ所ニ非ズ、然レキリストハ我儕罪人ニ代リテ神ノ無限ナル義罰ヲ負ヒタルコトヲ知ル、夫レ我儕

ハ生來怒リ子罪ナルニ唯イエスキリストニ在テ來ラントスル怒ヨリ救ハル、也(以弗二ノ三、前帖撒一ノ十)

(第七) 然レ此卑謙苦難ハ十字架上ニ於テ其極點ニ達シタリ、即チ生命ノ主トナリテ死シ我ガ神我ガ神何ゾ我ヲ捨給フヤト呼ビタリ、此號呼ニ於テ我儕ハ他人ノ未ダ曾テ受タルコトナク決シテ受ルコト能ハザル所ノ卑謙苦難ヲ見ルベシ

(第八、第九) 其後キリストハ葬ラレ而シテ己ノ預言ニ違ハズ暫時死ノ權ニ從ヒタリ

使徒信經中ノ「彼ハ陰府ニ下レリト」箇條ニ就テ一ノ記臆スベキ歴史上ノ實事アリ、即チ第四世紀ノ半頃迄ハ古代ノ信經中ニ此箇條ノ更ニ見エザル事ナリ、何故ニ第四世紀ノ半ニ至リテ此箇條ヲ追加シタルヤ其理由明白ナラザレドモ恐クハキリストニハ人ノ靈魂ナシト主張シタルアポリナリス派トノ議論ノ末之

ヲ加ヘタル者ナラン、果シテ然ラバ此語ハキリストノ肉體ノ葬
 ラレタル時ニ其靈魂ハ他ノ人ノ靈魂ノ如ク陰界ニ入リタリト
 ノ意義即チキリストノ肉體ト靈魂ト死後ノ凡テ他ノ人ノ肉體
 ト靈魂ノ如ク其死ノ時ヨリ復活ノ時ニ至ル迄處ヲ異ニシタリ
 トノ意義ニシテ即チウエストミンステル略問答ニ所謂暫時死
 ノ權ノ下ニ居シトノ意義ニ外ナラズ
 或説ニ曰彼ハ陰府ニ下レリトハ唯彼ハ葬ラレタリトノ義ヨ過
 ズト、然レ用使徒信經ノ如キ簡明ナル文章ニ於テ此簡條ヲ重複
 スルコアラントハ思惟スベカラズ
 又一説ニ曰是レキリストガ十字架上ニ於テ受タル苦難ノ甚キ
 コヲ形容セルニ過ズト(ハイデルベルグ問答第四十四問ヲ見ヨ)
 此説ニ對シテハ是レ此處ニ舉述シタル自然ノ順序ヲ亂ス者ナ
 リトノ正確ナル批難アリ、何トナレバ此説ニ由レバキリストノ

十字架上ノ苦難ノ事ヲ其死ト埋葬ノ事ノ後ニ舉ゲ且既ニ舉タ
 ル所ノ其苦難ト分離セシメザルヲ得ザレバ也
 又一説ニ曰夫レキリストノ死ハ其卑謙ノ極點ニシテ其陰府ニ
 下リタルハ其高舉ノ始ナリ、何トナレバ其陰府ニ下リタルハ即
 チサタント黑暗ノ勢ニ勝タル事ヲ顯ハシ且其罪ヲ定メンガ爲
 ナレバ也ト
 又一説ニ曰キリストハ實ニ地獄即チ滅ビタル者ノ罰ヲ受ル處
 ニ往キ己ノ受クベキ苦難ノ一部分トシテ彼等ノ苦難ヲ受タル
 也ト、然レ此説ハキリストガ十字架ニ於テ事竟リメト呼ビタ
 ル語ニ合ハズ
 羅馬教會ノ説ニ由レバ彼陰府ニ下レリトハキリストハ死後神
 人兩性ヲ具備シナガラ舊約時代ノ聖徒等ノ靈魂ガ死シテ後遣
 ハサレテ救ノ顯現適用ヲ待タル所ノ陰府ノ其部分ニ下テ彼等

ニ福音ヲ宣ベ而レテ彼等ヲ天ニ導キタルノ意ナリト云フ
 倍此事ニ關シテ人々ノ通常引用スル所ノ聖經ノ重ナル本文ハ
 左ノ如シ
 詩篇十六ノ十、十一ニ曰ソハ汝我魂ヲ陰府ニ遺置キ給ハズ、汝ノ
 聖者ヲ墓ノ中ニ朽シメ給ハザレバナリ、汝生命ノ道ヲ我ニ示シ
 給ハン、此本文ノ意義ハ行傳二ノ三十七ヨリ四十一ニ使徒ペテ
 ロガ引用シタル所ニ由テモ又十三ノ卅四、五ニ使徒パウロガ引
 用シタル所ニ由テモ明白ナリ、此ノ處ニハ孰レモ惟キリストノ
 復活ヲ證セン爲ニ之ヲ引用シタリ
 以弗四ノ九ニ曰己ニ上ニ昇レリト云ヘバ先ヅ地ノ下ニ降リレ
 ニ非ズヤト、然レモ此ニ所謂地ノ下トハ陰府ヲ指ストノ證ハ更
 ニ之ナキ也、反テパウロハ第六十八ノ詩篇ヨリ或語ヲ引キテ論
 シテ曰此詩篇ニ謂フ所ノ者ハ必ズメツシヤナリ、何トナレバ彼

ハ天ニ昇レリト謂ヘバ也、而テ彼尙論ジテ曰己ニ天ニ昇レリト
 謂ヘバ先ヅ地ニ降ラザルベカラズト、此ニ云フ地ノ下トハ即チ
 以賽四十四ノ二十三ノ如ク唯「世界」ノ義ニ過ズ
 然レモ最モ解シ難キ本文ハ前彼得三ノ十八ヨリ二十ナリトス、
 曰キリストモ一次罪ノ爲ニ苦ヲ受ク、義者不義者ニ代レリ、是レ
 我儕ヲ引テ神ニ至ラン爲ナリ、彼其肉體ハ殺サレ其靈ハ生サレ
 タリ、彼靈ヲ以テ獄ニアル靈ニ宣傳ヘタリ、此獄ニアル靈ハ昔ノ
 ア方舟ヲ備ル間神ノ忍テ待給ヘル時從ハザリシ靈ナリ、此方舟
 ニ入り水ニ由テ救ヘレン者ハ僅ニシテ惟八人ナリキト、此本文
 ノ意義明白ナラズ、最良ノ學者ノ說一定セズ或人ノ說ニ由レバ
 キリストノ靈ハ其死後獄即チ死人ノ靈ノアル處ニ住テ彼等ニ
 福音ヲ宣傳シタルナリトス、而シテ此見解ニ基キ死人ノ靈ニ福
 音ノ宣傳セラレタル事ニ就テ種々ノ說ヲ立タル者アリ、然レモ

我儕ハ左ノ事ニ注意スベシ、第一何ノ本文ヲ論ゼズ神ノ言ニ於テ他ノ處ニハ更ニ教ヘザル所ノ教理ヲ立ル解説ハ容易ニ許容スベカラズ、第二此ニハ惟ノアト同時ノ人ノ靈ニ宣傳ヘラレタル事ノミヲ説テ其他ニ及バズ、第三其宣傳ラレタルハ救ヲ宣ラレタルナルヤ或ハ刑罰ヲ宣ラレタルナルヤ知ルベカラズ、第四縱令之ヲ宣傳ヘタルハキリストノ靈ニシテ又其宣傳ラレタル事ハ救ナリト假定スルモ復ビ此事アルベシトハ此本文ニ由ルモ他ノ本文ニ由ルモ更ニ此證アラザル也

プロテスタント派ノ普通ノ説ニ由レバ(博士ホツヂ氏ニ從フ同氏神學綱目第四百四十丁ヲ見ヨ)キリストハ肉體ニ於テ殺サレ靈ニ由テ(原文ヲ見ヨ)生サレタリ、此靈ハ即チキリストガ是ヨリ先數百年前ニノアニ授テ以テ彼ヲシテ義ヲ宣シメタル所ノ者ニシテ其靈ヲ以テキリストハ天ヨリ降り當時ノ人ニ宣傳ヘタ

リ、彼等ハ己ノ罪惡不信ニ由テ獄中ノ靈トナリタル也トス

第十七章 キリストノ高擧

キリストノ高擧ニ四事ヲ包含ス、第一復活、第二昇天、第三神ノ右ニ座スル事、第四末日ニ再臨シテ世ヲ審判スル事

第一 キリストノ復活
キリスト死シテ葬ラレ其靈魂ハ陰府ニ下タル後ニ其身體靈魂再ビ相合シタリ、是レキリスト教ノ基本タル一大實事ニシテ世界ノ歴史ニ於テ最モ確乎タル實事中ノ一ナリトス

一 キリスト復活ノ證據
(一) 舊約聖書ニ於テ其預言アリ、詩篇十六ノ十、十一ニ曰汝我が靈魂ヲ陰府ニ遺置キ給ハズ、汝ノ聖キ者ヲ墓ノ中ニ朽シメ給ハザレバナリ、汝生命ノ道ヲ我ニ示シ給ハン(行傳二ノ二十七ヨリ

(二) キリスト自ラ之ヲ前言シタリ、約翰二ノ十九ヨリ二十一ニ
日イエス答テ汝等此殿ヲ毀テ、我三日ニシテ之ヲ建ント曰ケレ
バユダヤ人云ケルハ此殿ヲ建ルニハ四十年ヲ經シニ汝三日ニ
テ之ヲ建ルカ、イエスノ如此云ルハ其身ノ殿ヲ指セル也(馬太二
十ノ十九參考)

(三) 此事果シテ眞ナラバ容易ニ之ヲ證スベク若シ偽ナラバ又
容易ニ之ヲ證スベキ也、而シテ此實事タル証據ハ許多反覆諸種
確實ナリ、且キリストノ非凡ナル出生性情ヲ記憶スレバ其復活
ハ更ニ怪ムベキニ非ズ

(四) 其復活シタル後之ニ接シ之ト語リタル證人モ其數許多ニ
シテ証人トナリテ十分人ノ信用ヲ受ルニ足ル者也、即チ十一ノ
使徒及ビ使徒パウロト五百餘ノ弟子是ナリ、行傳一ノ三ニ曰夫

レイエスハ苦難ヲ受シ後多ノ確實ナル証ヲ以テ己ノ活タル事
ヲ現ハシ四十日ノ間彼等ニ見ヘ神ノ國ノ事ニ就テ語レリ、前哥
林十五ノ三ヨリ八ニ曰我が汝等ニ傳ヘシハ我が受シ所ノ事ニ
テ其一ハ即チ聖書ニ應ヒテキリスト我儕ノ罪ノ爲ニ死又聖書
ニ應ヒテ葬ラレ第三日ニ甦ヘリケバニ現ハレ後十二ノ弟子ニ
現ハレ給ヘルヲナリ、如此現ハレ給ヘル後五百ノ兄弟ノ共ニ在
ル時亦之ニ現ハレ給ヘリ、其兄弟ノ中多クハ今尙世ニアリ、然レ
モ寢リタル者モアリ、此後ヤコブニ現ハレ又凡ノ使徒ニ現ハレ
最後ニ月足ラズ者ノ如キ我ニモ現ハレ給ヘリ(行傳九ノ三ヨリ
九、加拉一ノ十二參考)

(五) 此等ノ証人ハ人ニ欺カルベキ者ニ非ス、其誠實ナリシ事ハ
彼等ガ此事ヲ証センガ爲ニ甘受シタル所ノ苦難犠牲ニ由テ明
白ナリ

(六) 使徒等が行ヒタル所ノ奇跡ハ即チ神ガ其証據ノ真ナルヲ保証シタル者ナリ(希伯二ノ四參考)

(七) 神ハ其聖靈ニ由テ今日ニ至ル迄キリストノ復活ノ真ナルヲ証ス、即チ凡テ眞實ナルキリスト信徒ハ其心ヲ聖潔高尚ニシ且安慰スル所ノ感能ヲ實驗スル也(行傳五ノ三十二參考)

(八) 安息日ハ元來一週ノ第七日ナリシヲ改メテ第一日トナシタルハ即チ第一世紀ノキリスト信徒ガ悉クキリストノ復活ヲ信シタル記念碑ナリ

(九) キリスト教會ノ存在及ビ其福音ガ之ト共ニ増ス萬國ニ弘マル事モ亦其一証ナリ

二 キリストノ死ヨリ復活シタルハ三一ナル神ノ大能ニ由レリ

(一) 聖經ニ於テ之ヲ父ナル神ノ能ニ歸セリ、羅馬六ノ四ニ曰キ

リスト父ノ榮ニ由テ甦ラサレシ如ク云々(行傳二ノ二十四、十三ノ三十、三十三、羅馬十ノ九、以弗一ノ二十參考)

(二) 然レモ他ノ本文ニ於テハ之ヲ神子タルキリスト自ラニ歸セリ、約翰十ノ十七、十八ニ曰我ガ父我ヲ愛ス、ソハ我再ビ生命ヲ得ンガ爲ニ生命ヲ捐ルガ故ナリ、我ヨリ之ヲ奪フ者ナシ、我自ラ之ヲ捐ルナリ、我之ヲ捐ルノ權能アリ亦能ク之ヲ得ルノ權能アリ(約翰二ノ十九參考)

(三) 或本文ニ於テハ之ヲ聖靈ノ能ニ歸シタレモ先ノ本文ノ如クハ明白ナラズ、例ヘバ羅馬八ノ十一、前提摩三ノ十六ノ如シ此同一ノ事ヲ三一ノ神ノ能ニ歸スルハ聖經ニ於テ他ニモ其例ナキニ非ズ、例ヘバ天地創造ノ工ノ如シ、凡テ神ノ權能ニ由ル外部ノ働ハ之ヲ正當ニ三ベルツナ中ノ一ニ歸スルヲ得ベク又其凡ニ歸スルヲ得ベシ、何トナレバ彼等ハ皆同一體即チ惟一

ノ神ナレバ也
 三、キリストノ復活體ノ性質、固ヨリ此事ニ就テハ聖經ニ由テ知ルノ外ハ更ニ知ルベキ所ナキ也
 (一) 是レ即チ十字架ニ釘ラレタル所ハ者ト同一體タリト雖又大ニ之ト異ナレル所アリ、其同一體タリシ事ハ其疵跡ニ由テ知ルベク(路加二十四ノ三十九、四十ヲ見ヨ)而シテ其前日ト大ニ異ナリシ事ハ之ヲ見ル者ノ直ニ識認セザリシ事ト(約翰二十ノ二十四)其通常ノ身體ヲ管束スル所ノ法則ニ由テ管束セラレザリシトニ由テ知ルベシ、例ハ六十一ノ弟子等ガ堅ク戸ヲ鎖シテ集リ居タル時ニ忽然トシテ其中ニ現ハレ(路加二十四ノ三十六)又三マオニ於テ二人ノ弟子ノ目前ニ於テ忽然失セタルガ如シ(路加二十四ノ三十一)等
 (二) キリストノ復活體ハ前日ト大ニ異ナリシト雖其昇天ノ

時程ハ異ナラザリシガ如シ、蓋其體ハ尙血肉ヲ有セリ、然レモ血肉ハ神ノ國ヲ嗣グコ能ハズトアリ(前哥林十五ノ五十)故ニキリストノ復活體ハ其榮光體トハ異ナル所アリシ也、然レモ其體ハ我儕其方法ヲ知ラズト雖元ト同一ノ體即チ十字架ニ釘ラレタルト同一體タルコト疑ヲ容レザル也(前哥林十五章參考)
 四、キリストノ復活ノ教理ノ緊要
 此事ハ使徒パウロガ前哥林十五ノ十二ヨリ十九ニ論ジタリ曰キリストトハ死ヨリ甦リシト宣傳ルニ汝等ノ中死ヨリ甦ルコトナシト云フ者アルハ何ゾヤ、若シ死ヨリ甦ルコトナシト云ハマキリストトモ亦甦ラザリシナラン、キリストト若シ甦ラザリシナラバ我儕ノ宣ル所空シク又汝等ノ信仰モ空シカラン、且我儕神ノ爲ニ僞ノ證ヲスル者トナラン、我儕神ハキリストヲ甦ラセシト證スレバ也、若シ死シ者甦ルコトナクバ神キリストヲ甦ラシムルコト

ナカルベシ、若シ死ヨリ甦ルコトナクバキリストモ甦ルコトナカリ
 シナラン、若シキリスト甦ラザリシナラバ汝等ノ信仰ハ空シク
 汝等ハ尙罪ニ居ラン、又キリストニ在テ寢リタル者モ滅シナラ
 シ、若シキリストニ由レル我儕ノ望惟此世ノミナラバ凡ノ人ノ
 中ニテ最モ憐ムベキ者ナリ
 又使徒ガ福音ヲ宣ル時ニハ勉メテキリストノ復活ヲ説キ且自
 ラ其復活ノ證人ト稱シタルコトニ注目スベシ(行傳二ノ三十二、三
 ノ十五、四ノ二ト三十二參考)

- (一) キリストノ復活ハ其約束ノメツシヤタルコトヲ証スル爲ニ
 必要ナリ(詩篇十六ノ十、約翰十ノ十七)
- (二) 又其犠牲ハ十分ニシテ神ニ嘉納セラレタルコトヲ證スル爲
 ニ必要ナリ(羅馬四ノ二十五)
- (三) 是レ其神タル證據ナリ(羅馬一ノ四)

(四) 聖靈ノ遣ハサル、コトハ其復活ニ依レリ(約翰十六ノ七、行傳
 二ノ三十三)

(五) キリスト果シテ復活セバ我儕ニハ父ノ前ニ保惠師アリ(羅
 馬八ノ三十四)

(六) キリストノ復活ハ我儕ノ復活ノ證據並ニ約束ナリ何トナ
 レバキリストハ其民ノ首又代表者ナレバ也、羅馬八ノ十一ニ曰
 若シイエスヲ死ヨリ甦ラシ、者ノ靈汝等ニ住バキリストヲ死
 ヨリ甦ラシ、者ハ其汝等ニ住ム所ノ靈ヲ以テ汝等ガ死ヌベキ
 身體ヲモ生スベシ(前哥林十五ノ廿ヨリ廿三參考)

第二 キリストノ昇天

一 キリスト昇天ノ證據ハ大體ニ就テハ其復活ノ證據ト異ナ
 ルナシ一層細密ニ言ヘバ

(一) 使徒等之ヲ目撃シタリ(行傳一ノ四ヨリ十一)

(二) 殉教者ステパノハ死ニ臨テ証シテ曰視ヨ、我天開テ神ノ右ニ人ノ子ノ立ルヲ見ルト(行傳七ノ五十五、五十六)

(三) パウロハダマスコニ往ク途上ニ於テ昇天シタルイエスノ異象ヲ見タリ(行傳九ノ一ヨリ六)

(四) イエスノ昇天ハ其昇天前ニ約束シタル聖靈ノ注ガレタル事ニ由テ証スベシ(行傳一ノ八、二ノ四)

二 昇天ノ時ト處

(一) 其時ハ復活後四十日ナリキ(行傳一ノ三)此日數ハ十字架ニ釘ラレタル所ノ者ハ死ヨリ甦リタルコトヲ証スル爲ニ必要ナリキ

(二) 其處ハエルサレムヲ去ル遠カラザル橄欖ト名ル山ナリキ、

三 キリストノ昇天ハ眞實ニシテ人々之ヲ目撃シタリ、實ニ地ヲ離レテ天ニ昇リタル也、使徒等之ヲ見タルニ遂ニ雲來テ之ヲ

掩ヒタリ、而シテ二人ノ天使來テ其昇天シタルコトヲ保証シタリ(行傳一ノ九ヨリ十一)聖經ニ所謂天トハ或ハ蒼々ノ天ヲ指シ或ハ日月星辰ヲ指シ或ハ神ノ靈國ヲ指シ(腓立三ノ二十)或ハ神位ノアル處ヲ指ス、キリストノ昇リタルハ即チ此神ノ位ノアル處ニシテ實ノ場所ナリ、單ニ有様ニ非ズ、即チ我儕モキリストノ約束ニ循テ往カント冀望スル所ノ場所ナリ(約翰十四ノ一ヨリ三)

四 キリストノ昇天ノ必要ハ其復活ト均シク明白ナリ

(一) 其預言アリ (詩篇六十八ノ十八、以弗四ノ八ヨリ十)

(二) 天ハ即チ崇メラレタル我儕ノ中保ノ當ニ往クベキ處ナリ

(三) キリストハ我儕ノ大祭司トシテ神ノ前ニ其禮物ヲ獻グル也(希伯九章)

(四) 其聖靈ヲ遣ハサンガ爲ニ必要ナリ(約翰十六ノ七)

(五) 己ノ人民ノ爲ニ處ヲ備ンガ爲ニ必要ナリ(約翰十四ノ二、三)

之ヲ約言スレバキリストノ昇天ハ其中保ノ行ヲ成就スル爲ニ必要ナリ

第三 キリスト神ノ右ニ坐スル事

我儕ハ宜シク神ノ右ニ坐スル所ノ者ハ惟ニロゴスニ非ズ、又未ダ肉體ト成ラザル時ノ神ノ子ニ非ズ、又唯キリストノ人性ノミニモ非ズ、又人ノ形狀ノ中ニ匿シタル神ノ子ニモ非ザルコトヲ記
憶スベキ也、我儕ノ中保贖主ナルキリストハ天ニ在テ其神性及
ビ人性ニ於テ至上ノ榮光ヲ有スルコト聖經ニ明白ナリ、此高擧ノ
意味ハ之ヲ顯ハス所ノ聖經ニ由テ知ルベシ

(一) 神ノ右ハ榮光權威ノ位地ナリ、以弗一ノ二十ヨリ二十二ニ
曰即チキリストニ行シ所ニシテ彼ヲ死ヨリ甦ラセ諸ノ政ト權
威ト能力ト宰治又此世ノミナラズ來ラントスル世ニモ凡テ稱
フル所ノ名ノ上ニ置キ天ノ處ニテ己ノ右ニ坐セシメシ能ナリ、

又凡ノ物ヲ彼ノ足下ニ置キ彼ヲ凡ノ物ノ上ニ首トナシ此ヲ教會ニ賜ヒテ其首ト爲セリ(腓立二ノ六ヨリ十一)

(二) キリストハ神タルガ故ニ此榮光ト權威アリ、希伯一ノ三、四
ニ曰彼ハ神ノ榮光ノ輝其質ノ眞像ニテ己ガ權能ノ言ヲ以テ萬
物ヲ扶持チ我儕ノ罪ノ淨ヲナシテ上天ニ在ス威光ノ右ニ坐シ
又彼ガ受シ名ノ天ノ使ノ名ヨリモ愈レル如ク彼等ヨリハ愈レ
リ

(三) 此高擧ハ特ニ其中保ノ行ニ基テキリストノ屬ナリ、希伯十
ノ十二ニ曰然ド此人ハ一次罪ノ爲ニ一ノ犧牲ヲ獻ゲテ窮ナク
神ノ右ニ坐シ云々

(四) 此高擧ハ其中保ノ權威ノ一統普通ナルコトヲ顯ハス(以弗一
ノ二十ヨリ二十二)

(五) 彼ハ即チ位ニアル祭司(撒加六ノ十三)萬物ノ上ニ立ツ教會

ノ首(以弗一ノ二十二)ニシテ其贖罪ノ行ヲ成就セシガ爲ニ天地萬物ノ上ニ崇メラレタル也(前哥林十五ノ二十五ヨリ二十八)而シテ此權威ハ元來特別ノ目的アリテ中保トシテ彼ニ托セラレタル者ナルガ故ニ此目的ノ成就シテ最後ノ敵ノ服セラル、時ハ此大權ヲ父ニ還シ而シテ己ノ贖ヒタル人民ノ王トシテ無窮ニ治メ給フ也(前哥林十五ノ二十四、二十五)

是故ニキリストノ高擧ノ結果ハ其中保ノ行ノ確カニ成就スルヲ即チ其人民ノ各々救ハル、其教會ノ愈々進歩シテ勝利ヲ得ルヲト其敵ノ征服セラル、コナリトス

第四 キリスト再臨シテ世ヲ審判スルコ(此ハ博士ホツヂ氏組織神學第二卷六百三十八丁ヲ引用シタリ)

是レ其高擧ノ最後ノ事ナリ、方伯ピラトノ法庭ニ罪人トシテ告訴セラレタル者、不義ナル裁判ニ由テ犯罪人ト定メラレタル者、

種々ノ侮辱ヲ蒙リタル後ニ惡漢等ト共ニ十字架ニ釘ラレタル者將ニ權威ト榮光ヲ以テ世ニ臨ントスル也、而シテ其面前ニ於テ萬國萬世ノ人皆集テ其口ヨリ最後ノ審判ヲ受クベキ也、然ル時ニキリストハ凡ノ智慧アル者ノ前ニ崇メラレテ顯然彼等ノ至尊ナル審判者トナル也

此事ニ就テ聖經ノ教フル所ヲ舉レバ(第一)キリスト再臨ルコ(第二)其臨ルハ身ヲ以テ臨リ人ノ目ニ見ヘ且榮光アルコ(第三)其再臨ノ目的ハ世ヲ審判ヒン爲ナルコ(第四)其審判ヲ受クベキ者ハ生者死者ノ別ナキコ即チ其時生存スル者モ其前ニ死シタル者モ悉皆其審判ヲ受ルコ(第五)其審判ノ律法ハ即チ人ノ心ニ銘セラレタルカ或ハ其言ニ示サレタル神ノ律法タルコ、神ノ默示ヲ有スル者ハ之ニ依テ審判セラレ此ノ如キ成文律ナキ者ハ彼等ガ實ニ行シタル光ニ依テ審判セラレベキ也(第六)此審判ハ人

々肉體ニ在テ爲シタル行ニ依ルコト(第七)此審判ハ最後ノ審判ニシテ各人ノ運命永遠ニ定マルコト

(行傳一ノ一ヨリ十一、默示一ノ七、行傳十七ノ三十一、前彼得四五、羅馬二ノ六ヨリ十六、馬太二十五ノ三十一ヨリ四十六參考)此事ハ世末學ノ部ニ於テ尙詳論スベシ

第十八章 聖靈人ニ救ヲ得セシムルノ行爲

我儕既ニ人ノ救拯ニ關スル神ノ目的ト救主ノ「ペルソナ」及ビ行爲ヲ論ジタレバ是ヨリ聖靈ガ其救ヲ人ニ得セシムルノ行爲ヲ論ズベシ

ウゴストシンステル略問答ニ曰(第二十九條)聖靈我儕ヲシテキリストノ贖ヲ得サシムルニ由テ其ヲ我儕ニ與カラシムル也ト本題ニ於テハ聖靈ガキリストニ由テ買ハレタル贖ヲ恩恵ノ契

約ニ於テ彼ニ與ヘラレタル所ノ者ニ得セシムル其感化ト行爲トヲ含メリ、是故ニ聖靈ノ感化ト行爲トヲ指シテ或ハ恩恵ノ契約ノ利益ト稱シ或ハ贖ノ利益トモ稱ス而シテ之ヲ論ズルニハ左ノ順序ニ從フヲ常トス
第一受召第二更生第三信仰第四悔改第五稱義第六爲子第七爲聖第八保存、我儕モ此順序ニ從ヒテ之ヲ論ゼン

第十九章 受召

此受召ト云フ語ハ聖經ニ於テ聖靈ガ人ヲシテ罪ヲ悔イキリストヲ信ゼシムルニ至ル迄ノ方法ヲ指シテ用井タリ、例ヘバ羅馬一ノ六ニ信徒ヲ指シテイエスキリストノ召ヲ受シ者ト稱シ、又希伯三ノ一ニ同シク天ノ召ヲ蒙リシ者ト稱シ、後提摩一ノ九ニ聖召ヲ以テ召給ヘリ云々トアリ、且新約書ニ用井タル教會ト云

フ原語ハ「召出サレタル者等」ト云フ義ナリ参考スベシ
 聖靈ノ召ラ區別シテ二種トナス、曰一般或ハ外部ノ召即チ凡テ
 福音ヲ聞ク者ニ及ブ所ノ召、曰有効或ハ内部ノ召即チ能ク罪人
 ノ心ヲ感化シテ救ヲ受シムルニ至ル所ノ召是レナリ、此二種ノ
 召アルコトハ聖經ニ於テ明白ナリ、即チ其一種ヲ指シテ曰召バル
 、者ハ多シト雖選バル、者ハ少シト(馬太二十二ノ十四)而シテ
 其他ヲ指シテハ「召キタル者ハ之ヲ義トシ」云々ト云ヘリ(羅馬八
 ノ三十)(箴言一ノ二十四ト約翰六ノ四十五參照)
 第一 一般即チ外部ノ召
 此召ハ惟神ガ聖經ニ於テ自ラ授ケタル所ノ默示ニ由テ人ニ達
 スベキ者トス、蓋我儕ハ萬物ノ理ニ察シテ發明スル所少カラズ
 ト雖萬物ハ我儕ニ救ノ道ヲ示スコト能ハズ、使徒パウロハ羅馬
 十ノ十四ヨリ十七ニ荷モキリストノ教ヲ知ルニ非レバ救ヲ得

ヘカラズト教ヘタリ、第十七節ニ曰信仰ハ聞クヨリ出テ聞ク所
 ハ神ノ言ニ由レル也ト、又キリストノ言ヲ拒絕スル者ハ救ハル
 、コト能ハズトアリ、希伯三ノ三ニ曰此ノ如キ大ナル救ヲ我儕等
 閉ニシテ何テ逃ル、コトヲ得ンヤ、此ハ始メ主ニ託テ示サレタル
 ヲ聞シ者共我儕ニ確言タリト、蓋此外部ノ召ニ四ノ事ヲ含メリ、
 (一)救ノ道ノ公布(二)凡テ此道ニ從フ者ハ之ヲ救ハントノ神ノ自
 由至愛ナル約束(三)萬人キリストヲ信ジ之ニ從フベシトノ命令
 (四)萬人此恩賜ヲ受クベキ理由ノ説明是レナリ
 此召ハ神ヨリ特命ヲ蒙リタル者ニ由テ宣傳ヘラル、ヲ常トス、
 時トシテハ書籍談話ニ託ルコトナキニシ、モ非ズ、然レモ神ノ役者
 ガ福音ヲ宣傳スルニ託ルヲ以テ定法トス、羅馬十ノ十四、十五ニ
 曰然レバ未ダ信セザル者ヲ何テ籲求ルコトヲ得ンヤ、未ダ聞カザ
 ル者ヲ何テ信ズルコトヲ得ンヤ、未ダ宣ル者アラズバ何テ聞クコ

ヲ得ンヤ、若シ遣ハサレズバ何デ宣ルコトヲ得ンヤ
 此召ハ天下一般ノ召ニシテ萬國萬民ニ及ブベキ目的ノモノ也、
 キリストノ命ニ曰是故ニ汝等往テ萬國ノ民ヲ我弟子トセヨ(馬
 太二十八ノ十九)此召ハ被選者不選者ノ別ナク萬民平等ニ宣ラ
 ル、事ハ此キリストノ命令並ニ馬太二十二ノ十四ニ召バル、
 者ハ多シト雖選バル、者ハ少シトアリ又凡テ之ヲ受ル者ハ救
 ハルベシトノ約束(黙示二十二ノ十七)又之ヲ棄ル者ハ必ズ恐レ
 キ刑罰ヲ受クベシトノ威嚇ニ由テ證スベシ(約翰三ノ十八、十九)
 單ニ此外部ノ召ノミニテハ人ヲシテ救ヲ受シムルニ足ラズト
 雖其利益ヤ大ニシテ且明白也(一)是レ即チ神ノ選民ヲ集メン爲
 ニ設ケラレタル方法ノ一部分ナリ(三)是ニ由テ凡テ信ズル者ハ
 救ヲ受クベシトノ神ノ恩惠明白ニ顯ハル、ガ故ニ之ヲ棄ル者
 ノ無理惡逆ナルコト顯然タリ(約翰三ノ十八、十九)(三)其人心ヲ開キ

惡ヲ制スルノ感化力ノ爲ニ社會一般ニ及ブ所ノ利益アリ

第二 有効即チ内部ノ召

此内部ノ召トハ一層詳細ニ定義ヲ下セバ神ノ聖靈ガ罪人ノ心
 ニ於テ一般ノ福音ノ召ト共ニ又之ニ由テキリストハ即チ彼等
 ノ救主タルコトヲ確信受容セシムル所ノ恩惠ノ行爲ヲ云フ也
 一般外部ノ召ノ外ニ此有効内部ノ召アル事ハ左ノ項ニ由テ證
 スベシ
 一 聖靈ノ感化ト聖言ノ感化トヲ區別スル所ノ聖經ノ本文ア
 リ、約翰六ノ六十四、六十五ニ曰然ラ汝等ノ中ニ信ゼザル者アリ、
 夫レイエスノ如此云ヘルハ信ゼザル者ハ誰己ヲ賣ス者ハ誰ト
 云フ事ヲ元始ヨリ知レバ也、是故ニ我先ニ我父與ヘザレバ人能
 ク我ニ就ルナシト言シナリ、前帖撒一ノ五ニ曰我儕ノ福音汝等
 ニ來シハ只言ニ由テノミナラズ能ニ由リ聖靈ニ由リ又篤キ信

タル神ヲ愛スル者ノ爲ニ悉ク動テ益ヲ爲スヲ我儕ハ知レ、夫レ神ハ預メ知給フ所ノ者ヲ其子ノ狀ニ效ハセント預メ之ヲ定ム、此ハ其子ヲ多ノ兄弟ノ中ニ猶子メラセンガ爲ナリ、又預メ定メタル所ノ者ハ之ヲ召キ、召キタル者ハ之ヲ義トシ、義トシタル者ハ之ニ榮ヲ賜ヘリ云々

(三) 聖靈ノ召ハ即チ神ノ選ニ基クトス、後帖撒二ノ十三、十四ニ曰主ニ愛セラレ、兄弟ヨ、汝等ノ爲ニ我儕常ニ神ニ謝スベキ也、ソハ神始ヨリ汝等ヲ選ビ真理ヲ信ズルコト靈ノ潔メヲ蒙ルヲ由テ救ヲ得シメ給ヘバ也、神我儕ノ福音ヲ以テ汝等ヲ此福ニ召キ給ヘリ、汝等ヲシテ我儕ノ主イエスキリストノ榮光ヲ得シメシ爲ナリ、後提摩一ノ九、十ニ曰彼我儕ヲ救ヒ聖召ヲ以テ召給ヘリ、是レ我儕ノ行ニ由ルニ非ズ、惟神己ガ旨ト世ノ成ザリシ先ヨリキリストイエスノ中ニ我儕ニ賜ヒ恩恵ニ由ル也云々

(三) 凡テ恩恵ノ契約ノ利益ヘ即チ此召ノ結果也、以弗二ノ四ヨリ十ニ曰然ルニ矜恤ニ富ル神我儕ヲ愛スル所ノ大ナル愛ニ因リ罪ニ死シ時ニスヲ我儕ヲキリストト借ニ生シ(汝等恩ニ由テ救ハレシ也)又イエスキリストニアル我儕ヲ彼ト借ニ甦ラセ共ニ天ノ處ニ坐セシメ給ヘリ、是レ今ヨリ後ノ世々キリストイエスノ中ニテ我儕ニ施ス所ノ仁慈ヲ以テ其恩ノ勝レテ豊カナルコトヲ顯ハサン爲ナリ、汝等恩ニ由テ救ヲ得、是レ信仰ニ由テナリ、己ニ由ルニ非ズ、神ノ賜ナリ、行ニ由ルニ非ズ、此ノ如クナルハ誇ル者ナカラシ爲ナリ、我儕ハ神ノ造給ヘル者ナリ、即チ我儕ヲシテ善事ヲ行ヘシメン爲ニキリストイエスノ中ニ造給ヘリ、此事ハ神我儕ニ行ハセントテ預メ備ヘ給ヒシ所ナリ(前哥林一ノ二ニ參考)

是レ即チ聖靈ガ人ノ靈魂ニ及ス所ノ直接即時必勝ノ感化ニシテ之ニ一種新ナル靈ノ生命ヲ賦與スル者ナリ
 或ハ是レ惟聖經ノ真理ノ結果ニ過ズト論シタル者アリ、或ハ又萬民平等ニ與ヘラル、所ノ聖靈ノ感化ニ因テ聖經ノ真理ノ結果ノ一層熟シタル耳ト論シタルアリ、或ハ又是レ惟聖靈ガ人類固有ノ靈魂ノ能力ヲ獎勵スル耳ト論シタルモアリ、然レモ我儕ハ此等ノ説ヲ非トスル者ナリ固ヨリ聖經ノ真理ハ聖靈ノ用ウル所ノ具ナリ、然レモ聖經ノ教ニ由レバ人ノ靈魂ハ先ヅ一變スルニ非レバ真理ヲ信シ罪ヲ悔改シ神ニ服スル事ニ於テ其能力ヲ使用スル能ハズトス、而シテ此變化ヲ指シテ或ハ「新創造」ト稱シ(以弗二ノ十)或ハ「新生」ト稱シタリ(約翰三ノ三)蓋有効ノ召ト更生トハ同シク聖靈ノ行爲ナリト雖唯其關係スル所ヲ異ニセリ、「有効ノ召」トハ聖靈ガ福音ニ由テ人ノ心ヲ感化スル上ニ就テ云

「更生」トハ聖靈ノ感化ニ由テ人ノ靈魂ハ一變シタル有様ノ上ニ就テ云フ也、有効ノ召ハ即チ聖靈ノ直接ノ行爲タルコトハ左ノ箇條ニ由テ證スベシ
 一 人ガ真理ヲ受容ル、ハ神ノ力ニ依ラズンバアラスト明言スル所ノ聖經ノ本文アリ(上文掲ゲタル以弗一ノ十七、十八並行傳十六ノ十四參考)詩篇百十九ノ十八ニ曰願クハ汝我が目ヲ開キ汝ノ法ノ中ナル奇シキコトヲ我ニ見セ給ヘ
 二 罪既ニ擧ゲタル所ノ罪立二ノ十三ノ本文アリ、彼處ニハ人ノ靈魂中ノ行爲ヲ以テ神ノ行爲トナセリ
 三 其他既ニ擧ゲタル所ノ人ハ性來罪愆ノ中ニ死シ盲目ナリト説ク所ノ本文アリ(前哥林二ノ十四、後哥林四ノ四、以弗二ノ一參考)
 或ハ此聖靈ノ行爲ヲ指シテ「不可抗」ノ行爲ト稱スル者アリ何ト

ナレバ此召アル時ハ縱令一時ハ之ニ抗スベクモ竟ニハ必ズ之ニ從ハザルヲ得ザレバ也、然レモ「必勝」ノ召ト稱スルニ若カズ、何トナレバ一般ノ召ハキリストニ由テ救ヲ受ルコトヲ杜絶スル單ノ抵抗スル所タリト雖一旦聖靈ガ創世ノ先ヨリキリストニ在テ選レタル者ニ此有効ノ召ヲ以テ臨ム時ハ縱令一時ハ其人ノ罪アル性質ノ抵抗スル所トナルモ竟ニハ必ズ其目的ヲ遂ゲ其大ヲシテ救ヲ受ケシムルニ至レバ也、約翰六ノ三十七ニ曰凡テ父ノ我ニ與ヘシ者ハ我ニ來ラント、夫レ聖靈ハ人ノ徳性及ビ智性ノ法ニ反シテ働ク者ニ非ズ、却テ之ニ循テ働ク者ナリ、聖靈ハ人ニ新奇ナル能力ヲ創造シテ與ルニ非ズ、唯從前罪ニ因テ死シタル所ノ靈魂ノ能力ヲ復活シ之ヲ誘導シテ神ハ即チ人ノ最モ信任服役スベキ者ナリト崇尊セシムルニ至ル也、人ノ心ノ如此變化スルハ彼自ラ神ノ召ニ應ゼント決意シタルガ故ニ非ズ

又聖靈ノ行爲ニ協力シタルガ故ニモ非ズ、單ニ神ガ全能ノ力ニ由リ人ノ靈魂ヲ復活セシメ而シテ一タビ失ヒタル所ノ神ヲ選ブノ自由ヲ挽回シ且使用セシムル事ナリ、人己ガ救ヲ全ス何トナレバ神彼ニ在テ之ヲ全スレバ也、而シテ凡人ノ行爲ハ神ノ行爲ヲ結果ナリトス、
諸種ノ異説

- 一 ベレシアン派ノ説 彼等ハ原罪ノ教理ヲ拒絕スルガ故ニ凡テ人ハ聖靈ノ特別ノ祐助ナクシテ福音ノ召ニ從フノ能力アリト論ズ
- 二 半ベレシアン派ノ説 彼等ハ此聖靈ノ祐助ヲ必要トス、然レモ人先ヅ罪ヲ脱シ神ニ從フノ志望ヲ起ササル可ラズ、然ル時ニ此聖靈ノ祐助ハ與ヘラル、者ナリトス、故ニ彼等ハ人ガ求救ノ念ヲ起ス前ニ此聖靈ノ行爲ノ始ルコトヲ拒ム也

三 アルミニアン派の説は彼等へ凡て人へ其性全ク敗壞シタル者ニシテ自ラ毫モ善ヲ行フノ能力ナキコトヲ許容スト雖モリストハ齊シク凡人ノ爲ニ死シ而シテ凡ソ神ノ要求スル所ノ事ハ之ヲ行シ得ルモノノ能力ハ凡ソ人ニ與ヘアルガ故ニ人若シ此普通充分ノ恩惠ヲ用レバ即チ變ジテ特別有効ノ恩惠トナス也ト主張セリ

四 ルーテル派の説は彼等ガ凡て人ハ更生スル前ニハ神ニ歸依スルノ能力ナキコト又聖靈ノ祐助ニ協力スルノ能力モナキコト又此聖靈ノ行爲ハ單ニ靈魂ガ死ヨリ生ニ遷ルニ原因スルガ故ニ信者ヲ救ハルハ單ニ神ノ永遠仁慈ノ選ニ因ルト主張スル點ニ至テハ我儕ト同説ナリ惟彼等ノ説ノ異ナル所ハ不信者ガ救ハレザル所以ハ神ガ更生ノ恩惠ヲ彼等ニ賜ハラザルガ故ニ非ズシテ不信者自ラ邪惡ノ心ヲ以テ幾分カ萬人ニ與ヘラル

所ノ神ノ恩惠ニ抵抗スルガ故ナリト主張スルニ在リ

今此諸説ヲ總括セントスルニ當テ博士ホツジ氏神學論綱ノ譬喩ヲ引用セン(四百四十八丁)爰ニ甲乙二人アリ、齊シク罪人ナリ、而シテ甲ハ信シテ救ヲ受ケ、乙ハ信ゼズシテ滅ビタリ、其所以如何、ペレシアン派ノ者曰甲ハ自ラ信セント決シ乙ハ信ズマシト決シタルガ故ナリ、半ペレシアン派ノ者曰甲ハ先ヅ自ラ信ゼント力メ而テ聖靈ノ祐助ヲ受ケ乙ハ更ニ力メザリシガ故ナリ、アルミニアン派ノ者曰甲ハ普通ノ恩惠ト協力シ乙ハ爲サザリシガ故ナリ、ルーテル派ノ者曰甲乙共ニ神ノ恩惠ト協力スルノ能力ナレト雖乙ハ飽マデ恩惠ニ抵抗シ甲ハ終ニ從ヒタルガ故也、カルビン派ノ者曰甲ハ神ノ聖靈ノ感化力ニ由テ更生シ乙ハ之レナキガ故也

五 一千五百四十八年ニメラントン氏一説ヲ立以テカルビ

善行ハ三ノ原因アリテ生ズル者ナリ曰神ノ言曰聖靈曰神ノ言ニ抵抗セズシテ之ニ服スル所ノ人意是レ也又曰神ガ人ヲ引キ且悔改セシムル時ニハ其人ノ意志ノ働モ亦神ノ感化ニ相伴ラ者也ト其意義若シ人ノ改心ニ於テハ其固有ノ能力モ活動スルノ意ナラバ我儕ハ全ク同意ナリ然レモ其變化ノ神ノ行爲タルヲ必死者ノ復活ト一般ナリトス蓋是レ其人ノ身外ノ力ニ由テ生ジタル結果ナリ然ラザレバ此變化タルヤ一部ハ聖靈ノ行爲ニシテ一部ハ人ノ行爲ナリトセザル可ラザルベシ

第三章 第二十章 更生

更生ニ就テハ我儕左ノ七事ヲ講窮セントス

第一聖經ニ於テ用ヒタル其稱呼第二更生ノ性質第三其事實及

ニ必要第四小兒ノ更生第五更生ノ證據第六更生ト改心ノ區別

第七反對說

第一 聖經ニ於テ更生ヲ指シテ用ヒタル稱呼

第二 創造 以弗二ノ十二曰我儕ハ神ノ造給ヘル者ナリ即チ我儕ガシテ善事ヲ行ハシメン爲ニキリストトイエスノ中ニ造給ヘリ以弗四ノ二十四ニ曰神ニ象テ眞理ノ義ト潔ニテ造レル新人ヲ被ルベシ

第三 誕生 彼己ノ旨ニ循ヒ眞ノ言ヲ以テ我儕ヲ生メリ是レ我儕ヲシテ其造ル所ノ物中ニテ初ニ結ベル果ノ如キ者トナラシメン爲ナリ(雅各一ノ十八)

三 生ス事 ヲハ父ノ死シ者ヲ甦ラセテ生カシムルガ如ク子己ノ意ニ從ヒテ人ヲ生カシムベシ以弗二ノ五ニ曰罪ニ死シ時ス我儕ヲキリストト信ニ生シ云々(約翰五ノ廿一)

新ニナリ、前ニ愛シタル惡ヲ認メテ之ヲ惡ニ前ニ愛セザリシ所ノ神ト其義トヲバ之仰慕スルニ至ル也、或ハ又人ハ身、生、靈ノ三原素ヨリ成立スル者トナシ、身トハ元來道德性ナク唯其靈ノ墮落セル者トナセリ、其說ニ曰人ノ靈ハ性來死セルガ如ク即チ己ノ道德ヲ管理スルノ能力ヲ失シタル者也、然ルニ人更生スル時ハ此道德ヲ管理スル能力ヲ恢復スル也、然レモ聖經ハ常ニ人ノ内部ノ生命ヲ以テ全ク一ナル者トナシ、而シテ我儕ハ之ヲ生下呼ブモ靈ト稱スルモ聖經ハ之ヲ死セル者トナシ、而レテ更生ニ由テ其靈生恢復セラルト教フル也、ラザロノ甦ラサレタル時ニハ唯其手足ノミ甦ラサレタルニ非ズ、其記憶力ノミ生キタルニ非ズ、全身甦リタル也、更生ニ於テ人ノ靈性ヲ全ク生レ更ハルモ亦此ノ如ク、
是故ニ聖經ニ於テ更生ノ結果ハ人ノ凡ク能力ニ及ブト説ケリ

(一)其理性明ヲ受ク、以弗一ノ十八ニ曰汝等ノ心ノ目ヲ明ニシ其召ヲ蒙リテ有ツ所ノ望云々(二)其情緒神ノ事ニ向フ、第一約翰五ノ一ニ曰凡ソイエスヲキリストト信ズル者ハ神ニ由テ生レタルナリ、凡ソ之ヲ生ム者ヲ愛スル者ハ亦其生ル、所ノ者ヲモ愛スル也(三)其意志改マル、馬太十二ノ卅八ニ曰善人ハ心ノ善庫ヨリ善キ物ヲ出シ云々(四)其良心潔メラル、希伯十ノ廿二ニ曰心ノ惡念ヲ澀ガレ云々(五)其身體モ亦潔メラル、前哥林六ノ十九ニ曰汝等ノ身ハ汝等ガ神ヨリ受タル汝等ノ衷ニアル聖靈ノ殿ニシテ汝ノ物ニ非ルヲ知ラザルカ、之ヲ要スルニ其性全ク一變シテ新シキ生活ヲ始ル也、然シナガラ更生シタル人ノ能力ハ其新シキ生活ノ始ニ於テ悉ク完全セリト云フニ非ズ、譬ヘバ小兒ノ能力ノ一時ニ開發セザルガ如ク更生シタル人ノ靈ナル能力モ最初ニハ開發セズ、故ニ不完全ナル者ナリ、然レモ彼ハ既ニ新シ

キ生活ヲ始メタリ、キリストニ在テ新ニ造ラレタル者ナリ、舊キ
ハ去テ皆新シクナルナリ(後哥林五ノ十七)更生ハ神ノ能力ニ由
テ人ノ全性ニ生シタル大變化ニシテ死ヨリ生、暗ヨリ光、罪ト惡
魔ノ力ヨリ神、罪ヲ愛スルコヨリ義ヲ愛スル事ニ遷サル、事ナ
リ

是故ニ更生トハ(一) 惟神ノ言ノ眞理ナル事ヲ信ズルコトニ非ズ、
又神ノ言ヲ信ズレバ必ズ生ズル所ノ結果ニモ非ズ、實ニ更生シ
タル者ハ神ノ言ヲ確信ス、然レモ神ヲ信ズル者ニシテ更生セザ
ル者多シ、惡魔モ信ズト云ヘリ(雅各二ノ十九)

(二) 更生トハペレジアン派ノ説クガ如ク唯言行ノ改革ニ非ズ、
何トナレバ果シテ然リトセバ既ニ舉述シタル所ノ聖經ノ語ヲ
之ニ適用スル能ハザレバ也

(三) 更生トハバプテスマニ非ズ、又羅馬教會並ニ英國教會中ノ

或人ノ唱フルガ如クバプテスマニ由テ成ルモノニ非ズ、ユダヤ
人中ニ在テハ異教ヨリ歸依スル者アレバ之ニバプテスマヲ施
シ而シテ之ヲ以テ其新シキ生活ヲ始メタル表徴トナセリ、故ニ
之ヲ其新生ト稱シタリ、然レモ此意義ニ由ル時ハ更生トハ唯其
改宗人が目ニ見ユル教會ニ加入シタルコトヲ指セル耳、然レモ我
儕ノ舉述シタル聖經ハ此意義ニ由テ用ヒタルニ非ズ
四 更生トハ人ノ靈魂ノ行爲ニ非ズ、何トナレバ靈魂ハ敗壞シ
テ自ラ新且聖ナル生活ヲ始ルコトヲ願望スルノ能力ナケレバ也、
是レ純乎タル神ノ聖靈ノ行爲ナリ、而シテ其後直チニ始ル所ノ
靈魂ノ行爲ハ之ヲ改心ト稱スル也
第三 更生ノ事實並必要
更生ノ實ナル事ト其必要ナル事ハ左ノ箇條ニ由テ證スベシ
一 之ヲ明言スル所ノ聖經ノ本文アリ、約翰三ノ七ニ曰我汝ニ

新ニ生ルベキ事ヲ言シテ奇トスル莫レ、後哥林五ノ十七ニ曰是故ニ人キリストニ在ル時ハ新ニ造ラレタル者ナリ、加拉六ノ十五ニ曰夫レイエスキリストニ於テハ割禮ヲ受ルモ受ザルモ益ナク唯新ニ造ラレシ者ノミ益アリ

二之ヲ叙述スル所ノ本文アリ、以弗二ノ五ニ曰罪ニ死シ時スヲ我儕ヲキリストト偕ニ生シ云々、同四ノ二十三、二十四ニ曰又汝等ノ心ノ靈ヲ新ニシ神ニ象リテ眞ノ義ト潔ニテ造レル新人ヲ被ルベシ、前彼得一ノ二十三ニ曰汝等ガ再ビ生ル、ハ壞ベキ種ニ由ルニ非ズ、壞ベカラザル種即チ窮ナク存ツ神ノ活ル道ニ由ル也

三、人皆罪人ノ性情アリトノ本文アリ、羅馬八ノ七ヨリ九ニ曰ツハ肉ノ事ヲ念フハ神ニ乖ルガ故ナリ、是レ神ノ律法ニ服ハズ又服フヲ能ハザルニ因ル、而シテ肉ニ居ル者ハ神ノ心ニ適フ

能ハズ、前哥林二ノ十四ニ曰性來ノマ、ナル人ハ神ノ靈ノ事ヲ受ズ、是レ彼ニハ愚ナル者ト見ユレバ也、又之ヲ知ルヲ能ハズ、ツハ靈ノ事ハ靈ニ由テ辨フベキ者ナルガ故ナリ、以弗二ノ一ニ曰神ハ愆ト罪ニ死シ所ノ汝等ヲモ生シ給ヘリ

四、人ノ更生前後ノ有様ヲ比較シタル本文アリ、羅馬六ノ十二、十三ニ曰是故ニ汝等罪ヲ死ベキ肉體ニ王メラシメテ其肉ニ服フ勿レ、又汝等ノ肢體ヲ不義ノ器トナシテ罪ニ獻ル勿レ、死ヨリ甦リシ者ノ如ク己ヲ神ニ獻ゲ又肢體ヲ義ノ器トナシテ神ニ事フベシ、以弗五ノ八ニ曰汝等モト暗カリシガ今主ニ在テ光レリ

(羅馬八ノ六ヨリ十参考)

五、凡テキリスト信徒ノ經驗ト彼等ノ生活モ亦一証トスベシ、夫レ救道ノ大目的ハ一旦墮落シタル罪人ヲ挽回シテ神ノ交親恩寵聖潔ニ復セシムルニアリ、墮落以來人ハ自ラ此目的ヲ達シ

或ハ達シ始ルコサヘモ能ハザル有様トナレリ、然ルニ神ハ大慈
悲ヲ以テ之ニ聖靈ヲ降シ其心ヲ全ク感化シ賜フ、其レ之ヲ稱シ
テ更生ト云フ也

第四 小兒ノ更生

上ニ論ジタル所ハ主トシテ大人ニ關スト雖小兒ニモ亦更生ハ
必要ナリ、彼等モ亦大人ト齊シク性來敗壞シタル者ナリ、唯其異
ナル所ハ大人ノ能力ハ既ニ開發シ彼等ノ能力ハ未ダ開發セザ
ル耳、更生ハ神ノ大能ニ由テ人ノ靈魂ノ有様ノ變化スル事ナル
ガ故ニ小兒モ大人ト齊シク更生スルコヲ得ベキ也、孰レノ場合
ニ於テモ神ノ行爲ハ我儕ノ思想ノ及ブ所ニ非ズ、唯人ハ性來敗
壞シタル者ナル事、小兒ノ救ハル、事、又小兒ノ割禮トバブテス
マニ就テ聖經ニ教フル所ニ由テ其實ヲ證スベキ耳、行傳二ノ
三十九ニ曰此約束ハ汝等及ビ汝等ノ子孫又凡ノ遠人即チ主タ

ル我儕ノ神ニ召サル、人々ニ屬クナリ(路加一ノ十五並十八ノ
十五、十六參考)

第五 更生ノ證據

人ノ果シテ更生シタル事ヲ確知スルノ法ハ唯其生活ノ證據ア
ル耳、自ラ心ノ變化ニ就テ如何ナル思想ヲ有スルトモ如何ニ己
ノ罪ハ赦サレタリト明言スルトモ如何ニ欣喜ノ感情アリトモ
如何ナル靈夢ヲ見ルモ其人ノ果シテ死ヨリ生ニ遷リタル證據
トナスニ足ラズ、更生者ノ新シキ生命ハ自ラ神トノ交親、天ニ在
ル事ヲ求ル事、兄弟ノ愛、罪トノ戰闘、キリストノ命ニ從ハント務
ル事等ニ於テ顯ハル、也、哥羅三ノ一二曰既ニ汝等キリストト
借ニ甦リタレバ天ニ在ル者ヲ求ムベシ、キリスト彼處ニ在テ神
ノ右ニ坐シ給ヘリ、以弗六ノ十三ニ曰是故ニ神ノ武具ヲ取ルベ
シ、是レ惡シキ日ニ遇テ敵ヲ禦ギ凡ノ事ヲ成就シテ立ン爲ナリ、

第一約翰三ノ三ト十四ト二十四ニ曰凡ソ神ニ由ル此望ヲ懷ク者ハ其潔キガ如ク自己ヲ潔クス……我儕既ニ死ヲ出テ、生ニ入シ事ヲ知ル……神ノ誠ヲ守ル者ハ神ニ居リ神モ亦彼ニ居ル、我儕其賜フ所ノ靈ニ由テ即チ其我儕ニ居給フ事ヲ知レリ、加拉五ノ二十二ニ曰靈ノ結ブ所ノ果ハ仁愛、喜樂、平和、忍耐、慈悲、良善、忠信、溫柔、樽節云々

第六 更生ト改心ノ區別

更生ト云ヒ改心ト云フ共ニ罪人ノ心ノ變化ニ關スル語ナルガ故ニ或ハ其意義同一ナリト説ク者アリ、然レモ其實然ラズ、蓋更生ト改心トハ原因結果ノ關係アリ、更生ハ神ノ行爲、改心ハ更生シタル罪人ノ行爲ナリ、更生ニ於テハ神罪人ヲ己ニ向ハシメ而シテ其心ニ新シキ生命ヲ與フルナリ、改心ニ於テハ更生シタル罪人が自ラ神ニ向フテ此新シキ生命ヲ顯ハス也、更生ハ神ノ聖

靈ノ單一ノ行爲ニシテ既ニ完全ニシテ重覆セララル、コナシ、之ニ反シテ改心ハ聖靈ノ感化ヲ受タル靈魂ノ行爲ノ初歩ニシテ漸々進歩シテ終ニ全ク潔メラル、ニ至ル也、改心ハ更生ニ直チニ從フ者ナリ、神人ノ靈魂ヲ更生セシムル時ハ其靈魂ハ更ニ新ナル生命ヲ受テ直チニ神ニ向始ル也

第七 反對説

一 或ハ曰此説ハ聖經ニ於テ神ノ言ニ歸スル所ノ感化力ヲ歸セザル者ナリ、例セバ前彼得一ノ二十三ニ曰汝等ガ再ビ生ル、ハ壞ヘキ種ニ由ルニ非ズ、壞ベカラザル種即チ窮ナク存ツ神ノ活ル言ニ由ルナリト(耶利二十三ノ二十九參考)答テ曰固ヨリ神ノ言ハ之ヲ聽クモ或ハ之ヲ讀ムモ聖靈ガ大人ヲ召キ且之ヲ更生セシムルノ具タルコトハ我儕モ之ヲ許容スルナリ、譬ハ巴樅ハ以テ岩ヲ挫クノ具タルガ如シ、然レモ之ヲ取テ擊ツ者アルニア

ラザレバ槌ハ自ラ岩ヲ挫カズ、光明アルニ非レバ人物ヲ見ルコ
 能ハズ、然レモ如何ニ大光アルモ死人盲人ハ見ルコ能ハズ、罪人
 若シ神ノ言タル光ヲ見ント欲セバ先ヅ生命ヲ受ケ且其盲ヲ除
 カル、事必要ナリ、加之ナラズ罪人ヲ更生セシムル所ノ者ハ神
 ノ言ニシテ聖靈ニ非ズトセバ齊シク神ノ言ヲ聞ク者ニシテ或
 人ハ更生シ或ハ更生セザル所以如何、且若シ神ノ言ハ更生ニ必
 要ナリトセバ小兒ハ救ハル、コ能ハザルベシ、何トナレバ彼等
 ハ神ノ言ニ由テ更生スルコ能ハザレバ也

二 或ハ曰此説ハ聖經ニ於テ信仰ニ歸スル所ノ能力ヲ歸セズ、
 例セバ約翰三ノ十五、十六ニ曰凡テ之ヲ信ズル者ニ亡ルコナク
 シテ永生ヲ受シメンガ爲ナリ……此ハ凡テ彼ヲ信ズル者ニ亡
 ルコナクシテ永生ヲ受シメンガ爲ナリト、答テ曰信仰ハ固ヨリ
 救ニ欠クベカラザル者ナリ、且各人第一ノ義務タルコ疑ナシ、然

レモ此信仰ハ神ノ賜ニシテ此賜ハ人ノ更生スル時ニ與ヘラル
 、者ナリ、而シテ更生シタル者ハ此信仰ニ由テ日々新ニナルコ
 バウロガ前哥林四ノ十六ニ説クガ如シ、然レモ此日々新ニナル
 事ハ更生ト異ナリ、是ハ新シキ生命ノ始ニハ非ズ、惟其聖潔ノ道
 ニ進歩スル耳

三 或ハ曰果シテ此説ノ如クナレバ人ハ先ヅ神ニ更生セラル
 、迄ハ信仰其他恩惠ノ具ヲ用フル事ニ就テハ更ニ關心スルニ
 及バザルベシト、答テ曰人ハ罪人ナリトテ神ニ從フベキ義務ノ
 消滅スベキ理ナシ、而シテ其義務ハ罪ヲ悔イ救主ヲ信シ之ニ從
 フニアリ、又唯神ノミ彼ヲシテ此等ノ事ヲ行ハシムルノ恩惠ヲ
 與フルノ能アリトナラバ宜シク神ヨリ其恩惠ヲ求ムベキ也、神
 ノ召ト命ト戒トハ明白ニシテ疑ヲ容レズ、神ノ聖靈ノ重生的ノ
 行爲ハ人自ラ其結果ヲ實驗スルニ非レバ知ルコ能ハズ、然レモ

未ダ之ヲ知ラザルモ其義務ハ神ニ從フニアリ、此事ニ就テハ約翰第三章ニキリストノ明教アリ

第二十一章 信仰

第一 聖經ニ於テ人ノ信仰ニ數種アルヲ説ケリ

一 事物ヲ正當ニ確認スルヲ信仰ト稱シタル所アリ羅馬十
四ノ二十二ニ曰汝信アルカ、己之ヲ神ノ前ニ守リ自ラ善トスル
所ヲ内罪スル事ナキ者ハ福ナリ

二 忠信ナル事ヲ指シテ信仰ト稱シタリ、羅馬三ノ三ニ曰愛ニ
信ゼザル者アレド其ヲ如何、其不信ハ神ノ信ヲ廢ツベキ乎

三 歴史的ノ信仰即チ歴史上ノ實事又ハ道理ニ由テ證明セラ
レタル聖經ノ眞理ニ服スル事、約翰二ノ二十三ニ曰サデイエス
逾越節ニエルサレムニ在シニ多ノ人彼ノ行ン、休徴ヲ見テ其

名ヲ信ゼリ、使徒ヤコブガ汝神ハ惟一ナリト信ズ、如此信ズルハ
善シト云ヘルハ即チ此種ノ信仰ヲ指セル也、然レモ此信仰ノミ
ニテハ未ダ救ハル、コ能ハズ、何トナレバ惡鬼モ亦之ヲ信ズト
云ヘリ(雅各二ノ十九ヲ見ヨ)

四 使徒ヤコブハ死タル信仰アルヲ説ケリ(雅各二ノ十七ト
二十六)蓋死タル信仰トハ單ニ智識的又ハ歴史的ノ信仰ニシテ
其行ニ顯ハレザルヲ云フ、即チ彼ガ所謂行ヲ兼ザル信仰是レナ
リ、人或ハ聖經ノ實事及ビ教理ニ就テ完全ナル智識的ノ信仰ア
リ、即チ此等ノ事ハ眞ナリト確信スルモ尙全ク救ニ至ルノ信仰
ヲ欠クコアラシ

五 暫時ノ信仰 人聖經ノ眞理ヲ聞キ其眞理ノ貴重ナルガ爲
ニ暫時感動スル者アリ、例ヘバ魔術者シモンノ如シ(行傳八ノ十
三)或ハ又神ノ審判ヲ恐レテ感動スル者アリ、例ヘバペリクスノ

如シ(行傳二十四ノ二十五)而シテ此感動ノ爲ニ暫時其行狀ノ改
 マル者アリ、然レモ其心ニ於テ眞ノ變化ナキガ故ニ聖經ニ云フ
 如ク實ノラザルモノナリ(路加八ノ十四)之ヲ名ケテ、暫時ノ信仰
 ト云フ、キリストハ種播ノ譬喩ニ於テ之ヲ訛ケリ馬太十三ノ二
 十、二十一ニ曰礮地ニ播レタル種ハ是レ教ヲ聽テ速ニ喜ビ受レ
 正己ニ根ナケレバ暫時ノミ、教ノ爲ニ患難或ハ迫メラル、事ノ
 起ル時ハ忽チ道ニ礙ク者ナリ
 六、眞ノ信仰即チ救ニ至ルノ信仰、行傳十六ノ三十一ニ曰主イ
 エスキリストヲ信ゼヨ然ラバ汝及ビ汝ノ家族モ救ハルベシト、
 聖經ヲ按ズルニ此眞ノ信仰ヲ種々ニ説キタル所アリ、或ハ神ニ
 心ヲ與フルト云ヒ(箴言二十三ノ二十六)或ハキリストヲ觀ルト
 云ヒ(以賽四十五ノ二十二)或ハ之ヲ食フト云ヒ之ニ聞クト云ヒ
 (以賽五十五ノ二)キリストニ來ルト云ヒ(約翰六ノ四十四)キリス

トヲ受ルト云ヒ(行傳二十二ノ十八)怒ヲ避テキリストニ往クト
 モ云ヘリ(希伯六ノ十八)或ハ信仰ト云フ語ヲ信ズル所ノ事即チ
 福音ノ默示ヲ指シテ用井タルコアリ(羅馬一ノ五、十ノ八、前提摩
 四ノ一)

然レバ信仰トハ正當ノ證據ニ由テ真理ヲ確信スルノ義ナリト
 定ルコヲ得ベシ、然レモ其性質ハ其信ゼラレタル真理ノ性質ニ
 由テ變更スベキコト明白ナリ、例ヘバ地球ハ其軸ヲ廻リテ運轉ス
 トノ我儕ノ信仰ハ單純ノ許諾ニ過ズ、然レモ徳ハ善ナリトノ我
 儕ノ信仰ハ之ニ異ナリ、何トナレバ此信仰中ニハ我儕ハ徳ヲ修
 ムベキ筈也トノ確信ヲ包含スレバ也、故ニ此信仰ニハ道德的ノ
 性質アリ、又人ノ約束ヲ信ズルノ信仰ハ右ノ二種ト異ニシテ此
 中ニハ信任ノ働ヲ含メリ、又信仰ノ性質ハ其依テ立ツ所ノ證據
 ノ性質ニ由テ變更スベキコト明白ナリ、人或ハ朋友ガ聖經ノ眞

理ヲ信ズルガ故ニ之ヲ信シ或ハ父母ノ教訓ニ由テ疑念ナク之ヲ信ズル者モアラシ、此信仰ハ他人ノ保證ニ由テ立ツ者也、或ハ奇蹟預言歴史等ノ證據ヲ考ヘ其道理ニ合フガ故ニ聖書ノ真ナルヲ信シ或ハ其教ニ由ル時ハ能ク天地創造及ビ攝理ノ實事ヲ説明スルヲ得ルガ故ニ之ヲ信ズル者アラン、此信仰ハ所謂聖經ノ外證ニ由テ立ツ者ナリ、或ハ自己ノ理性良心及ビ經驗ニ徴シテ其真ナルヲ以テ信ズル者アリ、此信仰ハ所謂道德的ノ證據ニ由テ立ツ者ナリ、或ハ又聖經ノ教ノ善且美ニシテ能ク己ガ靈魂ノ渴望ヲ満足セシムルガ故又神ノ約束ニ由テ信ズル者アラシ、此ノ如キ信アル者ハ眞實ニ此眞理ニ由テ身ヲ修メキリストヲ救主ト頼ミ愛敬感謝ノ心ヲ以テキリストニ事ヘ而シテ罪ヲ脱レテ聖潔ノ身ト也無窮ノ生命ヲ得ンコトヲ冀望スル也、此信仰ハ即チ靈ナル信仰ニシテ神ノ聖靈ノ保證ニ由テ立ツ者也、此信

仰ハ神ノ賜ニシテ更生シタル人ノ新シキ生命ノ初ノ顯也トス
 第二 眞ノ信仰即チ救ニ至ル信仰ノ性質
 眞ノ信仰ニ三ノ要素アリ、曰智識、曰承諾、曰信任是レ也
 一 眞ノ信仰ノ第一ノ要素ヲ知識トス、羅馬十ノ十四ニ曰然レバ未ダ聞カザル者ヲ何テ信ズルコトヲ得ンヤ、蓋人ハ未ダ知ラザル所ノ者ヲ愛シ或ハ望ミ擇ムベキノ理ナシ、眞ノ信仰ニ於テ人ノ信ズル所ノ者ハ廣ク之ヲ言ヘバ凡テ神ガ其言ニ於テ啓示シタル所ノ事特別ニ神ノ子ニシテ罪人ノ中保救主タルイエスキリストト彼ニ由テ我儕ニ與ヘラル、所ノ約束ナリ、故ニ眞ノ信仰ハ迷信ニ非ズ、無道理ニ非ズ、無知ニ本ク者ニ非ズ、却テ第一ニ自己ノ罪人タル事ト救主ノ必要ナル事ト神ガ無限ノ慈愛ヲ以テ我儕ノ救ノ爲ニ約束ヲ立タルコトヲ理會スルコトヲ含ム者ナリ、實ニ聖經ニ於テ知識ト云フ語ヲ信仰ト同義ニ用井タル所アリ、

約翰十七ノ三ニ曰永生トハ唯獨ノ眞神ナル汝ト其遣ヘシ、
 エスキリストヲ知ル是レ也ト、即チ人若シ神ヲ唯獨ノ眞神ト知
 リ且其子トエスキリストヲ人ノ罪ヲ贖ハシガ爲ニ世ニ遣ハサ
 レタル救主ト知レバ即チ永生アリトナリ、然レモ此ノ如キ知識
 ハ眞理ヲ確信スルコト之ニ服従スルヨリ來ル所ノ經驗トヲ兼
 ルニ非レバ得ベカラズ、何トナレバ此ノ如キ經驗ニ由ラザレバ
 キリストヲ全ク知ルコト能ハザレバ也、而シテ此經驗アル時ハ眞
 ノ信仰ノ凡ノ要素モ亦共ニ存スル也
 二 眞ノ信仰ノ第二ノ要素ヲ承諾トス、知識トハ普通ノ意義ニ
 由レバ智慧ノ勸ニ屬シ承諾ハ意志ノ勸ニ屬ス、人ノ罪アルコト神
 罰ヲ受クベキコト救主ノ必要ナルコト示サル、時ハ良心自ラ其
 眞ナルコトヲ證シ而シテ人之ヲ承諾スルナリ、或時ハ上ニ論シタ
 ルガ如ク知識承諾アリテ尙眞ノ信仰ナキコトアリ(行傳八ノ十三、

二十四ノ二十五、雅各二ノ十九參考)然レモ是レ其意志ガ承諾ス
 ル所ノ眞理ニ從フコトヲ肯ンゼザルガ故ナリ、更生シタル人ハ其
 新ニ得タル意志ノ自由ヲ活用シテキリストヲ己ノ救主トシ其
 救ニ依頼スルヨリ起ル所ノ承諾ヲ眞理ニ與フル也
 三 眞ノ信仰ノ第三ノ要素ハ即チ此信任トス、馬太十一ノ二十
 八、二十九ニ曰凡テ勞レタル者又重キヲ負ヘル者ハ我ニ來レ、我
 汝等ヲ息マセン、我ハ心柔和ニシテ謙遜者ナレバ我ガ軛ヲ負テ
 我ニ學ヘ、汝等心ニ安ヲ得ベシ、更生シタル人ハ唯イエスキリス
 トニ關スル眞理ヲ知り且之ヲ承諾スルノミナラズキリストヲ
 己ノ預言者、祭司、王トシテ其教訓聖潔宰治ヲ甘受スルナリ、約言
 スレバ己ノ一身ヲ全クキリストニ委托スルナリ、此ノ如クシテ
 罪ノ赦ヲ受ケ無限ノ義ト救ヲ嗣グ者トナルナリ、此眞ノ信仰ノ
 性質ヲハイデルベルグ問答第二十一條ノ答ニ美シク略述シタ

リ日眞ノ信仰トハ聖書ニ於テ神ノ示現シ給ヒシコトヲ皆眞トシテヨク知ルノミナラズ聖靈ノ福音ヲ以テ我が心ニ起シ給フ信仰即チ人モ我モ罪ノ赦ト盡ルコトナキ正シキト救ヲ唯キリストノ功ニヨリテノミ神ニ恵ミ與ヘラル、ト信ズルコト云フナリ

尙茲ニ數ヶ條ノ注意スベキ事共アリ

一 信仰ハ靈魂ノ働ナレモ又神ノ賜ナリ、以弗二ノ八ニ曰汝等恩ニ由テ救ヲ得、是レ信仰ニ由テナリ、己ニ由ルニ非ズ、神ノ賜ナリト、未ダ嘗テ自ラ眞ノ信仰ヲ起シタル者ナク又起スコト能ハザル也、前哥林十二ノ三ニ曰人聖靈ニ感ゼザレバイエスヲ主ト謂フ能ハズ、然レモ聖靈ハ此信仰ヲ起スニ方法ヲ用フ、羅馬十ノ十七ニ曰信仰ハ聞クヨリ出デ聞ク所ハ神ノ言ニ由ル也

二 此信仰ハ受クベキ利益トシテモ行フベキ義務トシテ共ニ

必要ナル者ナリ、希伯十一ノ六ニ曰信仰ナクバ神ヲ悦バスコト能ハズ、ソハ神ニ來ル者ハ神アルヲ信ジ且神ハ必ズ己ヲ求ル者ニ報賞ヲ賜フ者ナルヲ信ズベケレバ也

三 此信仰ハ盛衰アリ、使徒等祈テ曰我儕ニ信ヲ益セヨ(路加十七ノ五)パウロテサロニケ人ニ告テ曰汝等ノ信仰彌増シ云々(後帖撒一ノ三)大ナル試惑ニ逢テ使徒ベテロハキリストヲ拒絕シタリ(路加二十二ノ三十一ヨリ五十四、五十四ヨリ六十二)然レモ此信仰ハ一旦與ヘラル、時ハ決シテ全ク失フコト能ハズ、約翰十ノ二十八、二十九ニ曰我彼等ニ永生ヲ與フ、彼等何時迄モ亡ビズ、亦之ヲ我手ヨリ奪フ者ナシ、我ニ彼等ヲ賜シ吾父ハ萬物ヨリモ大ナリ、又我父ノ手ヨリ之ヲ奪ヒ得ル者ナシ

四 此世ニ在テ所謂不疑ノ信仰ニ達スルコトヲ得ベシ、蓋眞ノ信仰ハ生長スル者ナルガ故ニ屢々此満圓不疑ノ信仰ニ達セズシ

テ存在スルコアリ、然レ凡テ信徒ハ祈禱讀經ニ由テキリストニ交リ、且其業務ニ忠信ナル事ニ由テ其信仰ヲ全フセラレシコトヲ常ニ務ムベキ也

希伯來書ノ著者ハ信仰ノ不疑満圓ト冀望ノ不疑満圓トヲ區別セリ、信仰ノ満圓ニ於テハキリストハ(我儕若シキリストノ者ナラバ)必ズ凡テ其約束シタル所ヲ爲スコトヲ疑ハズ、冀望ノ満圓ニ於テハ我儕ハ既ニキリストノ者タルコトヲ確信シテ疑ハザル也、使徒パウロヲシテ「我吾ガ信ズル者ヲ知り且彼ニ託シタル者ヲ彼カノ日ニ至ルマデ守ルコトヲ爲シ得ルヲ信ズレバ也」ト云ヒ、又我既ニ善戰ヲ戰ヒ既ニ馳ルベキ途程ヲ盡シ、既ニ信仰ノ道ヲ守レリ、今ヨリ後義ノ冕我が爲ニ備ヘアリ、主即チ正シキ審判ヲ爲ス者其日ニ至テ之ヲ我ニ予フト云ハシメタル者ハ即チ此冀望ノ満圓ナリ(後提一ノ十二、四ノ七、八)彼又曰聖靈自ラ我儕ノ靈ト

儕ニ我儕ガ神ノ子タルヲ證スト、凡テ信徒タル者ハ其冀望満圓スレバ聖靈ノ此證ヲ受ケ且自ラ神ノ子タルヲ確知スルコトヲ得ベシ、然レ凡茲ニ注意スベキコトアリ即チ(一)人心ノ自ラ欺キ易キ或ハ自己ノ靈魂ノ有様ヲ見誤リ不疑満圓ノ信仰冀望ナキ時ニ當テ之アリト誇ルコトナキヲ保スベカラズ、此ノ如キ信仰冀望ノ不疑満圓ハ單ニ自己ノ無知ト暗惑ニ基ク者ナリ(二)然レ凡或ハ又真理ヲ誤解シ且サタンノ攻撃ニ由テ真正ノ信徒ガ暫時黑暗疑惑ノ中ニ陷ルコトアリ、蓋前者ハ更ニ信仰ナキ者ニシテ後者ハ信仰ノ薄弱ナル者ナリ、信仰冀望ノ不疑満圓ノ基ク所ハ我儕ノ衷ニ非ズシテ外ニアリ、即チ神ノ眞實トキリストノ行爲ノ完全ナルコト聖靈ノ保證トニ基クナリ

第三 信仰ノ結果

夫レ信仰ノ大結果ハキリストト一致スル事ニシテ凡テ其他ノ

結果ハ之ヨリ流出ルナリ、キリストノ民ハ既ニ創世前ヨリ其利益ヲ受クベキ預定アリト雖(以弗一ノ四ヨリ、六ニ云フガ如ク)キリストヲ信ズル時ニ至テ始テ一致スルナリ、加拉二ノ二十ニ曰我キリストト信ニ十字架ニ釘ラレタリ、最早我生ルニ非ズ、キリスト我ニ在テ生ルナリ、今我肉體ニ在テ生ルハ我ヲ愛シ我ガ爲ニ己ヲ捨シ者即チ神ノ子ヲ信ズルニ由テ生ルナリ、此一致ハ重ニ其結果ニ由テ顯ハル、聖經ニ於テハ之ヲ種々ニ示シタリ例ヘバ

(一) キリストノ聖靈ニ由テ生シ且維持セラル、所ノ靈ナル一致トス、キリストノ聖靈ハ其民ノ衷ニ寓リ且働クナリ、第一約翰三ノ二十四ニ曰我儕其賜フ所ノ靈ニ由テ即チ其我儕ニ居給フヲ知レリ、同四ノ十三ニ曰彼已ニ其靈ヲ以テ我儕ニ賜フ、是ニ由テ我儕ノ彼ニ居リ、彼ノ我儕ニ居ルヲ知ル(前哥林十二ノ十

二、十三、廿七)

(二) 生ル一致トス、キリストハ其聖靈ニ由テ我儕ノ衷ニ寓リ而シテ我ガ靈生ヲ養フナリ、加拉二ノ二十ニ曰キリスト我ニ在テ生ルナリ、以弗三ノ十七ニ曰キリストヲシテ信仰ニ由テ汝等ノ心ニ居ラシメ云々

(三) 此一致ノ靈妙親密ナルコトハ幹ト枝(約翰十五ノ五)家屋ト基礎(前彼得二ノ四ヨリ六)人體ノ首ト肢(以弗四ノ十五、十六)夫ト婦(以弗五ノ三十一、三十二)アダムト其子孫トノ一致ニ比シタリ(羅馬五ノ十二ヨリ十九)

一 信者ハ此ノ如クキリストト一致スルガ故ニ凡テ恩惠ノ契約ニ於テキリストガ購ヒタル所ノ利益ハ之ヲ得ルナリ、而シテ其第一ハ即チ義トセララル、コナリ、行傳十三ノ三十九ニ曰汝等モ一セノ律法ニ由テ義ト爲ラル、コ能ハザル凡ノ罪モ信ズル

者ハ皆彼ニ由テ赦サレ義トセラル、也、羅馬八ノ一ニ曰是故ニ
 イニスキリストニ在ル者ハ罪セラル、コナシ(加拉二ノ十六ヲ
 見ヨ)キリスト既ニ彼ニ代テ彼ガ破リタル律法ノ要求ヲ満足セ
 シメタルガ故ニキリストト一致スレバ即チ彼ハ神ノ前ニ在テ
 其律法ニ對シテ公義無罪ノ人トナル也
 二 キリスト彼ガ衷ニ寓ルガ故ニ其身體ニ於テモ靈魂ニ於テ
 モ漸々キリストト同像ニ化スルナリ、前哥林六ノ十七ヨリ二十
 ニ曰主ニ合フ者ハ一靈トナルナリ、汝等淫ヲ避ケヨ云々、汝等ノ
 身ハ汝等ガ神ヨリ受タル汝等ノ衷ニアル聖靈ノ殿ニシテ汝等
 ハ汝等ノ物ニ非ルコヲ知ラザル乎、ソハ汝等ハ價ヲ以テ買ハレ
 タル者ナレバ也、是故ニ神ノ物ナル汝等身ニ於テモ靈魂ニ於テ
 モ神ノ榮ヲ顯ハスベシ、後哥林三ノ十八ニ曰凡テ我儕帕子ナク
 シテ鏡ニ照スガ如ク主ノ榮ヲ見、榮ニ榮彌増テ其同像ニ化ルナ

リ、是レ主即チ靈ニ由テナリ(羅馬八ノ十、十一、後哥林十二ノ九、腓
 立二ノ五、三ノ二十ト二十一、第一約翰三ノ二ヲ見ヨ)
 罪ニ由テ人ト神トノ交親一タビ破レキリストニ於テ神ヲ信ズ
 ルニ由テ再ビ其交親開ケ而シテ神靈ノ感化漸ク其人ノ心ニ及
 プナリ、人キリストヲ信ゼザレバ其性質ヲ改ルコ能ハズ、信者ハ
 己ガ身ヲ神ニ任シ而シテ自ラ足レリト思フ念ヲ棄テ且神ニ依
 賴スベキコト自ラ足ラザルコヲ知リ心ヲ開テ神ノ慈愛自由ナ
 ル赦ヲ受ルノミナラズ其聖靈ノ感化ヲモ受ルナリ、而シテ甘ン
 シテ其命ニ從ヒ愛ヲ以テ之ニ事フル事ニ由テ其果シテ身ヲ神
 ニ托シタルコヲ顯ハシ神ノ恩愛ニ由テ生長シ且他人ニ善ヲ行
 フニ至ル也、以弗四ノ十三ニ曰我儕ヲシテ皆同ク神ノ子ヲ信シ
 余人即チキリストノ満足レル程ニ成ル迄ニ至リ云々
 三 彼ハ常ニキリストト交親アリ、第一約翰一ノ三ニ曰我儕ハ

父及ビ其子イエスキリストト偕ナリ、前彼得四ノ十三ニ曰却テ
 キリストノ苦ニ與ルヲ以テ歡樂トスベシ、前哥林十ノ十六ニ曰
 我儕ガ祝フ所ノ祝ノ杯ハ同ニキリストノ血ヲ享ルニ非ズヤ、我
 儕ガ擘ク所ノパンハ同ニキリストノ體ヲ享ルニ非ズヤ(約翰六
 ノ五十一ヨリ五十六、腓立三ノ十ヲ見ヨ)
 四 彼ハ他ノ信者ト交親アリ、第一約翰一ノ七ニ曰若シ神ノ光
 ニ在ルガ如ク光ノ中ヲ行カバ我儕互ニ友トナルヲ得(第一約翰
 三ノ十六ヨリ十八、前哥林十ノ十七ヲ見ヨ)
 五 彼ハ信仰ニ由テ良心ノ平和アリ、羅馬五ノ一ニ我儕信仰ニ
 由テ義トセラレタレバ神ト和グコヲ得タリ、此ハ我が主イエス
 キリストニ由テナリ
 六 此信仰ハキリスト教ノ行爲ノ本トナルナリ、約翰十五ノ五
 ニ曰人若シ我ニ居リ我亦彼ニ居ラバ多ノ實ヲ結ブベシ

七 信仰ニ由テ彼ハ靈ナル敵ニ勝ツコヲ得、第一約翰五ノ四ニ
 曰凡ソ神ニ由テ生ル、者ハ世ニ勝ツ、我儕ヲシテ世ニ勝タシム
 ル者ハ我儕ガ信ナリ(羅馬八ノ三十七ヲ見ヨ)

第二十二章 悔改

第一 眞ノ悔改ノ性質
 一 是レ神ノ賜ナリ、行傳五ノ三十一ニ曰神ハ之ヲ君トシ救主
 トシテ其右ノ方ニ舉グ、是レイスラエルニ悔改ト罪ノ赦ヲ予ン
 ガ爲ナリ、後提摩二ノ二十五ニ曰神或ハ彼等ニ悔改ル心ヲ賜ヒ
 テ之ニ眞理ヲ知ラシメ給ハント、夫レ人ハ此賜ヲ受ル前ニ先ヅ
 神ノ聖靈ニ由テ更生セザルベカラズ、何トナレバ死タル靈魂ニ
 シテキリストヲ見之ニ就ルコト能ハザレバ也
 二 是レ救ニ必要ニシテ各人ノ義務タルコトヲ屢々明示セリ、馬

可六ノ十二ニ曰弟子等出テ人々ニ悔改ムベキコトヲ宣傳フ、路加
 十三ノ三ニ曰汝等悔改ノズバ皆同ク亡ボサルベシ、行傳十七ノ
 三十ニ曰今ハ何處ノ人ニモ皆悔改ルコトヲ命ジ給フナリ
 三 眞ニ罪ヲ知ルコトヲ含ム、即チ眞ニ罪ヲ悔改ル者ハ神ノ聖善
 公義ト自己ノ罪惡壞敗無力ヲ確知シ熱心ニ救ヲ望ムナリ、此事
 ハ詩篇五十一ノ四、五、七、十一ニ能ク顯ハレタリ曰我ハ汝ニ對ヒ
 テ獨汝ニ罪ヲ犯シ聖前ニ惡事ヲ行ヘリ、サレバ汝言フルハ義ト
 セラレ汝鞠クハ谷メナシトセラレタマフ、視ヨ、リレ邪曲ノ中
 ニ生産レ、罪ニ在リテ我母我ヲ孕ミタリキ、汝、ヒソプヲ以テ我ヲ
 潔メタマヘ、サラバ我淨マラン、我ヲ洗ヘ給ヘ、サラバ我雪ヨリモ
 白カラシ、我ヲ聖前ヨリ棄給フナカレ、汝ノ聖靈ヲ我ヨリ奪リ給
 フナカレ
 四 キリストニ在テ神ノ慈愛ヲ知ルコトヲ含ム、然ラザレバ人己

ノ罪アルコトヲ知レバ益ス神ニ遠カルベシ(出埃及二十ノ十八、後
 哥林七ノ十ヲ見ヨ)悔改ト譯シタル原語ハ「心ヲ變ズル」又ハ「目
 的ヲ變ズル」ノ義ナリ、然レバ如何ニ己ノ罪アルコトヲ感ズルト
 モイエスキリストニ於テ顯ハサレタル神ノ慈愛ヲ見ルニ非レ
 バ決シテ此心ノ變化アルベカラズ、是故ニダビデハ神ヨ願クハ
 汝ノ慈愛ニ循テ我ヲ憐レミ、汝ノ矜恤ニ循テ我が罪過ヲ消シ給
 ヘト祈リタリ(詩篇五十一ノ一)
 五 罪ヲ惡ミ之ヲ言著ハシ罪ヲ離レテ神ニ就キ飽マデ其命ニ
 從フノ決心ヲ含ム、路加十八ノ十三ニ曰神ヨ罪人ナル我ヲ憐ミ
 給ヘト、行傳二十六ノ二十二ニ曰悔改ニ符フ行ヲ爲シテ罪ヲ悔ベ
 キコト、神ニ歸スベキコトヲ宣傳ヘタリ、第一約翰一ノ九ニ曰若
 シ己ノ罪ヲ言著サバ神ハ信實ナル義キ者ナルガ故ニ必ズ我儕
 ノ罪ヲ赦シ諸ノ不義ヨリ我儕ヲ潔ムベシ、詩篇五十一ノ十三ヨ

リ十五ニ曰サラバ愆ヲ犯セル者ニ汝ノ途ヲシヘン……我ガ舌ハ聲高ラカニ汝ノ義ヲ謳ハン……我ガ口汝ノ頌美ヲアラハサン(路加十五章放蕩ナル子ノ譬喩ヲ参考スベシ)

六 眞ノ悔改ニ欠クベカラザル者ハ罪人ガ其心ニ於テモ行ニ於テモ罪ヲ離レテ神ニ歸スルニアリ、以賽五十五ノ七ニ曰惡キ者ハ其途ヲ棄テ邪曲ナル人ハ其思念ヲ捨テエホバニ反レ、サラバ憐憫ヲ施シ給ハン、我儕ノ神ニ歸ヘレ、豊カニ赦ヲ與ヘタマハシ、羅馬十二ノ一ニ曰我神ノ諸ノ慈悲ヲ以テ汝等ニ勸ム、其身ヲ神ノ意ニ適フ聖キ活ケル祭物トナシテ神ニ獻グヨ、是レ爲スベキノ祭ナリ

第二 悔改ハ通常之ヲ區別シテ律法的ノ悔改ト福音的ノ悔改ノ二種トナス

一 律法的ノ悔改トハ神ノ律法ヲ犯シタルガ爲ニ其震怒ヲ畏

ル、念ヨリ起ル所ノ者ナリ、例ヘバアハブ(列王上二十一ノ二十七ヨリ二十九)又イスカリオテノユダノ悔改ノ如シ(馬太二十七ノ三)是悔改ハアハブニ於ル如ク或ハ幾分カ言行ヲ改良スルニ至リ或ハユダニ於ル如ク悲歎絶望ニ至ル也

二 福音的ノ悔改トハキリストノ福音ニ於テ顯ハサレタル神ノ慈愛ヲ知覺スルヨリ起ル者ニシテ我儕ノ既ニ眞ノ信仰トシテ説タル所ノ者ナリ、聖經ニ於テ或ハ之ヲ生命ニ至ルノ悔改ト稱シ(行傳五ノ三十一、十一ノ十八)又悔ナキノ悔ト稱シタリ(後哥林七ノ十)

律法的ノ悔改ト福音的ノ悔改ノ異ナル所ハ前者ハ罪ノ罰ヲ反ニ後者ハ神ニ對シテ犯シタル罪ノ惡ナルコトヲ反ルニアリ、又律法的ノ悔改ハ屢々或惡行ヲ反ルニ止リ福音的ハ其行ニ顯ハル、ト我儕ノ性情ニ屬スルトヲ論ゼズ一切ノ罪惡ヲ惡ムナリ、又

律法的ノ悔改ハ暫時ニシテ止ミ、福音的ノ悔改ハキリスト信徒ノ恒ノ慣習タルコモ其異ナル所ナリ

第三 悔改ト信仰ノ關係

悔改信仰ハ兩ナガラ更生シタル靈魂ノ働ニシテ兩ナガラ救ニ必要ナル者ナリ、又兩ナガラ更生ニ直從スル者ナリ、信者ノ生命ニ於テ其中孰ガ先ナル乎トノ問題ハ悔改ト云フ文字ノ解釋ニ依テ定ルナリ、蓋律法的ノ悔改ハ信仰ニ先テリ、如何トナレバ罪人ハ先ツ幾分カ神ノ公義ト自己ノ罪アルコヲ知ルニ非レバ福音ヲ信ズルコ能ハザルベシ、然レモ信仰ト真ノ悔改ハ信者ノ新シキ生命ノ始ニ當リテ同時ニ起リ而シテ其後常ニ相合シテ分離スベカラザル者ナリ、然レモ論理上ヨリ言ヘバ信仰ハ真ノ悔改ニ先ツモノナリ、何トナレバ悔改ハ罪ヲ離レテ神ニ歸スルコトナルガ故ニ理ニ於テ福音ノ真理ヲ信ズルヨリ起ルトスルニ非

レバ之ガ基礎アルベカラズ

第四 眞ノ悔改ノ證據

此證據ハ既往ニ於テ罪ヲ悔イ或ハ神ニ歸シタル事ニ於テ得ベカラズ、唯謹テ聖經ノ教ヲ考ヘ靈魂ノ現況ヲ吟味シ以テ之ヲ得ベシ、而シテ若我が靈魂ノ有様ト此事ニ就テ聖經ニ示ス所ト相符合セバ則チ左ノ簡條ヲ發見スベシ(一)眞實ニ罪ヲ悔ル事(二)隠微顯明ト罪ヲ言著ハシ之ヲ惡ミ之ヲ棄ル事(三)爲シ得ベキ場合ニ於テハ其罪ヲ贖フ事(四)常ニ再ビ罪ニ陥ラザルヤウ注意スル事(五)甘心シテ神ニ事ヘ之ヲ義トシ之ヲ喜ブ事(六)凡テ此等ノ事ヲ心ヨリ爲ス事、後哥林七ノ十一ニ曰汝等ガ神ニ循ヒテ愛ヘシ所ノ事ヲ視ヨ、汝等ニ如何ナル勉勵又自訴又忿怒又畏懼又戀慕又熱心又罪ヲ責ル心ヲ生ゼシヤ、凡テ汝等彼事ニ於テ自ラ潔キコトヲ表ハセリ(後帖撒四ノ一、後彼一ノ五ヨリ八參考)

第五 諸説

一 或ハ悔改ト改心トハ同事ナリト主張スル者アリ、然レモ其區別ハ容易ニ知ルコトヲ得ベシ、蓋改心ト云フ語ハ通常唯キリスト信者ノ新シキ生命ノ始ヲ指セル語ニシテ其生命ガ種々ノ働ヲ爲ス最初ノ顯ヲ云フナリ、而シテ悔改モ亦其働ノ中ニ含まナリ、或時ハ信者ガ陷テ再ビ神ニ歸スルコトヲ指シテ此語ヲ用非タルコトアリ(路加二十二ノ三十二)新シキ生命ノ始ヲ指シテ改心ト稱スル時ハ此語ハ悔改ト云フ語ヨリモ一層廣キ意味ニ用非ル也、然レモ悔改ト云フ事ハ靈魂ガ始終罪ヲ惡ミ之ヲ脱シ之ヲ棄テ、神ニ歸シ又之ト戰フ其平生ノ慣習ヲ指セルナリ、生涯ノ終迄眞ノ悔改者ハダビデノ如ク(詩篇五十一ノ十二、十三)願クハ汝ノ救ノ喜ヲ我ニ復シ汝ノ靈ヲ以テ我ヲ維持セヨ、然ラバ我罪人ニ汝ノ道ヲ教ヘン而シテ罪人ハ汝ニ歸セント祈ルベキ也

二 或人ハ悔改トハ前彼得二ノ二十四ニ所謂靈ガ罪ニ死シ義ニ生ルコトヲ含ムト論シタリ(羅馬六ノ十一ヲ見ヨ)然レモ此語ハ唯ニ悔改ノミナラズ凡テ聖靈ガ我儕ヲシテ天國ニ入ルノ準備ヲナサシムル其働ヲ指セルナリ、是故ニ此論者ハ悔改ト聖潔トヲ混淆セリ、悔改ハ即チ聖潔ノ一部分ナリ

三 羅馬教會ニ於テハ悔改ヲ一ノ聖禮典トナシ罪ニ陷リタル信者ガギリストノ功德ニ由テ神ノ恩寵ニ復スルノ方法トナセリ而シテ此聖禮典中ニ(一)罪ヲ悔ルコト(二)罪ヲ祭司ニ言著ハスコト、祭司ハ神ノ赦罪ヲ宣告スルノミナラズ自ラ審判者トシテ其罪ヲ赦スナリ(三)其他祭司ガ神ノ要求ヲ満足セシメン爲ニ命ズル所ノ行ヲ含メリ、然レモ此教ハ聖經ニ悖レリ何トナレバ

(一) 聖經ニハギリストガ此ノ如キ聖禮典ヲ設立シタルコトヲ説カズ、又後ニ論ズル如ク此等ノ事ハ聖禮典ヲ成立スルニ足ラザ

レバ也

(二) 聖經ニハ我儕相互ニ又神ニ向テ我儕ノ罪ヲ言著ハスベキ
 ヲヲ教フト雖祭司ニ罪ヲ言著ハスベキヲ教ヘザル也、雅各五
 ノ十六ニ曰汝等互ニ過ヲ言著ハスベシ、第一約翰一ノ九ニ曰若
 シ己ノ罪ヲ言著ハサバ神ハ信實ナル義キ者ナルガ故ニ必ズ我
 儕ノ罪ヲ赦スベシ、馬太十一ノ二十八ニ曰凡テ勞レタル者又重
 ヲ負ヘル者ハ我ニ來レ、我汝等ヲ息マセン、前提摩二ノ五ニ曰夫
 レ神ハ一ナリ、又神ト人トノ間ニ一人ノ中保アリ即チ人ナルキ
 リストイエスナリ

(三) 聖經ニ於テハ羅馬教會ニ於テ主張スルガ如ク祭司ニ赦罪
 ノ權アルコトヲ説カズ、彼等ハ馬太十六ノ十九ニ我天國ノ鑰ヲ汝
 ニ予シ、汝ガ地ニ繫グコトハ天ニ於テモ繫ギ、汝ガ地ニ於テ釋ク
 ヲハ天ニ於テモ釋クベシトアリ(馬太十八ノ十八ヲ見ヨ)又約翰

二十ノ二十二、二十三ニ汝誰ノ罪ヲ赦ストモ其罪赦サレ誰ノ罪
 ヲ定ルトモ其罪定メラルベシトアルヲ以テ證據トス、然レ此
 等ノ本文ヲ以テ此論ノ證據トナスベカラズ、何トナレバキリス
 ト教ノ教師ハ祭司ニハ非レバ也、且縱令彼等ハ祭司タリトスル
 モ罪ヲ赦スハ神ノ行爲ニシテ人ノ行爲ニ非ズ、加之ナラズ此本
 文ニ於テ弟子等ニ予ヘラレタル權ハ唯神ガ罪ヲ赦ス理由ヲ宣
 告スルコト其宣告ト共三人ヲ教會ノ禮典ニ與ラシムルト與ラ
 シメザルトノ權ノミ

四 聖經ノ教ニ由レバ人ハ己ノ行ニ由テ其犯シタル神ノ律法
 ノ要求ヲ満足セシムルコト能ハザル也、之ヲ満足セシムルノ道唯
 一アリ、而シテ其満足ハ我儕ノ救主イエスキリストニ由テ一次
 ナサレタリ、希伯十ノ十ヨリ十四ニ曰此旨ニ適テ我儕ハ潔メラ
 ル、此ハイエスキリストノ一次己ガ肉體ヲ獻シニ由テナリ、諸ノ

祭司ハ日毎ニ立テ勤ヲナシ少カ罪ヲ除クコ能ハザル同犠牲ヲ
 屢々獻グ、然ド此人ハ一次罪ノ爲ニ一ノ犠牲ヲ獻テ窮ナク神ノ
 右ニ坐シ其敵ヲ足登トナサン時ヲ俟テリ、ソハ彼一ノ獻物ヲ以
 テ潔マル者ヲ窮ナク全フスレバ也、加之ナラズ若シ人ハ此ノ如
 キ満足ヲ爲シ得ルトセバ其救ヘ幾分カ自己ノ勤ノ結果ニシテ
 全クキリストニ由テ受ル者ニ非ズ、然レモ是ハ聖經ノ教ニ悖レ
 リ、例ヘバパウロガ以弗二ノ八ト九ニ汝恩ニ由テ救ヲ得是レ信
 仰ニ由テナリ己ニ由ルニ非ズ神ノ賜ナリ行ニ由ルニ非ズ此ノ
 如クナルハ誇ル者ナカラン爲ナリト云フガ如シ
 悔改ニ就テ羅馬教ノ唱フル所ノ此説ハ全ク無替有害ノ説ナリ
 何トナレバ(一)是レ神ノ言ニ悖ル(二)悔改ト其外面ニ顯ハレタル
 結果トヲ混淆ス(三)之ヲ人ノ功德トナセバ也

第二十三章 義トセララル、事

第一 聖經ノ詞ノ意義

聖經ニ於テ義ト云ヒ義トスルト云ヒ義トセララルト云フ詞アリ、之ヲ神ニ就テ用ヒタル時ハ其性徳ヲ指セル者ニシテ其律法ハ即チ其性徳ノ顯レナリ、例ヘバ行傳七ノ五十二ト二十二ノ十四ニ義者ト稱シ羅馬三ノ二十六ニイエスヲ信ズル者ヲ義トスルトモ尙自ラ義タラン爲ニ今其義ヲ顯ハサントスト云ヒ、第一約翰一ノ九ニ若シ己ノ罪ヲ言著ハサバ神ハ信實ナル義者ナルガ故ニ必ズ我儕ノ罪ヲ赦シ凡ノ不義ヨリ我儕ヲ潔ムベシトアルガ如シ、之ヲ人ニ就テ用ヒタル時ハ彼等ト神ノ律法トノ關係ヲ指セル者ニシテ主トシテ神ノ律法ニ全ク合フノ意義ナリ、而テ之ニ又二様ノ意義アリ

(一) 人ノ道德即チ彼等ノ言行ノ神ノ律法ニ合フ事又ハ合フベ

キヲ指ス、例ヘバ馬太五ノ六ニ曰饑渴ク如ク義ヲ慕フ者ハ福ナリ、又同章四十五ニ曰天ノ父ハ雨ヲ義キ者ニモ義カラザル者ニモ降セ給ヘリト云ヒ、羅馬六ノ十三ニ又汝ノ肢體ヲ不義ノ器トナシテ罪ニ獻ル勿レ、死ヨリ甦リシ者ノ如ク己ヲ神ニ獻ゲ、又肢體ヲ義ノ器トナシテ神ニ事フベシトアルガ如シ(馬太一ノ十九、路加二十三ノ五十ヲ見ヨ)

(二) 人ト神ノ律法トノ關係ヲ指ス、即チイエスキリストガ彼等ニ代テ律法ノ要求ヲ満足セシメタルガ故ニ立法者又審判者タル神ガ彼等自ラ之ヲ爲セルガ如ク見做シ給フ時ニ此詞ヲ用ヒ

我儕ガ此處ニ論窮スベキ所ハ即チ最後ノ意義ナリ、即チ次ノ如キ本文ニ含有セル聖經ノ眞理ヲ講究スベキナリ汝等モ一セノ律法ニ由テ義トセラシム、コ能ハザル凡ノ罪ニ信ズル者ハ皆彼

ニ由テ赦サレ義トセラル、ナリ(行傳十三ノ三十九)律法ノ行ニ由テ神ノ前ニ義トセラル、者一人ダニ有ルヲナシ云々、只イエスキリストノ贖ニ由テ神ノ恩ヲ受ケ功ナクシテ義トセラル、ナリ云々、人ノ義トセラル、ハ信仰ニ由テ律法ノ行ニ非ズ(羅馬三ノ二十、二十四、二十八)一人ノ逆ニ由テ多ク罪人トセラレン如ク一人ノ順ニ由テ多ク義トセラルベシ(羅馬五ノ十九)凡テ信ズル者ノ義トセラレン爲ニキリストハ律法ノ終トナレリ(羅馬十ノ四)信仰ニ由レル義ハ云々(羅馬十ノ六)(羅馬一ノ十七、八ノ三十ト三十三、前哥林一ノ三十ト六ノ十一、後哥林五ノ二十一、加拉二ノ十六ヲ見ヨ)使徒パウロハ羅馬三ノ十九ヨリ三十一ニ義トセラル、事ヲ明白ニ論ジタリ、讀者ハ宜シク之ヲ研究シテ可ナリ

第二 義トセラル、事ノ性質

義トセラル、事トハ神ガ審判者トシテ爲シ給フ事ニシテ神ハ之ニ由テ凡テ我儕ノ罪ヲ赦シ己ノ前ニ在テ我儕ヲ義者ト爲シ給フガ故ニ我儕ハ最早其律法ノ罪ヲ蒙ラズ反テ其恩寵ニ復スル事ナリ、是レ即チ我儕キリストニ一^致シテ其義我儕ニ歸セラレ信仰ニ由テ之ヲ受レバ也

義トセラル、事ハ神ガ審判者トシテ爲シ給フ事ニシテ罪ニ定ムル事ノ反對ナリ、是レ我儕ノ既ニ舉述シタル所ノ本文ニ由テ明ニシテ聖經ニモ又其明文アリ、箴言十七ノ十五ニ曰惡者ヲ義トシ義者ヲ惡トナス、此二者ハエホバニ憎マル、羅馬八ノ一ニ曰是故ニイエスキリストニアル者ハ罪セラル、コナシ(復傳二十五ノ一、羅馬八ノ三十三、三十四ヲ見ヨ)

義トスル事ト罪ニ定ル事トハ同シク審判者ノ所爲ニシテ彼之ニ由テ人ト律法トノ關係ヲ宣告スルナリ、罪ニ定ルハ人ヲ罪人

ト爲スニ非ズ、其罪人ナル事ヲ宣告スル耳、義トスル事モ亦人ヲ義人ト爲スニ非ズ只之ヲ義人ナリト宣告スル耳、人間ノ裁判所ニ於テハ或ハ無罪ノ人ヲ有罪ト定ルコアリ、或ハ有罪者ヲ無罪ト定ルコナキニ非ズ、然レモ無罪ナル者ハ尙無罪ニシテ有罪ナル者ハ有罪タル事其前ト異ナルコナシ、此ノ如ク神ノ此審判的ノ行爲ニ由テモ罪人ノ性質ハ變ズルコナシ、唯彼ト神ノ律法トノ關係ヲ變ズル耳、蓋人間ノ裁判所ニ於テ有罪者ノ無罪ト定メラル、コアルハ即チ失錯若クハ詐僞ニ由テ然ルナリ、然レモ神ニ於テ失錯アルベカラズ、神ハ常ニ真理ニ由テ審判スルガ故ニ(羅馬二ノ二)此詞ハ即チ十分ノ理由アリテ義トセラル、者ノミニ就テ用フベキ者ナリ

罪人ノ罪ニ定メラル、理由ハ明白ナリ、即チ神ノ律法ヲ犯シタルガ故ナリ、而シテ凡人皆神ノ律法ヲ犯シタルガ故ニ一人モ

義トセラル、者即チ自ラ神ノ律法ヲ完全ニ守リタルガ故ニ無
 罪ト爲セラル、者アラズ、苟モ罪人ノ義トセラル、コアラバ何
 レカ其他ノ理由ナクンバアルベカラズ、神ハ義シキ天地ノ主宰
 トレテ凡テ其律法ヲ犯ス者ハ之ヲ罰スルノ權理アリ、然シテ神
 ハ慈愛ヲ以テ更ニ人ノ義トセラルベキ道ヲ開給フト雖之ト同
 時ニ眞實公義ノ永遠不變ナル聖徳ヲ維持セザルヲ得ズ、凡テ律
 法ノ要求スル所ハ之ガ満足ヲ與ヘザルベカラズ、夫レ義トセラ
 ル、事ハ罪人ヲ義人ト宣告スル所ノ神ノ審判的ノ所爲ナルガ
 故ニ義人トセラル、前ニ當テ自己ノ義ヲ有スルカ若クハ他人
 ノ義ヲ有セザルベカラザルコト明白ナリ、然レモ罪人ハ一人モ自
 己ノ義アル者ナキガ故ニ義人トセラレント欲セバ則チ他人ノ
 義ヲ享ザルベカラズ、而シテ其義ハ即チキリストノ義ナリ、神ノ
 恩恵ニ由テ罪人が更生シ而シテキリストト一致シテ新シキ生

命ヲ受ル時ハ彼直ニ義トセラル、即チ其罪赦サレ神ノ前ニ義人
 トレテ嘉納セラル、是レ彼ニ賜ハリ彼ガ信仰ニ由テ受ル所ノ義
 ニ由テ然ル也
 義トセラル、事ニ二ノ要素アリ、即チ罪ノ赦ト神ノ恩恵ニ復ス
 ル事是レ也

一 神ハ恩恵ニ由テ罪人ヲ赦シ給フ、即チキリストヲ信ズル者
 ノ罰ヲ免レ給フ也、神ハ彼等ヲ罪ナシト言ハズ、何トナレバ彼等
 ハ罪ナキニ非ズ、但彼等ハ既ニ罰ヲ免レタリト宣告スル耳、何ト
 ナレバ律法ノ要求スル所ハ彼ニ對シテ既ニ満足セラレタレバ
 也、行傳十三ノ三十八、三十九ニ曰然レバ人々兄弟ヨ、此人ニ由テ
 罪ノ赦ノ汝等ニ傳ハレルヲ知レ、汝等モ一セノ律法ニ由テ義ト
 セラル、コト能ハザル凡ノ罪モ信ズル者ハ皆彼ニ由テ赦サレ義
 トセラル、也、羅馬四ノ五ニ曰然ト働ナキ者モ不義ナル者ヲ義

トスル神ヲ信シテ其信仰ヲ義トセラレタリ
 義トセラル、事ハ唯ニ改心前ニ犯シタル罪ノミナラズ凡テ生
 涯中ノ罪ヲモ包含スルナリ、未ダ其罪ヲ犯ササルニ之ヲ赦スト
 云フハ自語相違ノ如シ、蓋赦罪トハ罪ノ罰ヲ免ル、コナリ、然ル
 ニ如何ニシテ未ダ犯ササルノ罪ノ罰ヲ免スベケンヤト問フ者
 アラン
 然レモ此困難ハ眞實ヨリハ寧ロ皮想ノ困難ナリ、蓋信者ハキリ
 ストト一致スルガ故ニ其生命ハキリストノ生命ニ由テ支配セ
 ラル、也、加拉二ノ二十ニ曰我キリストト共ニ十字架ニ釘ラレ
 タリ、最早我生ルニ非ズ、キリスト我ニ在テ生ル也、今我肉體ニ在
 テ生ルハ我ヲ愛シテ我が爲ニ己ヲ捨シ者即チ神ノ子ヲ信ズル
 ニ由テ生ル也ト、神ガ罪人ヲ義トスル時ハ其罪人ノ生涯ノ事ヲ
 目前ニ置キ而シテ其能ク潔ムベキ者タル事ト必ズ之ヲ潔ルコ

ト先見ノ給フナリ、人ノ心裏ニ在ル所ノキリストノ生命ハ凡テ
 殘餘ノ罪ノ惡ヲ除キ其全性ヲ神ノ聖潔ニ化セシムルノ能力ア
 リ、腓立三ノ二十一ニ曰彼ハ萬物ヲ己ニ服ハセ得ル能ニ由テ我
 儕ガ卑キ體ヲ化テ其榮光ノ體ニ象ラシムベシト云フ、
 二、義トセラル、事ハ唯罪ノ赦ノミナラズ神ノ恩惠ニ復スル
 事ヲ含有ス、其罪人ト律法トノ關係ニ就テハ神ハ審判者トシテ
 彼ヲ全ク義キ者ト做シ而シテ律法ヲ全ク守ル者ニ約束セラレ
 タル報賞ヲ彼ニ與ヘ給フ、羅馬五ノ一、二ニ曰是故ニ我儕信仰ニ
 由テ義トセラレタレバ神ト和グコヲ得タリ、此ハ我が主イエス
 キリストニ頼テナリ、又我儕彼ニヨリ信仰ニ由テ今居ル所ノ恩
 ニ入ルコヲ得、且神ノ榮ヲ望ミテ欣喜ヲ爲ス、提多三ノ六ニ曰我
 儕ヲ其恩ニ由リ義トセラレ嗣子タルヲ得テ窮ナキ生命ヲ望ミ
 云々

神ハ惡人ヲ其惡ナル儘ニ義トスルニ非ズ、唯其キリストト一致
 スルガ故ナリ、神ガ之ヲ義トスルコト得ルハ其義トセラルル前
 ニ更生シ且其後潔メラルル、コトアルガ故ナリ、我儕宜シク之ヲ
 注意スベキ也

第三義トセラルル、事ト潔メラルル、事ノ區別ハ、事ト云ハ義トセ
 既ニ義トセラルル、事ト神ヲ審判的ノ行爲ナリト云ハ義トセ
 ラル、事ト潔メラルル、事ノ區別ハ自ラ判然タリ、固ヨリ神ノ義
 トスル所ノ者ハ必ズ又潔メラルルベシ、然レモ此ニテ詞ハ神ノ二
 ノ殊別ナル行爲ヲ示ス者ナリ

一、義トセラルル、ハ即時ノ行爲ニシテ罪人ノ信ズルト同時ニ
 終ルナリ、然レモ潔メラルル、事ト生涯ノ行爲ナリ、義トセラルル
 事ト前ニシテ潔メラルル、事ト之ニ從フナリ

二、義トセラルル、事ト全ク罪人ノ身外ニアリ、潔メラルル、事ト

神ヲ靈ガ其心明中ニシテ爲ス働ナリ

三、義トセラルル、事ト於テハ罪人罰ヲ免レ而シテ神ノ恩惠ニ
 復ス、潔メラルル、事ト於テハ罪ノ權能ト汚穢トヲ免カレテ神ト
 交ルニ適當シタル者トナリ

四、義トセラルル、事トハキリストガ我儕ニ代テ行ヒタル所ノ事
 ニ基キ、潔メラルル、事トハキリストノ靈ガ我儕ノ心ノ中ニ在テ働
 ク所ノ結果ナリ、此レ如ク義トセラルル、事トハ潔メラルル、事トハ
 相同シカラズト雖又決シテ之ヲ分離スベカラズ、其ニアレバ必
 受其他ノ罪モ借ナルベシ、羅馬八ノ三十二曰義トシタル者ハ之
 ニ榮ヲ賜ヘリ、前彼得二ノ二十四曰彼木ノ上ニ懸テ我儕ノ罪
 ヲ自ラ己ガ身ニ任給ヘリ、是レ我儕ヲシテ罪ニ死テ義ニ生シメ
 シガ爲ナリ

第四義トセラルル、事ト理由

義トセラル、事ノ性質ニ由テ考フルニ律法ノ要求ヲ全ク満足
 セシムル所ノ義アルニ非レバ義トセラル、事アルベカラズ、既
 ニ論シタルガ如ク人ハ其道德上ニ就テ義ナリト云フコトヲ得ベ
 ク又律法トノ關係ノ上ニ就テ義ナリト云フコトヲ得ベシ、然レモ
 聖經ハ天下ニ一人モ其道德ノ義ナル者ナシト云ヘリ、傳道書七
 章二十ニ曰義クシテ善ヲ行ヒ罪ヲ犯スコトナキ人ハ世ニアルコ
 ナシ、羅馬三ノ十二曰義人ナシ、一人モアルナシト、キリスト信徒
 ト雖尙全ク罪ヲ脱スルコト能ハザルヲ知ル、然ラバ則チ若シ義ト
 セラル、者アラバ自己ノ義ニ非ズシテ他人ノ義ニ由ラザルベ
 カラザルコトハ明白ナリ、其義ハ即チ神ヨリ與ヘラレ之ニ由テ律
 法ノ罰ヲ免レ其報賞ヲ受ル所ノ義ナリ、義トセラル、コトハ至智
 至聖ノ神ガ律法ハ満足セリト宣告シ給フ事ナリ、夫レ律法ハ之
 ヲ立タル神ト同シク永遠變ズベカラザル者ニシテ完全ノ義人

アリテ全ク其誠ヲ守リ其罰ヲ受ルニ非レバ満足スルコト能ハズ、
 而シテ此完全ナル義ハ即チキリストガ我儕ニ代テ律法ノ誠ヲ
 守リ其罰ヲ受タル時ニ我儕ガ爲ニ購得タル所ノ者ナリ、羅馬五
 ノ九ト十九ニ曰今其血ニ賴テ我儕義トセラレタレバ况シテ彼
 ニ由テ怒ヨリ救ハル、コトナカラシヤ云々、夫レ一人ノ逆ニ由テ
 多ク罪人トセラレシ如ク一人ノ順ニ由テ多ク義トセラルベシ、
 羅馬十ノ四ニ曰凡テ信ズル者ノ義トセラレン爲ニキリストハ
 律法ノ終トナレリ、腓立三ノ九三曰是レキリストヲ獲且信仰ニ
 基キテ神ヨリ出ル義即チ律法ニ由レル己ガ義ニ非ズキリスト
 ヲ信ズルニ由ル所ノ義ヲ有テキリストニ居リ云々(羅馬三ノ二
 十四、八、一、前哥林二ノ三十、六ノ十二、後哥林五ノ二十一ヲ見ヨ)
 夫レ律法ハ義務ノ法則ナリ、故ニ若シ之ヲ犯セバ則チ罰アルコ
 トヲ含ム者ナリ、